

令和6(2024)年度

事業報告書



学校法人 岩手医科大学

目 次

I 法人の概要

1. 建学の精神	1
2. 法人の沿革	2
3. 設置する学校	3
4. 入学定員数・収容定員数・現員数	3
5. 理事会・評議員会の開催状況	3
6. 役員等の概要	3
7. 諸規程の主な改正等	5
8. 主な事業の概要	7
9. 主な行事等	54
10. 土地の増減	57
11. 建物等の増減	57
12. 取得した主な機器備品等	58
13. 国庫補助金および地方公共団体等からの補助金等	59

II 人事の概要

1. 主な役職人事	61
2. 主な教職員人事	61
3. 教職員総数	61

III 学事の概要

1. 入学者、卒業（修了）者数	62
2. 学位授与者数	62
3. 文部科学省科学研究費助成事業	62
4. 厚生労働科学研究費補助金	66
5. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）	67
6. その他公的機関受託研究等	68
7. 解剖体慰霊祭および解剖体数	69
8. 白寿会員数	69
9. 海外出張者数	69
10. 国家試験成績	69

IV 附属病院の概要

1. 患者数	70
2. 救急患者取扱件数	70
3. 分娩件数	70
4. アイバンク登録者数	70
5. 手術件数および死亡者数	70

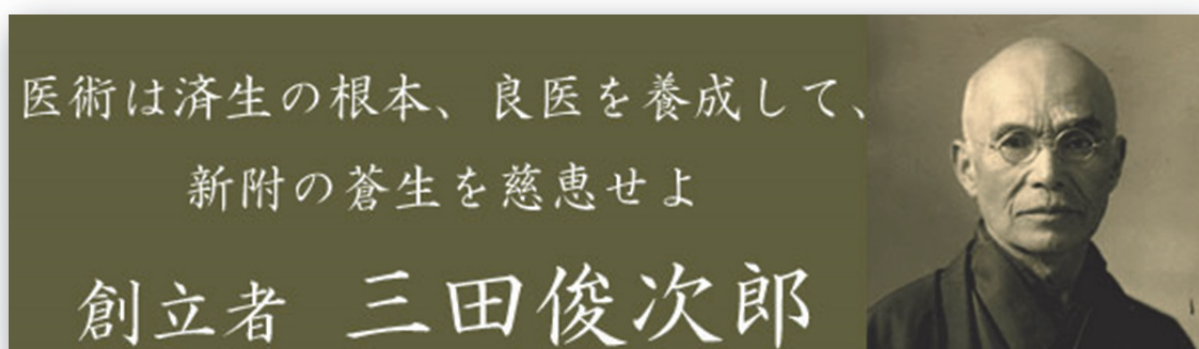
V 財務の概要

1. 事業活動収支	71
2. 資本収支	73
3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	74
4. 令和6年度事業活動収支計算書	75
5. 令和6年度資金収支計算書	76
6. 貸借対照表	77
7. 医療収入内訳	78
8. 令和6年度事業活動収支構成比率	79
9. 令和6年度教育活動収支構成比率	80
10. 経年比較	81
11. 参考：学校法人会計の特徴について	88

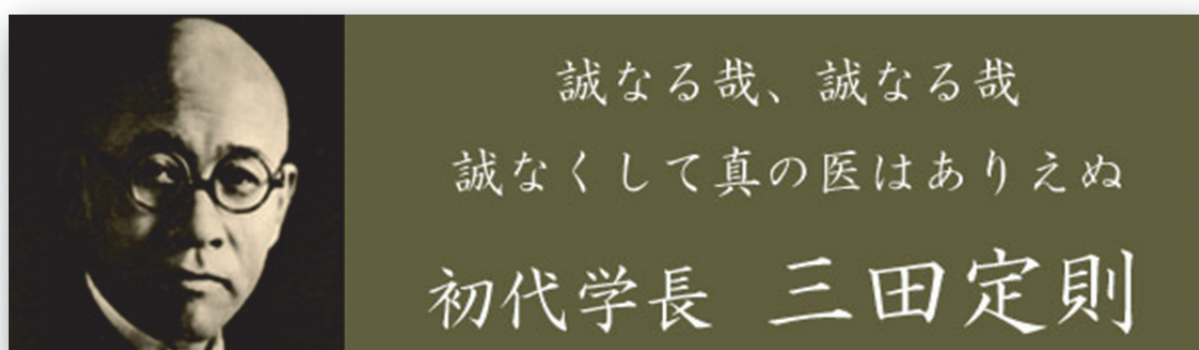
I 法人の概要

1. 建学の精神

本学の目的は、医学教育、歯学教育、薬学教育及び看護学教育を通じて誠の人間を育成するにある。すなわち、まず人としての教養を高め、十分な知識と技術とを修得させ、更に進んでは専門の学理を究め、実地の修練を積み、出では力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献させること、これが本学の使命とする所である。【岩手医科大学学則 第1章・第1条】



西欧化の荒波が押し寄せる中、明治新政府の医療施策は定まらず、岩手県では医療機関が長期に亘り途絶える等、県民の医療は困窮を極めていました。これを憂いた三田俊次郎は、私財を投じて私立岩手病院を設立、同時に医師、看護婦、産婆の養成に努めました。自らは勤儉力行に徹する一方、幾多の社会福祉事業、育英事業を興し、生涯を弱者救済と人材育成に捧げました。



俊次郎の限りない人類愛を受け継ぎ、岩手医学専門学校第2代校長となった定則は、戦後の学制改革に際し陣頭指揮を執って大学昇格を果たし、初代学長に就任しました。温厚にして飾らず、誰に対しても敬と愛をもって接した定則は「医師たらんとする者は先ず人間であらねばならぬ」を持論とし、人類の理想に「誠」を掲げました。

俊次郎と定則の精神は、私立学校法改正に伴う学校法人岩手医科大学への組織変更に際し、新制岩手医科大学学則に高らかに謳われ、今日まで脈々と受け継がれています。

2. 法人の沿革

明治30年	私立岩手病院開院 医学講習所・産婆看護婦養成所併設	平成19年	矢巾キャンパス第一次事業竣工 薬学部・共通教育センター開設
明治34年	私立岩手医学校設立認可	平成21年	附属病院に循環器医療センターを開設 (附属循環器医療センターを統合)
大正15年	岩手病院診療棟(現一号館)竣工	平成22年	超高磁場先端MRI研究所竣工 附属PET・リニアック先端医療センター開設
昭和3年	財団法人岩手医学専門学校設立認可	平成23年	矢巾キャンパス第二次事業竣工 医学部・歯学部基礎講座統合 共同研究部門を医歯薬総合研究所に改組 歯科技工専門学校・歯科衛生専門学校を統合し、 岩手医科大学医療専門学校へ名称変更
昭和22年	財団法人岩手医科大学に組織変更	平成24年	附属病院ドクターヘリ基地ヘリポート竣工
昭和23年	医学部医学科開設	平成25年	大学院薬学研究科開設 災害時地域医療支援教育センター・ マルチメディア教育研究棟竣工
昭和26年	学校法人岩手医科大学に組織変更	平成26年	共通教育センターを全学教育推進機構に改組
昭和27年	新制岩手医科大学発足	平成28年	岩手看護短期大学開設 矢巾キャンパスにエネルギーセンター竣工 附属病院にPET・リニアック先端医療センターを開設 (附属PET・リニアック先端医療センターを統合)
昭和30年	医学進学課程設置	平成29年	看護学部開設
昭和35年	大学院医学研究科博士課程開設	平成30年	矢巾キャンパスにやはばなかよし保育園竣工
昭和40年	歯学部、教養部開設	平成31年	附属花巻温泉病院閉院
昭和41年	岩手歯科技工士学校開設	令和元年	矢巾キャンパスに新附属病院竣工 法人及び大学の本部を矢巾キャンパスに変更 矢巾キャンパスに附属病院を移転 内丸キャンパスに附属内丸メディカルセンターを開院
昭和42年	歯学部附属病院開院		
昭和47年	記念図書館竣工		
昭和51年	岩手歯科技工士学校を 岩手歯科技工専門学校に名称変更		
昭和55年	岩手県と共同で岩手県高次救急センター開設 [現 岩手県高度救命救急センター]		
昭和58年	大学院歯学研究科博士課程開設		
平成2年	サイクロترونセンター開設		
平成5年	附属花巻温泉病院開院		
平成6年	岩手医科大学附属病院に特定機能病院の承認		
平成9年	創立六十周年記念館竣工 附属循環器医療センター開院		
平成12年	超高磁場MRI研究施設竣工 木の花会館竣工		
平成16年	岩手医科大学歯科衛生専門学校開校 岩手歯科技工専門学校を 岩手医科大学歯科技工専門学校に名称変更 大学院医学研究科修士課程開設	令和2年	岩手看護短期大学閉学 岩手医科大学医療専門学校歯科技工学科閉科
平成17年	附属病院に歯科医療センターを開設 (歯学部附属病院を統合)	令和3年	矢巾キャンパスにResident Heim (レジデントハイム) を竣工
		令和4年	矢巾キャンパスに感染症対策センターを竣工

3. 設置する学校

- (1) 岩手医科大学
- | | | | |
|-----|-------|------|------|
| 大学院 | 医学研究科 | 医学部 | 医学科 |
| | 歯学研究科 | 歯学部 | 歯学科 |
| | 薬学研究科 | 薬学部 | 薬学科 |
| | | 看護学部 | 看護学科 |
- (2) 岩手医科大学医療専門学校 歯科衛生専門課程（3年制）

4. 入学定員数・収容定員数・現員数（令和6年5月1日現在）

学 校	学部・学科等	入学定員数	収容定員数	現員数
①岩手医科大学	大学院医学研究科 博士課程	50 名	200 名	101 名
	修士課程	10 名	20 名	18 名
	大学院歯学研究科 博士課程	18 名	72 名	26 名
	大学院薬学研究科 博士課程	3 名	12 名	3 名
	医学部 医学科	130 名	769 名	800 名
	歯学部 歯学科	73 名	438 名	242 名
	薬学部 薬学科	50 名	530 名	257 名
	看護学部 看護学科	90 名 編入学 5 名	370 名	365 名
②岩手医科大学 医療専門学校	歯科衛生専門課程	40 名	120 名	86 名

5. 理事会・評議員会の開催状況

理事会は定例を 11 回、評議員会は定例を 2 回、臨時を 1 回開催しました。

6. 役員等の概要

- (1) 役員等の定員数、現員数、氏名等（令和7年3月31日現在）

①理 事

定員数：7人以上13人以内 現員数：13人

理事長 祖父江 憲 治（常 勤）

理 事	小笠原 邦 昭（常 勤）	酒 井 明 夫（常 勤）	下 沖 収（常 勤）
	三 田 ひろみ（非常勤）	三 田 義 之（非常勤）	高 橋 真 裕（非常勤）
	仲 哲 治（常 勤）	佐々木 真 理（常 勤）	小 林 琢 也（常 勤）
	河 野 富 一（常 勤）	遠 藤 太（常 勤）	森 野 禎 浩（常 勤）

I 法人の概要

②監 事

定員数：2人以上3人以内 現員数：2人

池田 克典（非常勤） 小野寺 正二（非常勤）

③評議員

定員数：27人以上38人以内 現員数：28人

祖父江 憲 治	小笠原 邦 昭	三 浦 廣 行	河 嶋 寛
佐々木 真 理	小 原 紀 彰	佐 藤 保	加 藤 章 信
小 林 琢 也	松 政 正 俊	河 野 富 一	佐 藤 和 朗
遠 藤 太	山 本 和 博	佐 藤 悦 子	森 野 禎 浩
高 橋 真 裕	三 田 ひろみ	三 田 義 之	酒 井 明 夫
三 上 藤 雄	下 沖 収	三 浦 幸 枝	小 澤 正 吾
菊 池 進	斎 藤 和 好	嶋 森 好 子	高 橋 耕

(2) 役員等の異動

①理事長

（再 任） 祖父江 憲 治（令和6年4月1日付）

②理 事

（条項変更） 小笠原 邦 昭（寄附行為第7条第1項第1号理事 令和6年4月1日付）

（条項変更） 祖父江 憲 治（寄附行為第7条第1項第4号理事 令和6年4月1日付）

（新 任） 遠 藤 太（寄附行為第7条第1項第5号理事 令和6年4月1日付）

（新 任） 森 野 禎 浩（寄附行為第7条第1項第5号理事 令和6年8月1日付）

（新 任） 下 沖 収（寄附行為第7条第1項第2号理事 令和7年3月31日付）

（新 任） 仲 哲 治（寄附行為第7条第1項第5号理事 令和7年3月31日付）

（退 任） 酒 井 明 夫（寄附行為第7条第1項第2号理事 令和7年3月31日付）

（退 任） 佐々木 真 理（寄附行為第7条第1項第5号理事 令和7年3月31日付）

③監 事

（退 任） 小野寺 勲（令和6年7月31日付）

（再 任） 池 田 克 典（令和6年8月1日付）

（新 任） 小野寺 正 二（令和6年8月1日付）

④評議員

（新 任） 森 野 禎 浩（寄附行為第19条第2項第4号評議員 令和6年8月1日付）

（退 任） 後 藤 康 文（寄附行為第19条第2項第6号評議員 令和6年11月18日付）

（退 任） 酒 井 明 夫（寄附行為第19条第2項第5号評議員 令和7年3月31日付）

(3) 責任免除・責任限定契約の状況

私立学校法及び寄附行為に従い、令和2年4月1日から責任限定契約を締結している。

①対象役員の氏名

・非業務執行理事*：三田 ひろみ、三田 義之、高橋 真裕

・監 事：小野寺 勲、池田 克典、小野寺 正二

※非業務執行理事とは、理事長、常務理事、業務を執行したその他の理事又は法人の職員でない理事をいう。

②契約内容の概要

当該役員がその任務を怠ったことにより学校法人に損害を与えた場合において、その職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、私立学校法施行規則第3条の3に定める方法により算定される額に2を乗じて得た額（責任限度額）を限度として損害賠償責任を負うものとしている。

③契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置

契約において、当該役員がその職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときに責任を限定することを明確にしている。

7. 諸規程の主な改正等

（1）内丸メディカルセンター規程の一部改正（令和6年4月30日改正、令和6年5月1日施行）

全身性、臓器特異的自己免疫疾患の診療を組織横断的に行う臨床免疫センターを設置

（2）岩手医科大学大学院授業料減免規程の一部改正（令和6年5月27日改正、令和6年6月1日施行）

秋季入学者に対応した文言の修正及び申請方法の変更

（3）歯学部と薬学部の特待生規程及び同窓生学納金減免規程の制定（令和6年6月24日改正、令和6年11月1日施行）

①歯学部特待生規程、薬学部特待生規程の制定：歯学部においては地域医療の貢献に資する人材の育成を、薬学部においては同学部の発展に資することを目的とし、入学試験合格者の内、極めて優秀な成績を有する者に対し、学納金の一部を減免する特待生制度を制定

②歯学部同窓生学納金減免規程、薬学部同窓生学納金減免規程の制定：学費負担者の経済的負担の軽減を図ることを目的とし、本学同窓会（圭陵会）正会員の親族が歯学部又は薬学部に入学者の場合の学納金減免制度を制定

（4）附属病院規程の一部改正（令和6年6月24日改正・施行、令和6年6月1日適用）

附属病院に小児緩和ケアチーム室及び身体的拘束最小化チーム室を設置

（5）附属病院規程及び内丸メディカルセンター規程の一部改正（令和6年7月29日改正、令和6年8月1日施行）

①附属病院のチーム医療部内に透析予防診療チーム室を設置

②内丸メディカルセンターにおいて多職種連携を推進し、医療の質を向上させることを目的として、新たにチーム医療部を創設し、同部内に透析予防診療チーム室を設置

（6）附属病院規程及び内丸メディカルセンター規程の一部改正（令和6年9月30日改正、令和6年10月1日施行）

①両病院の臨床検査科を臨床検査・感染症科に名称変更

②附属病院における経営改善の一環として、集中治療系病棟を再編、一部の特殊診療部門におけるセンター長の選考者及び任命権者を規定、チーム医療部内に成育連携チーム室を設置

③内丸メディカルセンターのチーム医療部内に褥瘡対策チーム室及び身体的拘束最小化チーム室を明記

（7）岩手医科大学医療専門学校学則の一部改正（令和6年9月30日改正、令和7年4月1日施行）

履修単位の適正化を図るため、教育課程を再編

- (8) 経営改善委員会規程の一部改正（令和6年9月30日改正、令和6年8月1日施行）
経営改善委員会の組織・委員構成を一部改編
- (9) 寄附行為の変更（令和6年10月28日改正（令和7年1月27日変更認可、令和7年4月1日施行））
令和7年4月1日から改正私立学校法が施行されることに伴う法対応等
- (10) 歯学部学業奨励奨学金規程の一部改正（令和6年12月16日改正、令和7年4月1日施行）
歯学部特待生規程及び歯学部同窓生学納金減免規程の適用に伴う関係規定の整理
- (11) 薬学部入学試験優秀者奨励奨学金規程の廃止（令和6年12月31日廃止）及び薬学部学業奨励奨学金規程等の一部改正（令和6年12月16日改正、令和7年4月1日施行）
薬学部特待生規程及び薬学部同窓生学納金減免規程の適用に伴う薬学部入学試験優秀者奨励奨学金規程の廃止並びに薬学部学業奨励奨学金規程及び薬学部育英奨学金規程の関係規定の整理
- (12) 岩手医科大学学則の一部改正（令和6年12月16日改正、令和7年4月1日施行）
令和7年度の医学部入学定員等について、従前と同様に35名（岩手県地域枠）の臨時定員増が認可されたことに伴う学生定員の変更
- (13) 私立学校法等の改正に伴う諸規程の一部改正（令和7年3月24日改正、令和7年4月1日施行）
①寄附行為施行細則、運営会議規程の一部改正：寄附行為との整合を図るための関係規定の整理等
②役員報酬等の支給基準の一部改正：評議員に対する報酬等の基準を追加し、改正後の名称を役員及び評議員報酬等の支給基準に変更
③監事監査規程の一部改正：監事会の設置及び補助事務員の配置等、監事の監査業務の適正性を確保するための体制整備
- (14) 公益通報者の保護等に関する規程の一部改正（令和7年3月24日改正、令和7年4月1日施行）
通報手段及び届出様式を変更
- (15) 就業規則等の一部改正（令和7年3月24日改正、令和7年4月1日施行）
①職員就業規則の一部改正：休暇の取扱期間を年度単位に変更、生理休暇の表現の見直し及び法規基準に基づく整備等
②職員の育児休業等に関する規程の一部改正：育児休業延長要件の一部変更、改正育児・介護休業法に基づき、所定外労働の制限（残業免除）の対象を拡大
③リフレッシュ休暇取扱規程の一部改正：リフレッシュ休暇の取扱期間を年度単位に変更
④臨時職員就業規則の一部改正：採用時の提出書類の整備、職員の定年年齢の改正に伴う無期転換後の定年年齢の改正等
⑤専門研修医就業規則の一部改正：懲戒処分の審議機関に附属病院運営会議を追加
- (16) 岩手医科大学学則の一部改正（令和7年3月24日改正、令和7年4月1日施行）
各学部における令和7年度教育課程を再編
- (17) 組織規程の一部改正（令和7年3月24日改正、令和7年4月1日施行）
①教養教育センター情報科学科の医用工学分野を医学統計情報学分野に名称変更
②監事監査規程の改正に伴う監事室の新設及び内部監査室に関する規定整備
- (18) 附属病院規程の一部改正（令和7年3月24日改正、令和7年4月1日施行）
附属病院の医療の質・安全管理部門に医療の質管理部を設置

8. 主な事業の概要

(1) Vision2020-2024 学校法人岩手医科大学中期計画の実施状況

本法人は、私立大学における経営環境が一層厳しさを増す中、安定的な運営を行い、使命を果たしていくため、「Vision2020-2024 学校法人岩手医科大学中期計画」（以下、第1期中期計画）を策定し、必要に応じて計画の見直しを行い、事業の適切な推進に努めてきました。

2020年度から2024年度の5か年に渡り第1期中期計画を実施した結果、全160事業中、「計画どおり達成した」は120事業（75.0%）、「一部達成した」は28事業（17.5%）、「達成しなかった」は12事業（7.5%）となり、概ね計画通り実施されました。

達成しなかった主な理由としては、大学の財政状況を鑑み実施を見送りとしたことが挙げられます。

[検証結果] 中期計画（全160事業）

※基準日 2025年3月31日

区 分	事業数	達成状況	事業数	割合%
(I) 創立120周年記念事業関係	8事業	【ア】計画どおり達成した	3	37.5%
		【イ】一部達成した	0	0.0%
		【ウ】達成しなかった	5	62.5%
(II) 教育・研究関係	84事業	【ア】計画どおり達成した	62	73.8%
		【イ】一部達成した	19	22.6%
		【ウ】達成しなかった	3	3.6%
(III) 補助事業及び委託事業関係	12事業	【ア】計画どおり達成した	11	91.7%
		【イ】一部達成した	1	8.3%
		【ウ】達成しなかった	0	0.0%
(IV) 診療関係	17事業	【ア】計画どおり達成した	14	82.4%
		【イ】一部達成した	3	17.6%
		【ウ】達成しなかった	0	0.0%
(V) 管理運営関係	25事業	【ア】計画どおり達成した	22	88.0%
		【イ】一部達成した	1	4.0%
		【ウ】達成しなかった	2	8.0%
(VI) 施設設備関係	14事業	【ア】計画どおり達成した	8	57.1%
		【イ】一部達成した	4	28.6%
		【ウ】達成しなかった	2	14.3%
合 計	160事業	【ア】計画どおり達成した	120	75.0%
		【イ】一部達成した	28	17.5%
		【ウ】達成しなかった	12	7.5%

I 法人の概要

(I) 創立 120 周年記念事業関係

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
内丸メディカルセンター（内丸 MC）新棟建設計画（仮称）の推進			
①	大学財政状況等の 検証及び計画検討・ 矢巾内丸病院機能の あり方検討	毎年度、財政状況の検証並びに病院機能のあり方について検討を継続しましたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延や世界情勢の変化に伴う物価高騰等の影響による財政状況の悪化が著しく、予定していた計画を 4 年間延期、併せて、同事業資金の積立（毎年度 20 億円）も停止しましたが、財政状況改善の見通しが立たず、積立の再開と継続は困難であることから、内丸地区整備事業は 2023 年度末をもって中止することとしました。	【ウ】 達成 しなかった
②	歯学部移設計画・ 内丸 MC 入院棟 改修計画		
③	内丸 MC 入院棟立体 駐車場解体・エネル ギーセンター新築		
④	歯学部機能移設・ 内丸 MC 入院棟 改修工事		
⑤	内丸 MC 新棟 基本計画・基本 設計・実施設計		
内丸地区跡地活用計画の検討の推進			
①	内丸地区跡地活用 計画の検討の推進	内丸地区跡地活用の検討に当たっては、2016 年から岩手県、盛岡市、盛岡商工会議所、本学の四者で毎年度情報共有を行いながら、計画の立案・策定に向け検討を継続し、2021 年には盛岡市において内丸周辺の関係機関による意見交換の内容を踏まえ「内丸地区将来ビジョン」が策定されました。 その後、具体的な事業内容について、関係機関や市民、有識者等と広く意見交換を重ねながら（仮称）内丸プランを策定する検討が盛岡市により進められており、本学においても情報収集を行いつつ、足並みを合わせながら検討を進めることとしています。	【ア】 計画どおり 達成した
事業活動資金の確保に向けた募金活動の継続実施			
①	広範にわたる募金 活動の展開 （募金パンフレット の作成・送付、 ホームページ更新）	【創立 120 周年記念事業募金】 内丸メディカルセンター新棟建設計画（仮称）の延期と中止に伴い、募金パンフレットの送付等はいりませんでした。継続的に受け入れを行った結果、5 年間で約 4.5 億円の賛同を得ました。本募金は 2023 年度末で終了しています。 【岩手医科大学学術振興資金募金】 ホームページの整備や募金パンフレットの作成・送付等、新たに募金活動を展開した結果、5 年間で約 13 億円の賛同を得ました。	【ア】 計画どおり 達成した

中期計画	実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
事業活動資金の確保に向けた募金活動の継続実施		
② 顕彰活動の継続実施 (表彰、記念品贈呈 寄付者銘板の作成)	感謝状や記念品の贈呈の他、Web 芳名録の更新や大学報での芳名紹介等の顕彰活動を展開しました。	【ア】 計画どおり 達成した

(Ⅱ) 教育・研究関係

中期計画	実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
大学院医学研究科における教育課程の充実		
① ICT の充実	社会人大学院生などの多様なニーズに応えるために整備した講義配信システムは、コロナ禍において多くの学生に必須な受講スタイルとして定着しました。 2020 年度には、耐用年数の経過のため、講義配信システムの更新を行い、その後も適切な維持管理を行っています。 また、大学院講義の配信の他にも研修会等の動画配信にも活用しており、引き続き適切な運用管理に努めます。	【ア】 計画どおり 達成した
② 教員研修の積極的な実施	医歯薬の 3 研究科合同による FD を毎年継続的に開催し、多くの教員及び大学院生の参加者を得て、教職員の能力向上に努めています。 また、医学研究科博士課程の共通教育科目「橋渡し研究・産学連携概論」の公開講義実施を 2023 年度から実施し、医学部以外の教員も多く参加しました。	【ア】 計画どおり 達成した
③ 情報公開の充実及び募集広報方式の改革	全国的に大学院生の確保が難しくなっている中で、学生募集に係る広報物（大学院ガイド）の作成や、大学ホームページでの情報公開を継続的に行い、学生確保に努めて参りました。 関係団体や学内への周知を行い、近年は少しずつ入学者の数が増加に転じてきたところです。今後も継続的な活動を行って参ります。	【ア】 計画どおり 達成した
④ 大学院教育の実質化と管理体制の整備	第 3 期機関別認証評価結果において、改善課題として学修成果の把握や学位授与方針と学位論文審査基準の関係性が不明確な点を指摘されたことから、コンピテンシーの策定、学位審査評価票の改正、併せて、学位申請要件の変更など制度改革を行いました。 大学院生への制度改革の段階的な周知や、関連規程等の整備を完了し、円滑に新制度への移行ができました。	【ア】 計画どおり 達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
医学部における教育の質の向上と学修成果達成に向けた医学教育の推進			
①	医師国家試験対策	医師国家試験合格率の向上及び原級・卒業留置者の減少に向けた対策として、第 2～6 学年の留置者と成績低迷者には、教務委員会・学修支援委員会・チューターが中心となり、基礎知識の向上、自己学修姿勢の定着、モチベーションの維持・向上を目的とした少人数双方向性学修支援プログラムやグループ学修の充実を図るとともに、種々の予備校プログラムを効果的に利用し、国家試験対策と成績低迷者対策を強化しました。	【ア】 計画どおり 達成した
②	学修支援体制の強化		
③	社会の要請及び ステークホルダーに 応じた教育プログラ ムの策定	共用試験 CBT については、第 2～4 学年における戦略的な学修支援プログラムを継続して実施しました。機関別認証評価の指摘事項に対し、専門科目の単位数の見直しを含めたカリキュラムの改編を進めています。 また、低学年からの生活習慣の適正化と自己学修習慣の習得のため、担任・教務委員会・学生部が連携して、第 1～2 学年に対する多角的な指導と支援を継続して行いました。	【ア】 計画どおり 達成した
④	教員の教育研究活動 能力の向上	第 5・6 学年の総合試験の更なる適正化のため、教員 FD を実施し、作問能力の向上を図るとともに、総合試験ブラッシュアップの徹底や教学 IR の積極利用等を通して進級・卒業試験、進級・卒業判定のさらなる適正化を図りました。	【ア】 計画どおり 達成した
大学院歯学研究科における学位論文の審査基準の設定及び学生への事前周知			
①	学位論文審査基準の 見直し	学位授与方針と初期審査、中間審査並びに学位論文審査における各審査項目との関連性については、2021 年度より継続的に大学院歯学研究科教育要項（シラバス）上で明示しています。 また、2024 年度には、学位授与方針に沿った博士課程修了時コンピテンス・コンピテンシーを策定しました。 加えて、2021 年度に制定した点数制による学位論文審査を 2024 年度まで継続的に実施しました。2024 年度には、コースワークや初期審査、中間審査における点数制評価も導入しました。 2024 年度までに大学院歯学研究科博士課程修了時の学修成果の把握（可視化）のための基盤を構築しました。	【ア】 計画どおり 達成した
歯学部入学生の確保			
①	教育課程の充実	学生の知識レベルに応じた、学生が学びやすいカリキュラムを策定することを目的とし、コース制の見直しなど、2023 年度から段階的にカリキュラムの再編を行いました。2024 年度には、歯学系共用試験（CBT・OSCE）の公的化への対応、単位数の削減を行い、2025 年度から新たなカリキュラムを開始しました。	【ア】 計画どおり 達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
歯学部入学生の確保			
②	学生受け入れ方針の 検証・改定	歯学部では、2020 年度に学生受け入れ方針を見直し、学生受け入れ方針と卒業時の学位授与方針とが相違なく、教育課程が行われているか検証しています。学生受け入れ方針の見直し以降に入學した学生が卒業するまでの間、継続的に検証を行い、2026 年度に再度方針の見直しを行う予定としております。	【イ】 一部達成 した
③	広報活動の充実	広報活動の強化として、2024 年度に歯学部広報委員会を設置し、歯学部ホームページの新規開設、歯学部広報誌の新規発刊を行いました。 また、高校訪問等により、歯学部の魅力をアピールする広報活動を展開しました。	【ア】 計画どおり 達成した
④	入試科目、入試方法 の検証、検討	これまでは理系を専攻する学生を対象とした入試科目を設定していましたが、2024 年からは志願者数・入学者数の増加に向けて、文系を専攻する学生を対象とした入試科目の設定の検討を開始しました。 また、入試の面接試験についても、面接官の主観評価となっている状況を客観的に評価・採点できるような仕組み作りの検討を開始しました。	【イ】 一部達成 した
歯学部における教育研究組織の整備			
①	計画的な教員の選考	大学設置基準における基幹教員確保の為の教員任用を実施しています。一方で、大学に残る人材が減少しており、一部講座（分野）で教員の確保が困難となっていることから、今後は学外の教員確保も積極的に行っていきます。	【イ】 一部達成 した
②	教員選考方針の検討	歯学部では、2023 年度以降、「絶えず遂行されている大学組織改革に柔軟かつ意欲的に参加できる、臨床・教育・研究に熱意を持った人材の任用」を教員選考の方針としました。	【ア】 計画どおり 達成した
③	組織編成、定員の 見直し	運用体制の安定化と教育改革の推進を目的に、2024 年度に歯科補綴学講座（旧・補綴インプラント学講座）の再編、法歯学・災害口腔医学分野及び歯科医学教育学分野の定員見直しを行いました。	【ア】 計画どおり 達成した
薬学研究科における 4 つのポリシーの見直しと教育課程の整備			
①	薬学研究科の 4 つの ポリシーの見直し	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を改定し、それに基づく修了時コンピテンシーを策定したため、今後は教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を見直し、それに基づき教育課程の整備を行います。 また、評価方針（アセスメント・ポリシー）の適切性を検証し、それをシラバスに明記します。併せて、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に関しても見直しを検討します。	【イ】 一部達成 した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
薬学研究科における 4 つのポリシーの見直しと教育課程の整備			
②	学位授与に係る基準や規程の見直し	学位論文及び学位論文審査の取り扱いに関する内規を作成しました。今後は、学位論文審査基準の整備を進めていきます。	【イ】 一部達成した
③	薬学研究科の指導教員の研究・教育能力の向上	本学大学院合同 FD に参加し、自身の研究及び教育能力の向上に努めました。今後は、学内外の共同研究も含め、国際的な視野に立って先進の研究を推し進め、その成果を学会や原著論文等を通じて積極的に公表するとともに、研究科の学生教育にも活かしていきます。	【イ】 一部達成した
④	学内の他研究科の学位取得を支援する取り組み	学内の他研究科も薬学研究科と同様の研究活動の実質的な単位化を検討していることから、単位化後に、科目としての特別研究における単位互換制度を検討します。	【ウ】 達成しなかった
⑤	薬学研究科修士課程の入学者確保対策	薬学研究科修士課程を開設してから 10 年が経過し、これまでの入学者は 1 名（2018 年度入学生）のみでした。主に 4 年制薬学部出身者の進学先として設置した課程ですが、6 年制薬学部のみを有する本学が今後も定員を充足することは困難であるため、2023 年度をもって学生の募集を停止し、廃止しました。	【ウ】 達成しなかった
薬学部の適正な入学定員の設定とその維持に必要な志願者の確保に向けた取り組み			
①	2021 年度入試に向けた入学定員の削減	2021 年度入試から入学定員を 120 名から 80 名に削減し、募集要項等を変更の上、入試を実施しました。 また、収容定員管理の厳格化に伴い、2024 年度入試から入学定員を 80 名から 50 名に削減しました。	【ア】 計画どおり達成した
②	志願者及び入学者の増加を目指した学納金の見直しと奨学金制度の制定	学内で協議・検討の結果、2020 年度は現状維持の方針になりました。しかしながら、志願者及び入学者の増加が喫緊の課題となったため、2024 年度入試で入学者特別奨学金制度、2025 年度入試で特待生制度及び同窓生学納金減免制度を制定しました。	【イ】 一部達成した
③	広報活動による薬学の紹介	出張講義や進学説明会、高校訪問等を積極的に実施するとともに、ミニオープンキャンパスや薬用植物に親しむ会など、学部独自のイベントを実施しました。早い段階から薬学に興味や魅力を感じてもらい、薬学を学ぶための充実した教育環境が本学薬学部にはあることをオープンキャンパスやウインターセッション、薬用植物に親しむ会で体験してもらいました。	【ア】 計画どおり達成した
④	ホームページによる情報発信	ホームページ運営 WG を中心に、ホームページや SNS を通じて「大学、学部、授業科目の今」に特化したコンテンツ公開等を積極的に行いました。SNS のフォロワー数も年々増加しています。	【ア】 計画どおり達成した
⑤	高大連携の取り組みを実施	高大連携ウインターセッションにおいて、薬学の魅力を高校生に発信しました。併せて、花巻北高等学校と連携講座の協定を締結し、宇宙教育プログラムに関する講義や実験を実施しました。	【ア】 計画どおり達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
薬学部における教育の質向上と学修成果の判定方法の開発に向けた取り組み			
①	教育的質の向上を目指した教員組織体制の見直し	科目責任者を担う講師以上の教員が不足しているため、計画的に准教授及び講師への昇任を進めることができました。 今後は、教員の定年退職等により各分野の所属職員数は大きく異なってくるため、教育の質を担保できる教員組織体制への改組を検討するとともに、教育の質向上と合わせて、他の薬系大学にはなく本学独自の薬剤師養成教育の実践に向けて、特に、附属病院及び同薬剤部との連携や人事交流の活発化を検討します。	【イ】 一部達成した
②	クラス担任制度の強化	教授がクラス担任として各学年の学生を受け持ち、学修や生活の状況把握及び指導を行いました。 今後は、生活や健康状態を含め、各担任が収集している情報を学生カルテとして集約、教員間で共有し、学生への指導を充実します。	【ア】 計画どおり達成した
③	学習内容の見直し	主たる ICT として Moodle を積極的に活用し、学生が能動的に取り組む授業を充実させました。 今後は附属病院と連携して、実務実習前の臨床教育の充実及び実務実習後の薬学実践実習の導入を検討します。	【ア】 計画どおり達成した
④	学修成果の判定	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）の改訂を完了し、DP に基づく卒業時コンピテンシーの策定まで完了しました。 今後は、授業科目レベルでのコンピテンス達成ロードマップ・マトリックスの最終案策定と、その内容に基づいた学修成果の可視化を実行します。	【イ】 一部達成した
⑤	卒業時、卒業後アンケートの実施	卒業時及び卒業後のアンケートを実施することができたため、今後は、内容の適切性を検証するとともに、集計結果を解析し、教育の改善に役立てていきます。	【ア】 計画どおり達成した
看護学部完成年度以降も学部を安定的・発展的に機能させていくための教育研究基盤の再構築			
①	教育課程の抜本的な見直し	2017 年度に開設した看護学部は、2020 年度に学部の完成年度を迎えました。当初の教育課程は、設置認可申請時に構築したものであることから、地域包括ケアシステムの制度改革、多職種連携・チーム医療の推進、更なる医療安全の要請等の社会の変化に対応した看護学教育を学生に教授するために、教育課程の抜本的な見直しを図り、2017 年 10 月に文部科学省が主導で策定した看護学教育モデル・コア・カリキュラムならびに保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正内容を踏まえて新カリキュラムを策定し、2022 年度の入学生から移行しました。	【ア】 計画どおり達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
看護学部完成年度以降も学部を安定的・発展的に機能させていくための教育研究基盤の再構築			
②	看護学部の将来構想を踏まえた中長期的採用計画の策定と履行	看護学部の設置認可時における文部科学省の附帯事項「完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること」を受け、看護学部将来構想検討 WG 等を設置し、総合的な観点から教員組織の編制方針を検討し、看護学教育を取り巻く環境の変化に対応した教育課程の編成や学部の安定的かつ継続的な発展を見据え、岩手医科大学教員選考指針及び看護学部教員選考基準のもと、適正で厳格な審査により人事編成を行い、教育研究活動の更なる活性化及び教育研究水準の維持向上に努めました。	【ア】 計画どおり達成した
③	戦略的な国家試験対策の積極的な展開	各学年に応じたガイダンスや模擬試験の実施、教員による模擬試験等の結果を踏まえた対策講義等の企画・運営、図書館への教材の配架や学内外を問わず Web で学修可能なツールの導入等、学生の国家試験対策委員との意見交換を行いながら国家試験対策プログラムを策定しました。指導体制についても 1 年次から学修意欲や学業成績の向上等の指導・助言を受けることができるようクラス担任や科目担当教員による学修サポート体制に加え、4 年次には担当教員による国家試験に係る相談や指導を受けることができる体制も整備しました。模擬試験結果等をもとに学修指導が必要な学生には、学生自身が現在の状況について自覚し、主体的に国家試験対策に取り組めるよう学修習慣や方法を確立するための場所と機会を提供し、過去問の実施と解説、担当教員やクラス担任による面談等を通じて対策を講じました。	【ア】 計画どおり達成した
全学的教育改革の支援活動			
①	全学的教育改革の支援	大学設置基準の改正に対応した学則改正及び単位の実質化を目的としたシラバス作成の手引きを改訂する等、情勢を見ながら全学的な教育改革の支援を継続しています。	【イ】 一部達成した
②	FD・SD の積極的な実施	教員から提出されたティーチング・ポートフォリオを教員 FD で活用し、授業改善の取り組みとして実施している他、シラバスに関する FD・SD も継続して実施しています。	【ア】 計画どおり達成した
③	e-ラーニングツール等教育資源の検討・整備	遠隔・分散授業に対応するため、補助金を活用して、バーチャルスライドシステムの画像配信用サーバの更新を行い、教育環境の改善を図りました。しかしながら、大学の財政状況等を鑑み、標本のデータ化を行うバーチャルスライドスキャナの更新は見送っています。	【イ】 一部達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
全学的教育改革の支援活動			
④	多職種連携等の 全学的な科目の検討	多職種連携科目に係る部会を設置し、内容を検討しています。 また、全ての多職種連携科目の体系化を図るため、WG を立ち上げ、内容を検討しています。	【イ】 一部達成 した
教学 IR(Institutional Research) の推進			
①	ファクトブックの 継続的作成と公開	各種情報の経年変化を記録することにより、教学データの可視化を目的として、ファクトブックを継続的に作成し、公開しています。	【ア】 計画どおり 達成した
②	学修支援アンケート の実施と解析、 公表と学生への フィードバック	学生の学修時間・学修実態、学修成果及び大学への満足度等を調査するため、適宜、項目を見直しながら継続的に実施し、各学部及び学生へのフィードバックを行いました。	【ア】 計画どおり 達成した
③	アセスメントテスト の実施と解析	ディプロマ・ポリシーの達成度の可視化、教育成果の可視化を実施するため、外部アセスメントテストを継続して実施しており、分析結果を各学部へフィードバックしています。	【ア】 計画どおり 達成した
④	集約した情報の データベース化及び 分析・可視化ソフト の導入	分析・可視化ソフトの導入には至っていませんが、IR に係るデータ収集・分析依頼対応を随時行いました。	【イ】 一部達成 した
⑤	IR 活動に関する情報 収集	IR に関するセミナーや研修会等に参加して、継続的に情報収集を行っています。	【ア】 計画どおり 達成した
⑥	教学 IR センター 設立による学修成果 の可視化等の推進	2022 年 4 月に教学 IR センターを設置し、IPE (多職種連携教育) 科目について、KISS18 (社会的スキルの尺度) や RIPLS (多職種連携に対する準備・志向の尺度) を活用した学修成果の評価を導入することにより、可視化の推進に取り組んでいます。	【イ】 一部達成 した
初年次教育の強化			
①	カリキュラムの 見直し	時代の変化に対応するため、選択必修科目の見直しを行っています。 また、情報社会の進展に対応するため、数理・データサイエンス・AI 教育科目を開講しました。 なお、当該科目は、「岩手医科大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (リテラシーレベル)」として、文部科学省の認定を受けています。	【ア】 計画どおり 達成した
②	学生支援や学修支援 制度の見直し	2020 年度は、コロナウイルス感染症の蔓延により、学修支援に対する取り組みができませんでしたが、次年度からは Zoom 等を活用することにより、概ね計画通り実施できています。	【イ】 一部達成 した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
初年次教育の強化			
③	入学前教育	岩手県高等学校校長会との協定に基づき協議会を毎年開催し、高大連携による入学前教育について、高校・大学が継続して協議し、学修支援を強化しています。	【ア】 計画どおり 達成した
シミュレーション教育の実施			
①	機器の新規購入・更新と維持管理	大学の経営状況を鑑み新規購入を断念した年度がありましたが、補助金などを活用し、機器の充足を図ることができました。 また、その代替として、附属病院や購入先の廃棄品や使用期限切れの備品等は無償供与頂き、教材としてリユースしました。 故障・修理対応については、自前での応急修理も行いコストを圧縮しました。 老朽化した機器備品の延命、消耗品の再利用などを行いながら、シミュレーション教育環境の質を維持しました。併せて、シミュレータの使用提案等を行い、稼働率の向上と現有資産の有効活用を行うことで、シミュレーション教育の充実を図ることができました。	【ア】 計画どおり 達成した
実習等に係る機器等（教養教育センター）の年次更新			
①	物理学の実習機器等整備	実習内容の見直しにより、整備機器を追加したことに伴い、事業の実施期間を延長し、整備することができました。	【ア】 計画どおり 達成した
②	化学の実習機器等整備	2021 年度から 3 年間は概ね計画通り整備することができましたが、2024 年度は大学の財政状況により予算化されなかったことから、整備することができませんでした。	【イ】 一部達成 した
③	生物学の実習機器等整備		
④	他科目等に関する機器等の整備		
教育設備（マルチメディア教室ノートパソコン）の更新			
①	マルチメディア教室ノートパソコンの更新	2020 年度は 5 か年計画の 4 年目でしたが、学生数の減少を勘案し、必要台数を削減して更新完了としました。 2023 年度からは、再度、学生数による台数の見直しや 2025 年度のセキュリティ対策及び 1 年間に購入する台数を考慮し、新たに 5 年間で整備する計画を立て、概ね予定通り実施できています。	【ア】 計画どおり 達成した
教育設備（矢巾キャンパス施設の視聴覚機器）の更新			
①	矢巾キャンパス施設の視聴覚機器更新	2024 年 1 月 9 日の教学運営会議（メール審議）において、本学の財政状況を鑑み 2024 年度事業の見送りを決定しました。	【ウ】 達成 しなかった

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
入試制度改革の推進と入学者の安定的確保			
①	入試制度改革の推進	主体性評価を含む高大接続改革への対応を見据え、入試制度の改善に取り組みました。具体的には、選抜における透明性と公正性の向上を目的として、面接評価票の見直しや評価基準の明確化を図りました。 また、選抜の実施状況を把握し、継続的な改善につなげるため、新たにアドミッション・オフィサーを配置し、評価・改善を強化する体制を整備しました。 これらの取り組みを通じて、入試に対する社会的要請や受験生の多様な背景に対応できる、柔軟で持続的な制度運営を進めています。	【ア】 計画どおり 達成した
②	学生募集に係る 広報活動 (進学相談会、広告 掲載、進学情報サイ ト掲載)	入学者の安定的な確保を目的として、進学情報冊子や進学情報サイトへの情報掲載を行い、教育内容や入試概要の周知に努めました。併せて、全国各地で開催される進学相談会にも積極的に参加し、受験生及び保護者への情報提供を実施しました。 これらの活動を通じて、本学の特色を広く伝えるとともに、志望動機の形成及び出願促進を図る広報活動を展開しました。	【ア】 計画どおり 達成した
③	オープンキャンパス の開催	各学部教育内容や特色について受験生の理解を深めることを目的に、対面形式とオンライン形式の両方でオープンキャンパスを実施しています。 対面形式では、学部紹介や模擬講義、体験プログラム、在学生との交流などを通じて、教育環境や学生生活の魅力を直接伝える機会を設けました。 オンライン形式では通年で大学紹介動画や在学生によるメッセージ等を公開し、地理的・時間的な制約がある受験生にも本学の特色が伝わるよう工夫しています。 これらの取り組みにより、受験生が本学の教育や学生生活について、具体的な理解を深める機会を提供しています。	【ア】 計画どおり 達成した
④	大学案内発行、 受験生専用ホーム ページの管理運営	本学の教育内容及び学修環境に関する理解を更に深めるため、大学案内を発行するとともに、掲載内容や構成の見直しを行いました。 受験生専用ホームページについては、最新情報の継続的な更新を行い、受験生の視点に立った構成上の工夫を施すことで、利便性の向上に努めました。 これらの取り組みにより、本学に対する理解を促進し、進学先としての志望意識を高める情報提供体制の充実を図りました。	【ア】 計画どおり 達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
入試制度改革の推進と入学者の安定的確保			
⑤	インターネット 出願システムの 導入・運用	受験生の利便性向上及び出願手続の効率化を目的として、インターネット出願システムの導入・運用を実施しました。その中で、出願案内や入力画面の構成を見直し、手続の円滑化を図りました。 また、出願受付や確認作業に関するマニュアル及びチェックリストを整備し、業務の正確性確保と担当者間の情報共有の強化に取り組みました。 これらの施策により、出願受付業務の安定的な運用体制を整備しました。	【ア】 計画どおり 達成した
古書の整備			
①	貴重書の表紙の 破損修復	2020 年度 17 冊、2023 年度 5 冊、2024 年度 3 冊の破損修復を行いました。	【ア】 計画どおり 達成した
②	貴重書のレッド ロット状態の補修	2021 年度 17 冊、2022 年度 10 冊の補修を実施しました。 2023 と 2024 年度は表紙の破損修復と共に実施しました。	【ア】 計画どおり 達成した
地域への情報発信			
①	内丸図書館 医療情報コーナー での情報提供	内丸図書館医療情報コーナーの資料の新規受入と、見直しによる入れ替えを実施しました。	【ア】 計画どおり 達成した
②	矢巾附属病院医療・ 防災情報スペースの 整備（図書整備等）	2020 から 2023 年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため閉鎖しましたが、2024 年度より附属病院医療・防災情報スペースを再開しました。（受入・装備補助作業のみ対応）	【ア】 計画どおり 達成した
③	図書館連携による 医療・健康情報 企画展示	【岩手県内図書館連携企画展示】 2020 年 9 月「こころが軽くなる認知症との付き合い方」(16) 2021 年 2 月「たいせつな人を守るアレルギーの基礎知識」(15) 2021 年 9 月「眠りの世界。あなたの知らない世界。」(10) 2022 年 3 月「かけがえのないあなたへ ～ みんなちがってみんないい」(13) 2022 年 7 月「やってみよう！セルフメディケーション」(7) 2023 年 2 月「フレイル ～ 健康と介護のまん中」(7) 2023 年 6 月「水を飲めば良いと思っていませんか？熱中症」(8) 2024 年 2 月「自分の健康、どうあるべきか ～ 身に付けたい力、ヘルスリテラシー」(8) 2024 年 7 月「知って活かして健康診断」(5) 2025 年 3 月「知っていますか？紫外線のホント」(6) ※ () 内の数字は参加館数	【ア】 計画どおり 達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
学修及び教育研究環境の整備を目的とした蔵書構築プランの策定			
①	蔵書構築プランの策定	図書館は医療系総合大学の知のインフラとして、学修、教育、研究、医療支援の点から次の整備を行うことを掲げました。 ① 教育研究資料は分野的にバランスのとれた蔵書構築 ② 研究者のニーズを反映した専門資料の体系的収集 ③ 学際領域や研究者の少ない分野の入門書、基本資料の収集 ④ 電子資料へのアクセス環境の整備	【ア】 計画どおり 達成した
②	蔵書構築マニュアルの作成	蔵書構築プランに基づき、蔵書構築方針を次のように定めて各マニュアルを整備しました。 ・学修、教育、研究、診療を支援するための資料を収集する。 ・定期的に除架、除籍、選書等による蔵書構成の見直しを図る。	【ア】 計画どおり 達成した
③	蔵書構築マニュアルに則した図書館運用	蔵書構築マニュアルに基づき、資料の配置変更を計画し、実行しました。	【ア】 計画どおり 達成した
④	プランに則した収書及び適正な在庫配置への変換	分野的にバランスのとれた蔵書構築とするため、適正な配置場所となるように矢巾・内丸間等の移設を実施しました。	【ア】 計画どおり 達成した
⑤	蔵書の在り方について評価・分析（意見収集方法の検討等）	学生や教職員の利便性を向上させるため、保存資料及び除籍資料の選定、指定図書運用の見直しを計画し、実施しました。	【ア】 計画どおり 達成した
⑥	蔵書構築プラン、蔵書構築マニュアルの見直し	蔵書構築マニュアルにおける除架・除籍基準の見直しを実施しました。	【ア】 計画どおり 達成した
社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動の推進			
①	研究成果の社会還元支援 (特許等知的財産権利化・維持支援、研究成果の公開と連携模索支援)	医療系総合大学としての最先端の研究成果を知的財産化するために、ワンストップ相談窓口としての機能を常設しました。 知財専門家や TLO 等の技術移転機関と連携し、発明の権利化支援と権利の維持管理を行うことで、適切な知財マネジメントを実施しました。 Web 上で研究シーズ集と技術移転可能な知的財産情報を継続して公表しました。併せて、研究シーズと事業ニーズをマッチングする体制を構築し、共同研究・受託研究を行いました。	【ア】 計画どおり 達成した
②	教育研究の高度化に対応した教職員及び学生に対する啓発 (知的財産、研究活動におけるリスクマネジメント)	研究リスクマネジメントの一環として、利益相反セミナー、技術流出予防セミナーを開催し、教育研究の高度化に対応した教職員及び学生の育成を図りました。	【ア】 計画どおり 達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動の推進			
③	地場産業クラスターや産学連携推進協議会等の集積拠点参画による研究開発促進	行政、産業クラスター等主催の連携会議や情報交換会への積極的な参画を通して有機的な連携を図り、産学連携の可能性を模索するとともに、情報収集に努めました。	【ア】 計画どおり達成した
④	競争的資金（産学連携関係）への組織的な斡旋と申請内容の多角的視点からのブラッシュアップ等獲得支援	産学連携の初期の段階から外部機関の協力を得つつ研究に参画し、競争的資金の獲得に向けて申請内容に助言をする等の支援を行いました。	【ア】 計画どおり達成した
学生支援体制の推進			
①	キャンパスライフガイドの作成	学生支援方針に基づいた学生生活全般に関する情報等を周知する目的で、全学生及び関係する教職員へ継続的に配布を行いました。	【ア】 計画どおり達成した
②	学生支援方針・指針の見直し	学生支援方針・指針については、毎年、大学の状況や世情に合わせて見直しを実施しました。	【ア】 計画どおり達成した
③	学生との意見交換	学生寮運営に関するユニット長会議を毎年 2～3 回開催し、学生の意見を聞く機会を設けました。	【ア】 計画どおり達成した
学生の希望を叶えるためのキャリア支援体制の構築			
①	企業研究セミナー（学内合同企業説明会）	学内合同企業説明会である「企業研究セミナー」は、就職活動が本格化する薬学部第 5 学年を主な対象とし、学生と企業の直接的な接点の場を提供することを目的として、毎年 1 回開催しました。本セミナーには、行政機関、病院、薬局、ドラッグストアなど、多様な業種から毎年約 100 社の企業が参加しており、薬学部生にとって業界理解を深め、将来の進路を考える上で有益な情報を得る貴重な機会となっています。	【ア】 計画どおり達成した
②	キャリア支援講演会・ガイダンスの開催	将来の進路に対する意識を早期に醸成することを目的として、1 年次の早い段階からキャリア支援講演会やキャリアガイダンスを実施しました。併せて、実践的なスキルの向上を図るため、履歴書・面接試験対策講座やビジネスマナー講座なども開催し、学生一人ひとりの進路実現に向けて、就職活動を総合的に支援する事業を展開しました。	【ア】 計画どおり達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
学生の希望を叶えるためのキャリア支援体制の構築			
③	就活支援ブック・広報用リーフレットの印刷等	薬学部生の就職活動に特化した冊子「就活事典」を 2023 年度まで毎年発行し、薬学部生の就職活動を支援してきました。 また、2024 年度には、薬学部卒業生に現在の働き方や業務のやりがいについてインタビューした内容を掲載した「薬学部 0B・0G インタビューブック」を発行し、在校生のみならず、オープンキャンパスや学校訪問等において中高生にも配布し、薬学部の進路に関する広報活動を行いました。	【ア】 計画どおり 達成した
④	求人検索システムの運用	現在、学生への迅速な情報提供手段として求人検索システムを運用しており、キャリア支援センターに届く求人情報や就職関連情報を即座に学生が閲覧できる環境を整えています。 また、従来は紙媒体で管理していた各種書類についても、システム上で一元管理する体制を構築しました。これにより、作業工数の削減や人為的なミスの防止、データの管理・検索の容易化など、さまざまなメリットが得られています。	【ア】 計画どおり 達成した
医療専門学校の入学生確保と国家試験合格率の高位維持			
①	入学定員充足率向上を目指した広報活動の展開	JR、IGR の電車内広告やオンライン看板、Instagram 広告、進学相談会への参加を実施しました。	【ア】 計画どおり 達成した
②	満足度の高いオープンキャンパスの工夫	毎回、体験実習の内容を変え、様々な体験が出来るよう工夫しました。	【ア】 計画どおり 達成した
③	国家試験合格を見据えた学修支援の強化	教材や外部模試を多数行い、個人の弱点を克服するよう学修支援を手厚く行いました。	【ア】 計画どおり 達成した

(Ⅲ) 補助事業及び委託事業関係

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
研究施設（センター）における支援体制の整備			
①	文部科学省補助金を活用した高額機器の整備	医歯薬総合研究所の研究機能向上のため、文部科学省の補助金を活用して高額機器の整備を計画し、2020 年度及び 2022 年度に補助金を活用して機器を整備しました。 2023 年度は、同補助金の補助要件が変更された影響で申請を見送りました。 【2020 年度 整備機器（生命科学研究技術支援センター）】 ・共焦点レーザースキャン顕微鏡 【2022 年度 整備機器（動物研究センター）】 ・動物環境制御装置	【イ】 一部達成 した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
研究施設（センター）における支援体制の整備			
②	研究施設スタッフのスキルアップ	研究施設のスタッフには、学内外での研修などを通じてスキルアップの機会が提供されています。 また、大型機器の導入に伴い、トレーニングが実施され、加えて、テクニカル研修が開催されることで、スタッフの技量向上に努めました。	【ア】 計画どおり 達成した
③	研究施設の利用者数増加のためのサービス内容の周知	2020 年度に導入された高額機器に伴い、学内研究者向けに説明会を開催するための PR 活動を実施しました。 また、学内で研究支援を行っている複数の研究施設が合同で説明会を開催し、積極的な周知活動を行いました。	【ア】 計画どおり 達成した
厚生労働省 厚生労働行政推進調査事業費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 「岩手県における東日本大震災被災者の支援を目的とした大規模コホート研究」（2013 年度～2020 年度）			
①	岩手県における東日本大震災被災者の支援を目的とした大規模コホート研究	本研究は、平成 23 年度に研究に同意した被災地住民約 1 万人に健康調査を実施することにより、健康状態の改善度・悪化度を客観的に評価しました。平成 23 年度から令和 2 年度にかけて収集してきた健診結果を用いて、被災地住民に生じている健康課題を明らかにしました。	【ア】 計画どおり 達成した
災害対応医療人の育成			
①	日本災害医療ロジスティクス研修	岩手県から補助を受け、2024 年度には研修開催 10 回を数えるに至りました。コロナウイルス感染症拡大の影響から、開催形態や規模を一部変更しながらも継続して研修を開催することができ、全 10 回の研修で修了者は 500 名を超えました。屋根瓦方式の趣旨のもと、修了者の運営補助スタッフ（タスク）参加希望も多く寄せられ、総じて災害医療人材の育成に貢献することができたと考えます。	【ア】 計画どおり 達成した
②	災害時実践力強化事業	岩手県から委託を受け、毎年一定内容・回数の研修を開催することができました。コロナウイルス感染症拡大の影響から、開催形態や規模を一部変更して開催することがあり、研修受講者数が減少した時期もありましたが、災害医療に対する意識の高まりもあって、受講者数は回復・増加傾向にあり、災害医療人材の育成に貢献できていると考えます。	【ア】 計画どおり 達成した
③	災害医療研修会	合計 34 回開催し、Zoom を活用したオンライン開催を織り交ぜ、感染対策に留意した上で研修を継続開催し、延べ 682 名が受講しました。費用については、共催の国立病院機構釜石病院より全てご負担いただきました。	【ア】 計画どおり 達成した
④	いわての師匠事業	合計 10 校（小学校 2 校、中学校 2 校、高等学校 5 校、支援学校 1 校）に対して実施しました。	【ア】 計画どおり 達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
東北メディカル・メガバンク計画			
①	東北メディカル・メガバンク計画	いわて東北メディカル・メガバンク機構は、東日本大震災で未曾有の被害を受けた被災地域を中心に健康調査を実施し、第 1 段階（2012～2016 年度）で目標の 3 万人を超えるリクルートを達成し、第 2 段階（2017～2020 年度）では健康調査参加者を対象に詳細二次調査、追跡調査を行い、目標の 2.4 万人を超える健康調査を達成しました。 第 3 段階（2021～2025 年度）では詳細二次調査参加者を対象に、引き続き詳細三次調査、追跡調査を行い、健康調査の結果を参加者や自治体の健康行政等に還元し、地域住民の健康維持・増進に努めています。 また、国内最大級の一般住民ゲノムコホート・バイオバンクとして整備・充実させるとともに、これまでに収集した試料・情報を維持・保管し、より多くの科学的、社会的な成果を生み出す基盤となるよう全国の研究者への分譲や共同研究を推進しています。 多因子疾患の遺伝情報回付により健康行動に与える影響を分析し、ゲノム情報によるスマート健康社会の実現、個別化医療・個別化予防の実現に向けた先導モデルとなるための取り組みを東北大学と連携して推進しています。	【ア】 計画どおり達成した
岩手県ドクターヘリ運航事業			
①	岩手県ドクターヘリ運航事業	関係医療機関や消防機関との連携の下、安全かつ着実に運航を実施し、岩手県内の高度救急医療の体制強化に貢献しました。 出動回数は年間 300 件以上にのぼり、救急現場にて多くの傷病者の治療と搬送を行いました。 緊急の医療的処置を要する未熟児・新生児の基地病院である本学附属病院と地域周産期母子医療センターを担う県内医療機関との間で、施設間搬送については、少ない医療資源（医療スタッフ含む）での効率運用に寄与しました。	【ア】 計画どおり達成した
いわてこどもケアセンター事業			
①	いわてこどもケアセンター運営事業	震災で被災したことなどにより、震災ストレスや様々な要因により精神的不調をきたしている子どもとその家族を対象に、こころの健康が回復するよう、相談（医療が必要な場合は児童精神科外来と連携）、研修、研究、啓発等を行いました。	【ア】 計画どおり達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
岩手県こころのケアセンター事業			
①	岩手県こころのケアセンター事業	2020 から 2024 年度にかけて、岩手県からの委託事業として実施しました。 岩手県沿岸自治体や医療機関等の関係機関と連携を図り、被災住民や自治体職員への個別支援をはじめ、講演会等の人材育成・普及啓発活動等を中心に活動を行いました。発災から 10 年以上経過し、被災地のニーズが多様化・個別化し、加えて、2020 年からは新型コロナウイルス感染症の拡大も重なり、被災地のメンタルヘルスのリスクが更に増加している状況でしたが、感染対策を講じながら個々に寄り添った対応を意識して事業を展開しました。新型コロナウイルス感染症 5 類移行後は、徐々に地域支援のニーズが回復・上昇しています。地域の人材育成や普及啓発を継続し、被災地や被災地と関連する地域において求められるこころのケアの理解の向上に努めています。 また、2024 年度は大船渡管内の林野火災による東日本大震災との二重被災の地域に対する支援を初動から継続しています。 (ア) 被災者支援 【個別支援対応件数】 2020 年度 5,353 件、2021 年度 7,274 件、2022 年度 7,304 件、2023 年度 8,084 件、2024 年度 11,390 件 (イ) 普及啓発活動 【普及啓発研修会等】 2020 年度 69 回、2021 年度 133 回、2022 年度 125 回、2023 年度 86 回、2024 年度 75 回 その他人材育成等研修会、関係機関との連絡調整等を実施 (ウ) 大規模災害に対応できる人材の育成 【スーパーバイズ件数】 2020 年度 1,823 件、2021 年度 3,048 件、2022 年度 2,639 件、2023 年度 3,833 件、2024 年度 4,306 件 【同行訪問件数】 2020 年度 107 件、2021 年度 43 件、2022 年度 31 件、2023 年度 48 件、2024 年度 77 件 【支援者支援（個別対応）】 2020 年度 712 件、2021 年度 1,310 件、2022 年度 1,305 件、2023 年度 1,120 件、2024 年度 1,062 件 【大船渡林野火災対応】 2024 年度 446 件（うち相談対応 192 件）	【ア】 計画どおり 達成した

(IV) 診療関係

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
医師の時間外労働規制に対する取り組み			
①	医師の労働時間管理の適正化に向けた取り組み（労働時間把握、相談体制整備）	全診療科から代表者を選出し、勤怠管理システムによる管理を試行し、その結果を踏まえて、2022 年 4 月から勤怠管理システムによる労務管理を実施し、医師の労働時間把握に係る体制整備を完了しております。	【ア】 計画どおり達成した
②	医師の労働時間管理の適正化に向けた取り組み（時間外管理、短縮措置等）	医師労働時間短縮計画を策定し、多職種のタスクシフトを始め、労働時間短縮に向けた取り組みを推進しました。	【ア】 計画どおり達成した
③	医師の労働時間管理の適正化に向けた取り組み（時間外労働の達成確認）	2022 年 4 月から開始した勤怠管理システムによる労務管理により、年間の時間外・休日労働時間数が 960 時間を超える B 水準・連携 B 水準医師を適正に把握し、達成状況の確認をしています。特例水準の管理、適正な健康確保措置の実施を促進する中で、該当医師の勤務間インターバルの実施及び代償休息の取得は進んでおらず、引き続き取り組みを進めます。	【イ】 一部達成した
④	36 協定等の自己点検（36 協定の見直しと締結）	36 協定について、特定労務管理対象機関の指定に伴い、医師の時間外勤務時間上限数について組合と協定内容の見直しを行い、協議・再締結を行いました。	【ア】 計画どおり達成した
⑤	産業保健の仕組みの活用（労働衛生委員会への報告、長時間勤務者との面談、診療科毎の対応協議）	2023 年 4 月からの医師の健康確保措置の取扱基準の施行に伴い、休息時間の確保等の実施を推進するとともに、長時間労働医師については勤怠管理システムを活用して適時管理し、面接指導実施に向けた体制を整備しました。	【ア】 計画どおり達成した
⑥	タスクシフティング（業務移管）の推進（診断書代行作成、特定行為者の養成）	医師事務作業補助者（MA）については、総勢 37 名の MA が各種電子カルテ代行入力や診断書下書等の業務に従事しております。 （外来診察室業務・病棟業務・診断書作成支援業務） また、診療看護師（NP）による業務負担軽減に向けた診療補助体制の整備や、救急救命士による救急車搬入時の患者移乗、救急救命処置の介助等の取り組みを進めました。	【ア】 計画どおり達成した
⑦	医師の労働時間短縮に向けたその他の具体的な取り組み（医師への研修の実施、委員会・会議の見直し、主治医制の見直し）	研修会について、所属医師全員に視聴を義務付け、法令の意味と取り組みの意義について、啓発しました。主治医制の見直しを行い、全診療科がグループ制へ移行しました。 また、毎月開催される附属病院臨床部長会議・附属病院医局長会議・附属病院管理者連絡会議を合同の Web 会議とし、医師をはじめとするコメディカルの会議拘束時間を減少させました。各種委員会についても、開催時間を原則就業時間内に収める方針とする等の取り組みを進めました。	【ア】 計画どおり達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
医師の時間外労働規制に対する取り組み			
⑧	医師の労働時間短縮に向けたその他の具体的な取り組み（医師との意見交換、連続勤務時間制限、勤務間インターバルの試行）	学内のパブリックコメントの意見を聴取し、自己研鑽の基準を制定、勤怠管理システムの本実施に併せて施行しました。勤怠管理システムにおいて勤務間インターバルや代償休息の取得に係る体制整備を進めました。	【ア】 計画どおり達成した
⑨	医師の労働時間短縮に向けたその他の具体的な取り組み（連続勤務時間制限、勤務間インターバルの実施、月 155 時間超者短縮措置実施）	日当直（集中治療系病棟の一部における勤務）の翌日勤務免除又は翌日の業務軽減等の配慮をすることとして、継続して周知を行いました。勤務間インターバルや代償休息に係る該当医師のインターバル実施及び代償休息の取得は進んでおらず、引き続き改善を進めます。	【イ】 一部達成した
病院運用の効率化に向けた取り組みの推進			
①	外来運用の効率化に向けた取り組み	当院の情報を記載した連携だより、外来担当医表及び広報誌を県内外各医療機関に配布し、患者紹介に係る地域医療機関、開業医等との連携強化を図りました。近隣医師会の先生方との連携を深めるため、コロナ禍では当院の紹介動画を作成し、DVD 配布や公式 YouTube にて配信を行い、同時に実施したアンケート調査による意見を基に改善活動を行いました。 2024 年度には対面での懇談会を開催し意見交換を行い、患者紹介に係る連携を図りました。 患者・家族をはじめとする来院者へのサービス向上及び患者獲得に向けた取り組みとして、ラジオ番組及びテレビ番組を活用した医療・健康に関する情報発信、附属病院 LINE 公式アカウント内コンテンツの充実化など、各種メディアを通じた広報活動を推進するとともに、各種イベント等において、がん、循環器疾患、肝疾患など、身近な疾患の啓発と相談支援体制の PR 活動など、直接的な広報活動も実施しました。	【ア】 計画どおり達成した
②	病棟運用の効率化に向けた取り組み	ベッドコントロール担当師長を中心に入院患者のベッドコントロール管理をより効率的に行い、入退院支援加算算定に向け各病棟との連携を強化するとともに、対面での面談とオンライン面談を活用し、ケアマネジャーとの連携を強化しました。 地域医療機関との連携による後方ベッドの確保に向け、近隣医療機関の地域連携部門との対面・オンライン面談を組み合わせ、スムーズな連携体制の構築に向けた取り組みを行いました。	【ア】 計画どおり達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
病院運用の効率化に向けた取り組みの推進			
③	病院医療情報システム整備	経年劣化が進んでいた遠隔病理診断支援システムのサーバ及びナーシングカートバッテリーを更新し、システムの安定稼働を図りました。 また、サイバー攻撃用事業継続計画を策定し、システム停止時の行動基準を定めました。 なお、当初予定されていたレポートチェックシステムの改修については財政面から見合わせることにしました。	【イ】 一部達成した
④	医療経費削減に向けた取り組み	定数見直し等により院内在庫の削減見込、医療機器の保守契約についてフルメンテナンスからスポット点検への切替えや保守内容の見直し等により、保守料金の大幅な削減を実施しました。 また、ローコストオペレーション (LCO) プロジェクト活動を継続し、価格交渉の結果、医療材料購入費の削減を進めました。	【ア】 計画どおり達成した
内丸メディカルセンター病院機能評価受審に向けての整備			
①	準備委員会等の設置、運営	2020 年 11 月に医療の質向上委員会を立ち上げ、受審に向け準備を開始しました。医療の質向上委員会の下に病院機能評価活用部会、業務改善推進部会等を設置し、活動を行いました。 また、各種サーベイヤーの派遣依頼を行い、課題を洗い出し、改善を図りました。 2023 年 1 月 30 日・31 日訪問審査にて受審、5 月 12 日付で 3rdG : Ver. 2.0 / 一般病院 2 の認定を受けました。	【ア】 計画どおり達成した
②	病院機能評価受審費用の支払	病院機能評価の受審にかかる費用の支払いを行いました。 また、事前訪問におけるサーベイヤーからの指摘事項及び当日の訪問審査で挙げられた課題については、その改善と解決に取り組みました。	【ア】 計画どおり達成した
③	病院機能評価改善支援事業 (サーベイヤー派遣)	訪問審査受審に向けての対策としてサーベイヤーを依頼し、改善に向け支援を受けました。 【内訳】 事務サーベイヤー派遣 3 回、診療サーベイヤー派遣 1 回、看護サーベイヤー派遣 2 回、機構サーベイヤー (模擬審査) 1 回、院内サーベイヤーによるケアプロ演習 5 回	【ア】 計画どおり達成した
④	施設設備等改修	病院機能評価受審に係る大規模な施設設備等の改修は行わず、受審することができました。	【ア】 計画どおり達成した

(V) 管理運営関係

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
ガバナンスの向上等による運営基盤の強化			
①	ガバナンス・コードに基づく法人運営の推進	ガバナンス・コードの実行性をより高めるために、毎年度、実施状況を点検しました。点検結果は報告書として取りまとめの上、法人運営の透明性を確保する観点から大学ホームページで公表しています。	【ア】 計画どおり達成した
②	中期計画及び事業計画の実行と進捗・達成状況等の管理	毎年度、中期計画の進捗状況を検証する機会を設け、必要に応じて見直しを行い、次年度の事業計画にも適切に反映しました。 また、検証結果は法人の機関会議に報告の上、法人内で適切に共有しました。	【ア】 計画どおり達成した
勤怠管理システムの導入			
①	勤怠管理システムの導入	労働基準法では、使用者は労働者の労働時間を IC カード等を用いて、適正に把握・管理する責務があると規定されており、本学においても関連法規等を遵守するため、2018 年度以降、移転計画と併せて、勤怠管理システムに必要なインフラ整備と職種毎の段階的な導入を進めてきました。2019 年 10 月からは全職員の出退勤打刻の記録を開始し、その後、2020 年 1 月以降順次、事務局、メディカル部門、看護部でシステムの運用を開始しました。 また、2022 年 4 月からは医師（臨床系教育職員）への稼働拡大を図り、医師の労働時間の上限規制に向けた労務管理環境の整備を進め、システムの使用方法のみならず、労働や自己研鑽の考え方や就業上の規則の周知徹底とともに、教育職員ならではの勤務の特殊性や医師の働き方改革に伴う健康確保措置等への対応を施しています。2023 年度には、歯科医師への稼働拡大を図り、2024 年度は、未稼働であったメディカル部門への稼働も実現しました。2025 年度以降も未稼働職種・部署の勤怠管理の実現に向けてシステムの稼働範囲を順次拡大します。 なお、勤怠管理システムの導入により、労働時間管理や超過勤務等手当計算、休暇処理に掛かる業務の省力化が図られています。	【イ】 一部達成した
附属病院移転に係る借入金の返済と借入金利息の支払い			
①	借入金の返済 (2034 年 6 月まで)	2021 年度は 11 億 5,500 万円、2022 から 2024 年度は毎年度 15 億 4,000 万円、合わせて 57 億 7,500 万円を返済済みであり、2034 年まで残り 142 億 2,500 万円を引き続き返済していきます。	【ア】 計画どおり達成した
②	借入金利息の支払い (2034 年 6 月まで)	上記返済に合わせ、遅延等なく支払っております。	【ア】 計画どおり達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
資金計画のための財務分析			
①	資金計画のための財務分析	中長期的な資金計画を基に、コロナウイルス感染症拡大、世界的なエネルギー需要増による価格高騰、円安等による物価高騰など、本学財政状況ならびに予算・決算等への影響等について、都度分析を行い、定期的に経営陣に報告するとともに、課題の抽出や計画の見直しを行いました。	【ア】 計画どおり 達成した
資金運用方針の策定と資金運用の実施			
①	資金運用方針の策定	資産運用方針について策定を進めておりましたが、大学財政状況を鑑みて資金運用そのものを凍結しました。	【ウ】 達成 しなかった
②	資金運用の実施	上記理由により実施しておりません。	【ウ】 達成 しなかった
本法人保有資産の有効活用			
①	不動産の有効活用に向けた検討	花巻温泉病院鉱泉地、緑が丘グラウンドの一部、盛岡市肴町の不動産を有効活用できる方々に譲渡したほか、その他の不動産についても、関係者と協議を行いました。	【ア】 計画どおり 達成した
②	物品（機器備品等）の有効活用に向けた体制整備	用度課の学内限定ホームページ上において、各部署で使用しなくなった物品を公開し、また、附属病院内に特化した再利用活動とも連携することで、225 点の物品の再利用につながりました。	【ア】 計画どおり 達成した
情報システムの統合化			
①	仮想サーバメモリ増設	病院部門システム 161 台分のサーバを集約し稼働させている仮想サーバについて、メモリの平均使用量が 80%を超過していたため、メモリを 960GB 増設しました。増設後はメモリ平均使用量が 60%程度となり、システムの安定化を図ることができました。	【ア】 計画どおり 達成した
②	仮想サーバストレージ増設	2017 年に導入した仮想サーバは、放射線画像及び各種動画のデータ蓄積に伴い、年間 120TB ずつデータが増加し、2024 年度に空き容量が枯渇する可能性があったことから、ストレージを増設し、空き容量を確保しました。	【ア】 計画どおり 達成した
③	サーバ室電源増強工事	中期計画に基づく仮想化基盤ストレージ増設事業及び今後計画している仮想化基盤のリプレイス事業を進めるため、供給電力不足を解消し、加えて、今後想定される電子カルテサーバのリプレイス事業及び今後診療における AI を用いたシステム等の導入に向けて、2023 年度から 2024 年度までの 2 か年計画で 200kVA の電源増強工事を実施し、安定した電力供給能力を確保しました。	【ア】 計画どおり 達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
高品質・高信頼な情報ネットワークの運用			
①	矢巾地区 A 敷地 無線 LAN 整備	授業におけるマルチメディアコンテンツの活用及び学生の自学自習環境整備のため、矢巾地区 A 敷地の東講義実習棟、東研究棟 SGL、マルチメディア教育研究棟、学生寮に無線 LAN アクセスポイントを 147 台設置し、約 10,443 m ² のエリアでインターネットが利用できる環境を整備しました。	【ア】 計画どおり 達成した
②	内丸メディカル センター診療系 ネットワーク更新	稼働から 11 年が経過し、機器故障リスクが高い状態となっていた内丸メディカルセンター診療系ネットワーク機器 70 台を更新し、高品質・高信頼な情報ネットワークを整備しました。	【ア】 計画どおり 達成した
③	矢巾 A-C 敷地間 バックアップ回線 整備	矢巾地区 A 敷地-C 敷地の渡り廊下を通る通信ケーブルの損傷に備え、回線の引き込みを実施し、渡り廊下が災害等の被害を受けても診療系システムが利用可能となりました。 なお、2021 年は世界的な半導体不足の影響により、ネットワーク機器の一部が生産できない状態となったため、2022 年度まで事業計画を延長し、計画どおり整備しました。	【ア】 計画どおり 達成した
④	矢巾・内丸 学術ネットワーク 更新	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うインターネットを活用した講義や自学自習を安定的に実施できる障害に強いネットワーク環境の整備のため、2021 年度は内丸地区の老朽化した学術ネットワーク機器 40 台を更新し、2022 年度・2023 年度は矢巾キャンパスの老朽化した学術ネットワーク機器 610 台を更新し、高品質・高信頼な情報ネットワークを整備しました。	【ア】 計画どおり 達成した
情報セキュリティ強化			
①	セキュアインター ネットゲートウェイ の導入、運用	近年増加傾向にあるサイバー攻撃に備えるため、セキュアインターネットゲートウェイを導入し、ウイルス対策ソフトが検知しない新種ウイルス等による情報流出防止によるセキュリティの強化を図りました。 なお、2021 年から 2022 年にかけて、世界的な半導体不足の影響により生産が間に合わなかったため、2023 年度まで事業計画を延長し、計画どおり整備しました。	【ア】 計画どおり 達成した
②	教育関連ファイルの 共有環境の整備	学内での USB メモリを利用したデータ受け渡しの省力化、USB メモリの紛失及びメール誤送信等の情報漏洩リスクへの対応のため、学内限定のファイル転送システムを整備しました。	【ア】 計画どおり 達成した
③	ペーパーレス会議用 iPad 追加購入	印刷コスト削減及び環境への配慮のため、ペーパーレス会議用 iPad を 100 台追加し、2020 年度は 266 の会議で利用されました。 また、iPad は新型コロナウイルス感染症の感染対策として、Web 会議システムによる面会用デバイスにも活用されました。	【ア】 計画どおり 達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
大学運営の適切性についての点検・評価及びその結果に基づく改善・向上に向けた監査の実施			
①	標準的な内部監査 手続きの徹底	内部監査計画に基づき、内部監査要領等に定められた監査プロセスに沿って監査を実施しています。	【ア】 計画どおり 達成した
②	法人運営の効率化に 資する内部監査の 実施	課題等がみられた部分については、その改善方法を監査対象部署と意見交換し、解決に向けた取り組みについて提言等を行い、実施可能な部分から対応しています。	【ア】 計画どおり 達成した
③	内部監査に関する 基本的事項の周知・ 有効性に関する啓発	内部監査に関する基本事項の周知や有効性について、啓発活動を行っています。	【ア】 計画どおり 達成した
事務局の業務改善に向けた取り組み			
①	事務局業務における RPA 化の推進、 RPA 人材の育成	RPA 人材を育成することを目的として、2022 年度に RPA 講習会を実施し、事務局からは 29 人が参加し、RPA の作成方法や仕組みの理解を深めました。 RPA に関する相談を受けた際には、RPA の作成支援をするとともに、課題解決を通じた RPA 人材の育成に取り組んでいます。 また、不具合が発生した際は、担当者と協働して解決することで、RPA の理解を深め、更なる効率化を進めることができます。 貸出端末、電子カルテ端末にて RPA の利用環境を整えることで、持続的な利用・推進体制が確立できています。	【ア】 計画どおり 達成した
②	ワークフロー システムの導入	2022 年度はサーバ構築や人事システム等の情報連携を検討し、システム基盤の確立を行いました。併せて、事務局各部署でもシステムの運用ができるよう講習会を実施し、申請書の作成方法やシステムへの理解を深めました。 2023 年度は事務局各部署に対し、申請書類のワークフロー化が可能かどうか交渉し、約 100 種類の申請書作成や回付ルート設定、運用の検討を行い、事務局内で試験運用を開始しました。 2024 年度は大学全体で稟議や申請書での利用を開始し、安定的に稼働し、1 年間で約 15,000 件の書類が回付されました。 ワークフローシステムの導入により、承認や申請手続きにかかる時間の削減や業務の効率化を図ることができています。	【ア】 計画どおり 達成した

(VI) 施設設備関係

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
建築物・建築設備維持運用にかかる修繕 (矢巾キャンパス電気室の直流電源装置蓄電池設備更新)			
①	矢巾キャンパス 非常照明・電気室 操作用蓄電池更新 修繕	矢巾キャンパスの直流電源装置は、建築基準法で設置が義務付けられている「予備電源設備」に該当する重要設備で、計画時点で設置後 13 年が経過し、蓄電池の劣化が生じたことから、非常時における電源の安定供給を図るため更新を実施しました。 工期：令和 2 年 7 月 10 日～令和 2 年 12 月 29 日	【ア】 計画どおり 達成した
建築物・建築設備維持運用にかかる修繕計画 (矢巾キャンパス)			
①	外壁修繕	【矢巾キャンパス東研究棟外壁修繕 (2022 年度)】 矢巾キャンパス東研究棟は、2007 年の第一次移転事業時に建設し、竣工後 14 年が経過しており、2020 年度に実施した建築基準法に基づく外壁全面打診調査において、外壁のひび割れやタイルの浮き等を多数確認しました。 状態が更に進行した場合、雨水等が屋内へ漏水するばかりでなく、外壁やタイルが落下し、人的被害に及ぶ危険性があったことから外壁の修繕を実施しました。 工期：令和 4 年 10 月 25 日～令和 5 年 3 月 31 日 【矢巾 A 敷地キャンパスタワー外壁修繕 (2024 年度)】 特定建築物定期点検による外壁全面打診調査の結果により、タイルの浮きやコンクリート躯体壁の亀裂等不具合が多数箇所確認され、当該建物においては、付近を人や車が頻繁に通行することから事故防止のため修繕を実施しました。 工期：令和 6 年 11 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日	【ア】 計画どおり 達成した
②	機械設備修繕 (熱源)	【矢巾各棟屋上の冷温水発生機用重油配管更新 (2021 年度)】 矢巾キャンパス動物研究センター、西講義実習棟、マルチメディア教育研究棟屋上に設置している冷温水発生機系統の重油配管は、経年による腐食が進んでおり、漏洩の恐れがあったことから更新を実施しました。更新にあたっては、長寿命が期待できるステンレス管を採用し、将来的な漏洩リスクの低減を図りました。 工期：令和 3 年 6 月 11 日～令和 3 年 10 月 29 日 【動物研究センター冷温水発生機No.2 整備修繕 (2022 年度)】 動物研究センターでは実験動物の飼育環境 (温湿度等) を常に一定に保つ必要があるため、空調熱源機器を 24 時間運転しています。今般、空調熱源機器の安定稼働を目的として、不具合が確認されていた冷媒ドレン制御弁等の取替を実施しました。 工期：令和 4 年 8 月 5 日～令和 4 年 12 月 29 日	【ア】 計画どおり 達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
建築物・建築設備維持運用にかかる修繕計画 (矢巾キャンパス)			
		【動物研究センター熱源・空調設備制御用 PLC 装置取替修繕 (2024 年度)】 動物研究センターでは、施設の特性上、各部屋の温湿度、室圧等を適切に管理していますが、これらの制御を司る PLC (Programmable Logic Controller) 装置に不具合が生じていたため、施設の安定稼働を目的として取替を実施しました。 工期：令和 6 年 9 月 20 日～令和 7 年 3 月 31 日	
③	電気設備修繕 (照明)	【矢巾キャンパス照明制御システム更新 (2022 年度)】 本システムは、照明の状態監視及び共用部や外灯等の点灯スケジュール制御を行う中央制御システムで、2020 年度末には主要部品が生産中止となり修繕が難しい状況にあるなか、現場制御側部品の故障による照明操作障害が発生し、復旧はしたものの学生講義等に支障が生じたことから、2 か年計画で更新を行う計画とし、2022 年度は東講義実習棟・東研究棟・体育館・食堂棟・モール棟・外灯・厚生機械棟の更新を実施しました。 工期：令和 4 年 8 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日 【照明制御システム更新 [二次事業分] (2023 年度)】 2023 年度は、2022 年度に策定した 2 か年計画の 2 年目にあたり、西講義実習棟・西研究棟・本部棟・マルチメディア教育研究棟系統の更新を実施しました。 工期：令和 5 年 8 月 1 日～令和 6 年 2 月 29 日 【水銀灯の更新 (2024 年度)】 講義室、体育館アリーナ、体育館ホワイエ、柔剣道場、ドミトリー・圭友館食堂、東講義ラウンジで使用している水銀灯の更新を計画しましたが、大学の財政状況を鑑み実施を見送ることとしました。	【イ】 一部達成した
④	電気設備修繕 (蓄電池)	【超高磁場先端 MRI 研究センター電気室直流電源装置蓄電池等取替修繕 (2023 年度)】 非常照明の電源及び受変電設備の制御電源として設備しており、施設の安定稼働上、重要な設備であり、蓄電池等の経年劣化が進んでいたことから取替を実施しました。 工期：令和 5 年 11 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日 【本部棟及び西講義実習棟電気室直流電源装置蓄電池等取替修繕 (2024 年度)】 本部棟及び西講義実習棟電気室に設置している当該蓄電池等の更新を計画しましたが、大学の財政状況を鑑み実施を見送ることとしました。	【イ】 一部達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
建築物・建築設備維持運用にかかる修繕計画 (内丸キャンパス)			
①	防水・屋根修繕	【防水・屋根修繕 (2022～2024 年度)】 計画していた修繕については、定期的に点検を実施し、状態を適宜確認することで実施を見送ることが可能と判断したため、大学の財政状況を鑑み実施を見送ることとしました。	【ウ】 達成 しなかった
②	外壁修繕	【3・4号館北面セットバック部タイル壁修繕 (2022 年度)】 6階、7階の壁面から雨水の漏水が継続的にあったことから修繕を実施しました。	【イ】 一部達成 した
		【6号館中庭側外壁修繕 [中庭側西面中央] (2023 年度)】 庇の状態が経年により劣化していたことから修繕を計画しましたが、定期的に点検を実施し、状態を適宜確認することで実施を見送ることが可能と判断したため、大学の財政状況を鑑み修繕を見送ることとしました。	
		【6号館中庭側外壁修繕 [中庭側西面北側] (2024 年度)】 庇の状態が経年により劣化していたことから修繕を計画しましたが、定期的に点検を実施し、状態を適宜確認することで実施を見送ることが可能と判断したため、大学の財政状況を鑑み修繕を見送ることとしました。	
③	機械設備修繕 (熱源)	【内丸歯学部冷房用ターボ冷凍機分解整備 (2021 年度)】 内丸キャンパス歯学部の主要冷房熱源設備であるターボ冷凍機は、設置から 39 年、前回の分解整備から 13 年が経過し、各部経年劣化が進行し、突発的な故障が懸念される状況であったことから安定稼働を目的として、分解整備を実施しました。 工期：令和 3 年 3 月 18 日～令和 3 年 7 月 30 日 【内丸メディカルセンター入院棟No.2 冷凍機更新 (2023 年度)】 当該冷凍機は、入院棟の冷房用熱源として年間を通して運転しており、入院棟にある手術室やプロダクションセンター等の室温制御に必要な冷房用熱源を賄っている重要な設備で、設置から 25 年が経過し、経年による故障の発生頻度が増加しているなか、保守部品が製造中止となっていたことから突発的な故障リスクを回避するため、更新を実施しました。 工期：令和 5 年 6 月 6 日～令和 6 年 2 月 29 日	【ア】 計画どおり 達成した
④	電気設備修繕 (PCB 汚染電気機器 取替・廃棄処分)	【旧東病棟救急センター電気室変圧器撤去処分 (2021 年度)】 内丸メディカルセンターの各電気室には PCB を含有している変圧器があり、PCB 特措法により期限内に処分することが義務付けられていたことから、使用していない旧東病棟電気室の冷凍機用変圧器を他の PCB 含有変圧器に先行し、処分しました。 工期：令和 2 年 12 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日	【ア】 計画どおり 達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024) 年度]	達成状況
建築物・建築設備維持運用にかかる修繕計画（内丸キャンパス）			
		【10 号館電気室変圧器更新及び処分（2022 年度）】 処分対象であった 10 号館電気室の変圧器（一般動力変圧器・夏期動力変圧器）の更新及び処分を実施しました。 工期：令和 4 年 5 月 17 日～令和 4 年 12 月 29 日	
		【6 号館電気室変圧器更新及び処分（2023 年度）】 処分対象であった 6 号館電気室の変圧器（X 線変圧器）の更新及び処分を行いました。 工期：令和 5 年 7 月 4 日～令和 5 年 12 月 29 日	
		【6 号館電気室変圧器更新及び処分（2024 年度）】 処分対象であった 6 号館電気室の変圧器（非常動力変圧器）の更新及び処分を行いました。 工期：令和 6 年 7 月 23 日～令和 6 年 12 月 20 日	
建築物・建築設備維持運用にかかる修繕（内丸キャンパス 1 号館車寄せ修繕）			
①	内丸キャンパス 1 号館車寄せ修繕	内丸キャンパス 1 号館は、本学の歴史的に重要な施設であることから、計画的に修繕を行っていくこととして車寄せ部分の修繕を行う計画としていましたが、精密検査を行った結果、躯体までの劣化はなく、緊急を要する状態にないことが確認できたことから、実施を見送ることとしました。	【ウ】 達成 しなかった
矢巾町・町道 1 号線の拡幅工事に伴う B 敷地駐車場出入口の盛替工事			
①	矢巾町・町道 1 号線の拡幅工事に伴う B 敷地駐車場出入口の盛替工事	矢巾町・町道 1 号線の拡幅工事で中央分離帯が設置されることから、B 敷地駐車場への出入制限が生じることから、B 敷地駐車場出入口を交差点予定地に盛替えるための工事を行いました。	【ア】 計画どおり 達成した
図書館防災対策			
①	傾斜スライド棚 取り付け	2020 年度 49 段、2021 年度 40 段、2022 年度 40 段、2023 年度 50 段を実施し、2024 年度は実施しませんでした。 2019 年度以前の実施状況も併せると、対象の棚板 1,036 段中 836 段（81%）が整備済となります。※期間実施実績：計 179 段	【イ】 一部達成 した
臨床研修医等の宿舎整備			
①	臨床研修医等の 宿舎整備	大学及び岩手県の医師確保を図るために臨床研修医等宿舎を矢巾キャンパス敷地内に整備しました。本整備工事は令和 2 年 9 月に着工、令和 3 年 3 月中旬に竣工し、令和 3 年度採用の臨床研修医等から利用を開始しました。 本宿舎は本学附属病院の臨床研修医に加えて、「いわてイーハトーヴ臨床研修病院群」間のたすきがけ研修における院外研修医や本学の専攻医も利用しており、本県の医療提供体制整備の充実に資する施設として幅広く活用されています。	【ア】 計画どおり 達成した

中期計画		実施状況 [令和 2 (2020)～令和 6 (2024)年度]	達成状況
内丸メディカルセンター施設等整備計画			
①	内丸メディカルセンタートイレの洋式化	内丸メディカルセンターのトイレは、和式のトイレが多く存在し、著しく老朽化が進んでおり、2020 年に行った受療行動調査においてもトイレに関する不満が高く、また、使用后、起立に支障をきたす事例も発生していることから、和式トイレの洋式化を進め、患者及びスタッフが安心できる環境を整備しました。 工期：2021 年 10 月から 3 期に分けて実施、2022 年 3 月完了	【ア】計画どおり達成した

(2) 令和 6 (2024) 年度事業計画の実施状況

本法人は、私立大学における経営環境が一層厳しさを増す中、安定的な運営を行い、使命を果たしていくため、「Vision2020-2024 学校法人岩手医科大学中期計画」（以下、第 1 期中期計画）を策定し、第 1 期中期計画に基づき 2024 年度は 58 の事業を計画し、事業の適切な推進に努めました。

各般にわたる事業を展開した結果、全 58 事業中、「計画どおり達成した」は 43 事業（74.1%）、「一部達成した」は 13 事業（22.4%）、「達成しなかった」は 2 事業（3.5%）となり、概ね計画通り実施されました。

達成しなかった主な理由としては、大学の財政状況を鑑み実施を見送りとしたことが挙げられます。

[検証結果] 事業計画（全 58 事業）

※基準日 2025 年 3 月 31 日

区 分	事業数	達成状況	事業数	割合%
(Ⅰ) 管理運営、経営改善関係	16 事業	【ア】計画どおり達成した	10	62.5%
		【イ】一部達成した	6	37.5%
		【ウ】達成しなかった	0	0.0%
(Ⅱ) 教育・研究関係	22 事業	【ア】計画どおり達成した	15	68.2%
		【イ】一部達成した	6	27.3%
		【ウ】達成しなかった	1	4.5%
(Ⅲ) 補助事業及び委託事業関係	9 事業	【ア】計画どおり達成した	9	100.0%
		【イ】一部達成した	0	0.0%
		【ウ】達成しなかった	0	0.0%
(Ⅳ) 診療関係	9 事業	【ア】計画どおり達成した	8	88.9%
		【イ】一部達成した	1	11.1%
		【ウ】達成しなかった	0	0.0%
(Ⅴ) 施設設備関係	2 事業	【ア】計画どおり達成した	1	50.0%
		【イ】一部達成した	0	0.0%
		【ウ】達成しなかった	1	50.0%
合 計	58 事業	【ア】計画どおり達成した	43	74.1%
		【イ】一部達成した	13	22.4%
		【ウ】達成しなかった	2	3.5%

(I) 管理運営、経営改善関係

事業計画		実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
①	経営・財務改善に向けた取り組み 【短期施策】	(ア) 大学 (学部) の取り組み 学納金については、入学者及び定員充足率の状況から据え置きとし、近年の歯学部・薬学部の定員割れを打開する目的で両学部の入学試験を対象として「特待生制度」「同窓生学納金減免制度」を導入しました。併せて、オープンキャンパスなどによる募集活動、ホームページや SNS を利用した発信の充実を図りました。 学生寮では、2024 年度から寮費を値上げし、収支の改善を図りました。 外的資金獲得 (採択数) 向上の取り組みとしては、全学部を対象とした FD の開催や研究計画書のブラッシュアップを実施しました。 また、全学部において、シラバスの冊子印刷を廃止し、電子データ化、入学試験の実施に係る見直し (試験会場の廃止) などを積極的に進め、経費の削減に努めました。	【イ】 一部達成した
①	経営・財務改善に向けた取り組み 【短期施策】	(イ) 附属病院本院の取り組み 附属病院においては経営戦略部会を中心に、経営改善に向けた短期的な取り組みとして、以下のとおり活動を行い、大幅な医療収入の増加、医療経費の削減を行いました。 【病棟再編成、ベッドコントロール運用の再構築、病床運用の効率化、平均在院日数の短縮による収入増】 病棟再編に向け削減する病床数や削減を行う病棟、場所等を具体的に設定し、病床削減にあたって課題となる DPCⅢ日、Ⅲ日越え患者の状況把握、退院促進に向けた院内の体制整備並びに後方連携の強化、患者サポートセンターの強化等を検討しました。今後、病床削減に伴う補助金の活用を踏まえ、病床削減の実施時期等を検討することとしています。 【ICU 運営体制の再構築】 CICU 病棟を ICU 病棟、GICU 病棟を HCU 病棟、HCU 病棟を SCU 病棟として、段階的に再編、稼働病床の増床を行いました。 【DPC コーディング精査】 診療情報管理士による DPC コーディングの点検を推進し、適正なコーディングに見直し返戻、再請求を実施しました。 【高額医療機器保守料、メンテナンス料の見直し】 フルメンテナンス契約からスポット契約への切替や保守内容の見直し、保守対象機器の削減を行いました。	【ア】 計画どおり達成した

事業計画		実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
		【治験件数の増加】 治験に係る経費算出基準の改定（増額）を行いました。 【医療材料費削減活動ローコストオペレーション(LCO)の実施】 医療材料について院内各部署とのヒアリングや業者との価格交渉を行い、購入価格の見直しを行いました。 【個室料金設定の見直し】 一般病棟の無料個室の有料化及び高額個室料金設定の見直しを行い、新たな個室料金の獲得、個室の稼働率向上を図りました。	
①	経営・財務改善に向けた取り組み 【短期施策】	(ウ) 内丸メディカルセンターの取り組み 収支黒字化 WG を新設し、各種データから各診療科の患者増や入院患者増につながる方策の検討を行いました。 また、臨床免疫センターについて設立記念講演会を行い、患者獲得に努めました。 加えて、一般入院基本料データ提出加算について届け出を行い、算定を開始しました。	【イ】 一部達成した
①	経営・財務改善に向けた取り組み 【短期施策】	(エ) 歯科医療センターの取り組み インプラント手術ナビゲーション導入により、業務効率化が図られ、口腔インプラント科の増収へ寄与しました。ミリングマシンについては、2025 年 1 月に導入しました。 歯科医師の業務負担軽減、臨床実習を含めた学生教育面への効果、外注委託費削減に寄与するため、今後も様々な取り組みを継続していきます。 また、FAX 紹介を増強し、2023 年度は 73 件、2024 年度は 403 件と、かなりの件数を紹介していただきました。併せて、不動産庫の削減にも取り組み、在庫率の削減が行えています。	【イ】 一部達成した
①	経営・財務改善に向けた取り組み 【中長期施策】	(ア) コンサルティング会社の活用、組織再編を通じた事業構造改革の計画立案 日本全体の人口減少が加速する中、岩手県の医療の最後の砦を維持するべく、コンサルティング会社を利用し、全国的なトレンド、令和 8 年度診療報酬改定に向け、中医協の考え動きをいち早く取り入れ対応していきます。周辺の基幹病院と連携を取り、各医療機器のシェア、DPCⅢ日の入院患者の後方支援病院等、地域医療連携を強化していきます。 また、病院事務部でも院内の独自の経営改善アイデアを抽出し、実行していきます。2026 年 4 月の内丸メディカルセンター統合に向けて、法人全体として危機感を持って取り組み、併せて、統合後のあり方についても引き続き病院部門だけではなく、法人を中心に行政と進めていきます。	【イ】 一部達成した

事業計画	実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
② 内丸地区跡地活用計画の検討推進	内丸地区跡地活用計画については、これまで岩手県、盛岡市、盛岡商工会議所、本学の四者で各者の状況について情報共有を行っており、本学においては 2026 年 4 月に歯科及び一部の医科を除いた内丸メディカルセンターの診療機能を附属病院へ集約することとしたことから、今後の跡地利用計画について引き続き検討を行っていくこととしました。 また、盛岡市において（仮称）内丸プランの策定に向けて個別協議が進められており、本学においても当該プランの検討状況等の情報収集を行いつつ、足並みを合わせながら検討を進めることとしています。	【ア】 計画どおり達成した
③ 事業活動資金の確保に向けた募金活動の継続実施	【学術振興資金募金】 ・募集活動 教育、研究、診療活動の経常的資金を確保するため、ホームページ等を通じて支援の拡大を図りました。 また、手続き面で寄付者に負担が少ない環境の整備を目指し、引き続き検討を進めることとしています。 ・顕彰活動 Web 芳名録と岩手医科大学報で芳名を紹介し、寄付者の顕彰に努めました。	【イ】 一部達成した
④ ガバナンスの向上等による運営基盤の強化	法人の自主行動規範であるガバナンス・コードの実効性をより高めるために、2024 年 10 月時点で実施状況の点検を行い、その結果は機関会議等で確認の上「2024 年度ガバナンス・コードの実施状況に関する報告書」として取りまとめ、ホームページで公表しました。 また、第 2 期目となる「Vision2025・2029 学校法人岩手医科大学中期計画」を策定しました。	【ア】 計画どおり達成した
⑤ 事務局業務における RPA の推進、RPA に精通した人材の育成	RPA に関する相談を受けた際には、RPA の作成支援をするとともに、課題解決を通じた RPA 人材の育成に取り組んでいます。 不具合が発生した際は、担当者で協働して解決することで、RPA の理解を深め、更なる効率化を進めることができます。 電子カルテ端末、貸出端末にて RPA の利用環境を整えることで、持続的な利用・推進体制が確立できています。	【ア】 計画どおり達成した
⑥ ワークフローシステムの導入	2024 年度は大学全体で稟議や申請書での利用を開始し、安定的に稼働し、1 年間で約 15,000 件の書類が回付されました。 ワークフローシステムの導入により、承認や申請手続きにかかる時間の削減や業務の効率化を図ることができています。	【ア】 計画どおり達成した

事業計画	実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
⑦ 勤怠管理システムの導入について	労働基準法では、使用者は労働者の労働時間を IC カード等を用いて、適正に把握・管理する責務があると規定されており、本学においても関連法規等を遵守するため、2018 年度以降、移転計画と併せて、勤怠管理システムに必要なインフラ整備と職種毎の段階的な導入を進めてきました。2019 年 10 月からは全職員の出退勤打刻の記録を開始し、その後、2020 年 1 月以降順次、事務局、メディカル部門、看護部でシステムの運用を開始しました。 また、2022 年 4 月からは医師（臨床系教育職員）への稼働拡大を図り、医師の労働時間の上限規制に向けた労務管理環境の整備を進め、システムの使用方法のみならず、労働や自己研鑽の考え方や就業上の規則の周知徹底とともに、教育職員ならではの勤務の特殊性や医師の働き方改革に伴う健康確保措置等への対応を施しています。2023 年度には、歯科医師への稼働拡大を図り、2024 年度は、未稼働であったメディカル部門への稼働も実現しました。2025 年度以降も未稼働職種・部署の勤怠管理の実現に向けてシステムの稼働範囲を順次拡大します。 なお、勤怠管理システムの導入により、労働時間管理や超過勤務等手当計算、休暇処理に掛かる業務の省力化が図られています。	【イ】 一部達成した
⑧ 借入金と借入金利息の支払い	附属病院移転に係る支払資金として 2019 年度に市中金融機関から借り入れた 200 億円（返済期間 15 年間）について、借入金元本 15 億 4,000 万円と借入金利息 5,956 万 1,969 円の支払いを履行しました。	【ア】 計画どおり達成した
⑨ 財務分析と財務マネジメント	法人全体ならびに各学部ごとの収支状況、各部署ごとの予算執行管理状況について、関係部署へ報告するとともに、財務分析結果等について、外部コンサルタントと連携し財政再建計画ならびに新たな中長期資金計画を策定しました。	【ア】 計画どおり達成した
⑩ 本法人保有資産の有効活用	【不動産の有効活用】 旧花巻温泉病院の鉱泉地を有効活用していただける方々に譲渡しました。その他の保有不動産についても、活用に向けて関係者との協議を継続していきます。 【物品有効活用体制の整備】 各部署で使用しなくなった機器・備品等を学内に公表し、再利用を促進しました。今年度から附属病院内に特化した再利用活動とも連携し、活性化につながりました。 ・ 2024 年度新規公開件数 49 件 ・ 2024 年度供与件数 45 件（前年度以前の公表物含む）	【ア】 計画どおり達成した

事業計画		実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
⑪	マルチメディア教育 研究棟 4 階サーバ室 電源増強工事	中期計画に基づく仮想化基盤ストレージ増設事業及び今後計画している仮想化基盤のリプレイス事業を進めるため供給電力不足を解消し、加えて、今後想定される電子カルテサーバのリプレイス事業及び今後の診療における AI を用いたシステム等の導入に向けて、2023 年度から 2024 年度までの 2 か年計画で 200kVA の電源増強工事を実施し、安定した電力供給能力を確保しました。	【ア】 計画どおり 達成した
⑫	標準的な内部監査 手続きの徹底による 法人運営の効率化に 資する内部監査の実 施	令和 6 (2024) 年度内部監査計画に基づき、内部監査要領等に定められた監査プロセスに沿って監査を実施しました。全体として概ね良好でしたが、いくつか課題等がみられたことから、その改善方法について監査対象部署と意見交換し、解決に向けた取り組みについて提言等を行い、実施可能な部分から対応することとしています。併せて、内部監査に関する基本事項の周知や有効性についても啓発活動を行いました。	【ア】 計画どおり 達成した

(Ⅱ) 教育・研究関係

事業計画		実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
①	大学院医学研究科： 教育課程の充実と 情報公開の推進	第 3 期機関別認証評価での指摘事項改善のため、2023 年度から新たな学位申請要件の取扱いを開始しており、学生側への周知を進めるため「学位申請の手引き」への記載やメール案内を継続的に行ってきました。 また、秋季入学も制度設置から 2 年目となり、試験実施が定着し出願数も増加してきています。運用面では、秋季卒業式にて学位授与を行うため、7 月に新たに最終試験を行うなどの変更も進めました。引き続き、入学者の安定的な確保のため、広報活動を進めていく予定です。	【ア】 計画どおり 達成した
②	医学部： 学修支援体制の強化 による医師国家試験 合格率と進級・卒業 率の向上	医師国家試験合格率の向上及び原級・卒業留置者の減少に向けた対策として、第 2～6 学年の留置者と成績低迷者には、教務委員会・学修支援委員会・チューターが中心となり、基礎知識の向上、自己学修姿勢の定着、モチベーションの維持・向上を目的とした少人数双方向性学修支援プログラムやグループ学修の充実を図るとともに、種々の予備校プログラムを効果的に利用し、国家試験対策と成績低迷者対策を強化しました。 また、第 5～6 学年の総合試験問題作成に係る教員 FD の実施、ブラッシュアップ・フィードバックの強化により問題の質向上及び適正化を図りました。 共用試験 CBT については、第 2～4 学年における戦略的な学修支援プログラムを継続して実施しました。機関別認証評価の指摘事項に対し、専門科目の単位数の見直しを含めたカリキュラムの	【ア】 計画どおり 達成した

事業計画		実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
		改編を進めています。 また、低学年からの生活習慣の適正化と自己学修習慣の習得のため、担任・教務委員会・学生部が連携して、第 1～2 学年に対する多角的な指導と支援を継続して行いました。	
③	大学院歯学研究科：学位授与方針に対応した学位論文審査基準の設定及び学生への事前周知（早期課程修了含む）	学位授与方針と初期審査、中間審査並びに学位論文審査における各審査項目との関連性について、教育要項（シラバス）上に明示しました。 また、歯学研究科委員会による学位審査の際に用いる評価票にも、この関連性を明示しており、学位授与方針に対応した学位論文審査の実施を徹底しました。併せて、学位審査基準の適切性については、歯学研究科委員会で確認しました。 学位授与方針に示した学修成果を把握するための基盤を整える目的で、大学院歯学研究科博士課程修了時コンピテンシ・コンピテンシーを策定しました。 学位論文審査までの学位論文審査に至るまでの課程を示すフロー図をシラバス上に明示することに加えて、履修可能な科目とその履修により得られる単位数を一覧表にまとめてシラバス上に示し、博士課程修了のための要件が理解されやすいように配慮しました。 なお、シラバスは、岩手医科大学ホームページで公開されています。	【ア】 計画どおり達成した
④	歯学部：教育課程の充実	学生個人カルテに基づいた担当チューター等による指導、国家試験の分析結果を共有するための FD 開催を実施しました。 また、総合試験並びに全国模試の結果分析に基づく学生個々の弱点克服を目的とした科目毎の補習講義を実施し、予備校の講師招聘による国家試験対策オーダー講義、成績不振者を対象とした選抜講義を実施しました。併せて、学生アンケート等による評価を教員にフィードバックし、講義内容の改善に務めました。 カリキュラムの改訂については、歯学生共用試験の公的化への対応に加えて単位数の削減を実現化し、2025 年度から適用しました。 5 年次の診療参加型実習では、実習を通して知識・技能を修得するプログラムを実行し、更なる改善として、2025 年度からは臨床講座への完全配属、また、プログラムを終了要件の一部に組み込むこととしました。 なお、矢巾地区、内丸地区のキャンパス間における学修環境の改善検討までは至りませんでした。	【イ】 一部達成した

事業計画		実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
⑤	歯学部： 広報活動の充実	広報活動の強化として、歯学部広報委員会を設置、SNS (Facebook、Instagram) の開設に加えて、歯学部ホームページの新規開設、歯学部広報誌の新規発刊を行いました。	【ア】 計画どおり 達成した
⑥	歯学部： 計画的な教員選考	退職等により欠員となった講座・分野の教員の選考、大学設置基準における基幹教員確保の為に教員任用について、選考委員会を中心に適切に実施しました。組織編成では、運用体制の安定化と教育改革の推進を目的に、歯科補綴学講座（旧・補綴インプラント学講座）の再編、法歯学・災害口腔医学分野及び歯科医学教育学分野の定員見直しを行いました。	【イ】 一部達成 した
⑦	薬学部： 薬剤師養成教育の充実と入学者確保に向けた薬学部の魅力・発信力の強化	薬剤師養成教育の充実に向けて、国家試験合格率及び標準修業年限内卒業率を全国平均レベルまで改善するように取り組んできました。目的達成度の指標の一つである薬剤師国家試験においては、2020 年度から 3 年連続で全国平均を上回る新卒合格率达到しましたが、2023 年度に関しては全国平均を下回る結果となりました。 しかしながら、2024 年度は全国平均を上回る結果となり、国家試験対策の改革に取り組み始めた 2020 年度からの 5 年間平均においても全国平均以上を達成し、着実に国家試験対策の成果が現れています。 また、懸念されている既卒合格率においても 2024 年度は全国平均以上となり、直近の 2024 年度秋卒及び 2022 年・2023 年度卒においては 50%以上の合格率达到し、全国平均を大きく上回る結果となりました。一方で、標準修業年限内卒業率の改善については、丁寧な指導、アウトプットを重視した教育、フォローアップ・反復教育等を継続し低学年の留年率は改善傾向にあります。卒業延期率の高さに関しては更なる改善が必要です。検証の結果、6 年夏以降の学力向上を図る更なる対策と、5 年に必須及び理論の基礎学力基盤完成の対策を加えることが必要であると判断しましたので、対策の検証を含め鋭意取り組みます。 入学者確保に向けた取り組みについては、学部独自のホームページや高校訪問等の広報活動に加えて、学部及び薬用植物園の SNS を運用するとともに、小・中学生の早い時期から薬学に興味や魅力を感じてもらうため、薬学部オリジナル企画である「薬用植物に親しむ会」を開催しました。 また、新たに特待生制度及び同窓生学納金減免制度を導入し、2025 年度入試において志願者及び入学者が増加する結果となりましたので、制度の検証及び周知を強化するとともに、今後も根気強く本活動の継続と時代のニーズに対応した対策を検討します。	【イ】 一部達成 した

事業計画	実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
⑧ 看護学部： 学部を安定的・発展的に機能させていくための取り組み	第3期機関別認証評価を踏まえて構築した「卒業時コンピテンシー及び達成目標(マイルストーン)」、「コンピテンス達成ロードマップ・マトリックス」の内容について見直しを行いました。卒業時コンピテンス・コンピテンシー到達度調査を実施し、学修の進捗状況を確認しました。 教員組織については、大学設置基準、保健師助産師看護師学校養成所指定規則及び看護学教育分野別評価の各基準を遵守し、教員の適切な役割分担のもとで、組織的な連携体制が維持できるよう適正な教員配置・採用を行うほか、講座の領域を一部改編しました。 国家試験対策については、模擬試験、対策講義、ガイダンス、サポートミーティングの実施、国家試験と模擬試験結果の分析を行い、高位合格率を維持するための対策を展開しました。 この他、少子化の時代に対応するため、高校訪問、学部独自のホームページ等を通して大学の魅力を積極的に発信し入学志願者の確保に努め、学校推薦型選抜の合格者に対しては、大学教育へ円滑に移行できるよう特色ある入学前教育を実施しました。	【ア】 計画どおり達成した
⑨ 全学的教育改革の支援活動	教育の質向上を目的とし、以下の取り組み等を通じて全学的教育改革を推し進めました。 ・大学設置基準の改正に対応した学則改正及び単位の実質化を目的としたシラバス作成の手引きを改定 ・高等教育政策動向と本学の取り組み状況の紹介、教育に関わる教職員の知見を深めることを目的とし、教職員を対象としたFD、SDを開催 ・多職種連携科目の充実を企図した継続的な検討 ・補助金を活用した e-ラーニングツール導入の検討	【イ】 一部達成した
⑩ 教学 IR (Intstitutional Research)の充実	教学データの可視化を進め、各学部等の教育改革及び点検に資する情報を提供するために、教学 IR センターの下、以下の項目を実施しました。 ・各種情報の経年変化を記録したファクトブックの継続的作成と公開 ・学修支援アンケートの実施、公表と学生へのフィードバック ・外部アセスメントテストを活用した学修成果の可視化 ・IPE 科目にて評価した社会的スキル評価 (KISS18、RIPLS) を活用した学修成果の可視化 ・IR に関連するセミナー、研修会等への参加 ・IR に係るデータ収集、分析依頼対応	【イ】 一部達成した

事業計画	実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
⑪ 教養教育、準備教育に係る教育見直しと高大連携の改善	入学前教育から専門教育への橋渡し教育まで、時代の変化に対応した教育への改善を図る一環として、岩手県高等学校長協会との協定に基づき協議会を開催し、入学前教育からの学修支援及び入学後の学修状況について、情報共有・意見交換を図ることで、相互理解を深め、学生支援の強化に取り組みました。 また、情報社会の進展に対応するため、数理・データサイエンス・AI 教育科目を引き続き開講しました。 なお、当該科目は、「岩手医科大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」として、文部科学省の認定を受けております。	【ア】 計画どおり 達成した
⑫ 実習関連機器等（教養教育センター）の年次更新	物理学、化学、生物学の実習機器等の整備を年次計画に従い実施する予定でしたが、大学の財政状況により予算化されなかったことから、計画通り実施できませんでした。	【ウ】 達成 しなかった
⑬ シミュレーション教育環境の整備	学生及び医療従事者に対する医療技術の教育及び研修の場として、実効性のあるシミュレーション教育を行うことで医療の質と安全を担保するとともに、技術的援助並びに教材の管理を行い、シミュレーション教育の充実を図りました。	【ア】 計画どおり 達成した
⑭ マルチメディア教室ノートパソコンの更新	全学的に使用しているマルチメディア教室の教室用ノートパソコンは、新型コロナウイルス感染症拡大以降の社会変化及び教育環境変化に伴い必要数が増加するとともに、2025 年度以降セキュリティ上更新が必要となる旧機器もあることから、教育活動基盤を維持するために中期計画の見直しを行い、2024 年度は 5 か年計画 2 年目として、ノートパソコン 40 台の更新を行いました。	【ア】 計画どおり 達成した
⑮ 入試制度改革の推進と戦略的な学生募集活動	入試制度改革の推進と戦略的な学生募集活動を通じて、公平・公正な選抜の実現と入学者の安定的な確保に取り組みました。入試制度改革では、選抜方針の見直しを行うとともに、各入試を実施要領に基づいて確実に実施しました。 また、国の高大接続改革の方針に基づき、主体性評価等を含む制度の設計及び見直しを継続し、評価基準の整理や制度運用の改善に取り組みました。 学生募集活動においては、進学情報冊子や受験生専用サイトなどを活用し、本学の教育内容や特色を継続的に発信しました。併せて、全国の進学相談会への参加に加え、Web 会議システムを用いたオンライン相談会も実施し、受験生との接点の拡充を図りました。 オープンキャンパスは対面とオンラインを併用して開催し、学部説明や模擬講義、体験企画などを通じて、受験生の理解を深めるとともに、志望意欲の醸成に努めました。	【ア】 計画どおり 達成した

事業計画		実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
		加えて、インターネット出願システムの改善にも取り組み、入力画面や案内文の見直し、マニュアル類の整備などを通じて、受験生の利便性向上と業務の効率化を進めました。	
⑯	古書・貴重書の修復・保管	古書・貴重書 3 冊の修復・保管を実施しました。 また、廣文庫 3 冊のレッドロット状態補修及び表紙修復を実施しました。	【ア】 計画どおり達成した
⑰	地域への情報発信	内丸図書館医療情報コーナーでの情報提供と、附属病院医療・防災情報スペースも再開（受入・装備補助作業のみ）しました。 併せて、県内図書館連携企画展示を実施しました。 ・2024 年 7 月「知って活かして健康診断」 5 館 6 ヲ所 ・2025 年 3 月「知っていますか？紫外線のホント」 6 館 7 ヲ所	【ア】 計画どおり達成した
⑱	蔵書の在り方に係る評価・分析	学生や教職員の利便性を向上させるため、利用状況を把握し、保存資料及び除籍資料の選定、指定図書の利用見直しを計画し、実施しました。	【ア】 計画どおり達成した
⑲	産学官連携を通じた研究成果の社会還元 の推進	【ワンストップ相談窓口機能】 医療系総合大学としての最先端の研究成果を知的財産化するために、ワンストップ相談窓口としての機能を常設し、対応可能者を 3 名配置しました。 【権利化支援と権利の維持管理機能】 知財専門家や TLO 等技術移転機関と連携した発明の権利化支援と権利の維持管理を行うことで、適切な知財マネジメントを実施し、2 件の特許出願、3 件の特許の設定登録、保有する 72 件の知的財産管理を実施しました。 【社会連携・貢献機能】 企業等と 12 件の新規契約を締結し、共同研究を開始しました。併せて、保有する知的財産を企業等へ 12 件（継続含む）実施許諾等し、研究成果を社会還元しました。 【研究成果発信機能】 Web 上で研究シーズ集と技術移転可能な知的財産情報を継続して公表しました。 【競争的資金（産学連携関係）への組織的な斡旋等獲得支援機能】 産学連携の初期の段階から外部機関の協力を得つつ研究に参画し、令和 6 年度共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）の採択に向けて研究者を支援しました。 【外部機関との有機的な連携機能】 行政、産業クラスター等主催の連携会議や情報交換会への積極的な参画を通して有機的な連携を図り、産学連携の可能性を模索するとともに、情報収集に努めました。	【イ】 一部達成した

事業計画		実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
		【人材育成機能】 個別発明相談会を企画し、研究者の知的財産に関する理解を深める機会を提供するとともに、発明の促進を図りました。 また、研究リスクマネジメントの一環として技術流出予防セミナーを開催し、教育研究の高度化に対応した教職員及び学生の育成を図りました。	
⑳	学生支援体制の推進	令和 6 年度においても学生支援を推進すべく、学生支援方針に基づいた学生生活全般に関する情報等を周知するため、全学生及び関係する教職員へ「キャンパスライフガイド」の配布と周知、障がい者差別解消法の一部改正による本学の障がい学生支援体制の整備に伴う学生支援方針・指針の見直しと周知の実施、学生寮運営に関するユニット長との意見交換の場を設けるなどの取り組みを行いました。	【ア】 計画どおり 達成した
㉑	学生のキャリアビジョンを拓き、希望する就職を実現するための支援	学生への迅速な情報提供を目的として求人検索システムを運用し、キャリア支援センターに届いた求人情報や就職関連情報を学生が即時に閲覧できる環境を整備しました。 また、従来は紙で管理していた書類のデジタル化を進めたことで、業務効率の向上や人為的ミスの削減、データ管理の容易化を実現しました。こうした取り組みに加え、将来の進路に対する意識を早期に醸成するため、1 年次からキャリア支援講演会やガイダンスを開催しました。併せて、履歴書・面接試験対策講座やビジネスマナー講座など、実践的な支援も展開し、学生一人ひとりの進路実現を後押ししました。 インターンシップについては、企業と連携してインターンシップ等の実施情報を集約し、学生が参加しやすい環境を整えました。併せて、支援事業の質向上を目的に、卒業予定者を対象としたアンケート調査を実施し、評価や要望を収集して次年度の計画に反映しました。 加えて、薬学部卒業生の働き方や業務のやりがいを紹介する「薬学部 OB・OG インタビューブック」を発行し、在校生のみならず中高生への薬学部の進路に関する広報にも活用しました。 その他、オンライン面接に対応できない学生には大学施設を提供し、安心して面接に臨める体制を整えました。	【ア】 計画どおり 達成した
㉒	医療専門学校の入学生確保と国家試験合格率の高位維持	2024 年度は許可が得られた在校生の出身高校を中心に高校訪問を行い、各種進学相談会にも積極的に出席し、受験生の掘り起こしを行いました。 オープンキャンパスも精力的に行い、初の学校祭も同時開催し、昨年度比 1.5 倍の延べ 149 名の参加がありました。	【ア】 計画どおり 達成した

事業計画		実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
		この他、広報活動にも力を入れ、JR や IGR の電車内広告、オンライン看板や、Instagram 広告等を行いました。 また、社会人の資格取得を応援する「専門実践教育給付制度」の活用を促すため、ポスターを各歯科医院へ配布し、歯科助手への周知に努めました。 この結果、2025 年度は 33 名（うち社会人 2 名）を確保したものの、定員充足には至りませんでした。 国家試験対策として、国試解説書を使用した小テスト、補講講義、模擬試験等を戦略的に行い、より実践的な国家試験対策に取り組みました。成績下位の学生には早い段階で補習を行い、専門基礎分野の学力定着及び弱点分野克服を目指し、国家試験直前まで教員の手厚いサポートにより指導しました。 その結果、第 34 回歯科衛生士国家試験において 100%（全国平均 91%）という高い合格率を維持することが出来ました。	

(Ⅲ) 補助事業及び委託事業関係

事業計画		実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
①	医歯薬総合研究所 研究施設スタッフの スキルアップ、 研究施設の利用者数 増加のためのサービ ス内容の周知	研究施設のスタッフには、学内外での研修などを通じてスキルアップの機会が提供されています。生命科学研究技術支援センターでは、国際規制物質講習会に参加し、最新の規則改正に関する情報を収集しました。 また、動物研究センターでは、実験動物管理責任者に求められる基本的な知識や技術を習得することを目的に、学外から講師を招いて講演会を開催しました。	【ア】 計画どおり 達成した
②	日本災害医療 ロジスティクス研修	2024 年度は研修開催 10 回を数え、自治体等の協力の下、東日本大震災の被災地で実践に即した研修を実施し、円滑な情報収集・調整、資機材や支援物資の運搬、十分な生活環境の確保等、個人のロジスティクス能力向上及び多組織間の連携強化を目標に、災害時における医療チームの円滑な活動や被災者に対する効率的な支援活動の習得と災害時対応医療人の育成を図りました。 また、アドバンスとして上記修了者を対象に冬季災害時に積雪地域へ派遣された際、通常と遜色ない医療支援活動を行うスキルの習得を目的とした冬季研修を実施し、野外でのテント設営実習、車両整備実習、通信訓練等を体験するのみならず、冬季の災害医療活動の留意点や危惧される疾病の特徴を学ぶことで対応の幅を広げる取り組みを行いました。	【ア】 計画どおり 達成した

事業計画	実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
③ 災害時実践力強化事業	本事業は自然災害や大規模事故等の発生により要救助者・避難者が大量に発生した場合、発生直後から中長期にわたって適切に医療を提供するために医療従事者、救助関係者、行政職員の密な連携及び災害医療に係る実践力の強化が必要となることから、これら災害医療・救急救助に携わる人材育成を行うべく、岩手県からの委託を受けて実施しています。2024 年度は医療圏における BCP や防災分野なども含め、次の研修会を行いました。 ・災害医療コーディネーター研修 ・災害保健医療従事者研修 ・岩手 DMAT 隊員養成研修 ・広域災害医療情報システム (EMIS) 操作研修 ・岩手災害医療ロジスティクス研修 ・岩手 DMAT ロジスティクス研修 ・災害時病院行動指針策定研修 ・防災実践塾	【ア】 計画どおり達成した
④ 災害医療研修会	年度内に 7 回の研修会を実施しました。Zoom を活用したリモート研修や、ポータルサイトの活用等により研修受講者への利便性を向上させた結果、受講者は延べ人数で 235 名となり、前年度比 161%、例年の 2 倍強増加し、研修後のアンケート結果でも非常に好評を頂いています。 なお、費用については、本年度も共催いただいた国立病院機構釜石病院より全額ご負担いただきました。	【ア】 計画どおり達成した
⑤ いわたの師匠事業	依頼をいただいた 3 校（盛岡第一高等学校、盛岡第二高等学校、矢巾町立不動小学校）にて講演を実施しました。 終了後の各校からの報告書にて、復興教育の一環として非常に有意義であり、災害対応への興味、災害医療への関心が深まったとの回答がありました。	【ア】 計画どおり達成した
⑥ 東北メディカル・メガバンク計画	地域住民コホート調査では、目標を超える約 3,000 名の詳細三次調査を実施するとともに、多角的な追跡調査を実施しました。 また、昨年度リクルートを行ったリスク回付コホートに対して脳梗塞の遺伝的リスクを回付しました。併せて、健康調査の結果回付や自治体への結果報告等、住民の健康維持・増進や地域の健康づくり施策を支援しました。 バイオバンク構築では、試料・情報の分譲対象を拡大するとともに、大規模ゲノムコホート連携を推進しました。 ゲノム・オミックス解析研究では、多因子疾患遺伝的リスクモデル、エピゲノム年齢、エピゲノム疾患マーカー等の研究開発を継続し、個別化予防・医療の実現に向けて取り組みました。	【ア】 計画どおり達成した

事業計画	実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
⑦ 岩手県ドクターヘリ 運航事業	関係医療機関や消防機関との連携の下、安全かつ着実に運航を実施し、岩手県内の高度救急医療の体制強化に貢献しました。 2024 年度の出動回数は 1 日 1 件以上となる 385 回にのぼり、救急現場にて多くの傷病者の治療と搬送を行いました。 緊急の医療的処置を要する未熟児・新生児の基地病院である本学附属病院と地域周産期母子医療センターを担う県内医療機関との間で施設間搬送については、2024 年度も継続して限られた医療資源（医療スタッフ含む）の効率運用に寄与しました。	【ア】 計画どおり 達成した
⑧ 岩手県こころのケア センター事業	岩手県沿岸自治体や医療機関等の関係機関と連携を図り、岩手県復興推進プランの中心課題に位置付けられ、被災住民や自治体職員への個別支援をはじめ、講演会等の人材育成・普及啓発活動等を中心に活動を行いました。 発災から 14 年が経過し被災地のニーズが多様化・個別化し、加えて、新型コロナウイルス感染症の第 5 類に移行後、仮設集落から再建住宅、復興住宅等へ移動した先の支援や中長期的なニーズの出現や被災地支援者の疲弊などもあり、地域支援としての普及啓発や人材養成の支援、地域支援や地域の健康づくりの場と連携した個別対応案件が増加しています。 2024 年度は大船渡管内の林野火災による東日本大震災との二重被災の地域に対する支援を初動から継続しています。 （ア）被災者支援 中央・各地域センターでの沿岸 7 拠点における相談室活動、被災市町村への訪問支援、個別訪問活動、個別事例へのスーパーバイズ、勤労者のメンタルヘルス相談や健康づくり事業（スクリーニングや地区健康相談等の保健事業での個別対応）、電話対応等を実施しました。 ・個別支援対応件数 11,390 件 （イ）普及啓発活動 被災住民を対象とした普及啓発活動、保健師等を対象とした人材育成活動等を実施しました。 ・普及啓発研修会等 75 回、1,597 人 ・人材育成等研修会 119 件、3,639 人 ・関係機関との連絡調整 3,384 件 （ウ）大規模災害に対応できる人材の育成 ・スーパーバイズ 4,306 件 ・同行訪問 77 件 ・支援者支援（個別対応） 1,062 件 ・大船渡林野火災対応 446 件（うち相談対応 192 件）	【ア】 計画どおり 達成した

事業計画		実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
⑨	いわてこどもケアセンター運営事業	東日本大震災津波に被災した子どもに対するこころのケアを中長期的、安定的に行うため、岩手県から事業委託を受け、拠点施設となる「いわてこどもケアセンター」を矢巾キャンパスマルチメディア教育研究棟 1 階に設置し活動しています。 医療・教育・福祉等関係機関と連携した専門的、継続的なケアに取り組み、2024 年度沿岸地域の延べ患者数は 1,424 名でした。	【ア】 計画どおり 達成した

(IV) 診療関係

事業計画		実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
①	医師の時間外労働規制に対する取り組み	勤怠管理システムによる管理について、年間の時間外・休日労働時間数を把握し、達成状況の確認を行いました。 年間の時間外・休日労働時間数 960 時間を超える B 水準・連携 B 水準医師を適正に把握するとともに、把握した内容については、順次医師労働時間短縮計画に反映しました。 令和 6 年度診療報酬改定に伴い、各集中治療室における日当直の取り扱いの変更に際して、担当する診療科と面談を行い、運用について協議を行いました。 タスクシフト・シェアに関し、NP (Nurse Practitioner) センターの運用を開始し、診療看護師による業務負担軽減に向けた体制整備を進めました。医師事務作業補助者 (MA) については、総勢 37 名の MA が各種電子カルテ代行入力や診断書下書等の業務に従事しております (外来診察室・病棟・診断書作成支援業務)。 また、救急救命士を採用し、救急車搬入時の患者移乗、救急救命処置の介助等の取り組みを進め、救急医療の充実化と医師・看護師の業務負担軽減を推進しました。併せて、医師の派遣状況に係る調査を実施し、各診療科における医師派遣の実態を把握しました。	【ア】 計画どおり 達成した
②	病院運用の効率化に向けた取り組みの推進	(ア) 外来運用の効率化に向けた取り組み 当院の情報を記載した連携だより、外来担当医表及び広報誌を県内外各医療機関に配布し、患者紹介に係る地域医療機関、開業医等との連携強化を図りました。併せて、近隣医師会の先生方と当院の医師、歯科医師との懇談会を開催し、意見交換を行い、患者紹介に係る連携を図りました。 来院者へのサービス向上及び患者獲得に向けた取り組みとして、ラジオやテレビ番組を活用した医療・健康に関する情報発信など、各種メディアによる広報活動を推進するとともに、イベント等において、がん、循環器疾患など、身近な疾患の啓発と相談支援体制の PR 活動など、直接的な広報活動も実施しました。	【ア】 計画どおり 達成した

事業計画		実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
②	病院運用の効率化に向けた取り組みの推進	(イ) 病棟運用の効率化に向けた取り組み ベッドコントロール担当師長を中心に入院患者のベッドコントロール管理をより効率的に行い、入退院支援加算算定に向け各病棟との連携を強化するとともに、対面での面談とオンライン面談を活用し、ケアマネージャーとの連携を強化しました。 また、地域医療機関との連携による後方ベッドの確保に向け、近隣医療機関の地域連携部門との対面・オンライン面談を組み合わせ、スムーズな連携体制の構築に向けた取り組みを行いました。	【ア】 計画どおり達成した
		(ウ) 病院医療情報システム整備 経年劣化が進んでいた遠隔病理診断支援システムのサーバ及びナースینگカートバッテリーを更新し、システムの安定稼働を図りました。 また、サイバー攻撃用事業継続計画を策定し、システム停止時の行動基準を定めました。 なお、当初予定されていたレポートチェックシステムの改修については、財政面から見合わせることにしました。	【イ】 一部達成した
		(エ) 医療経費削減に向けた取り組み 定数見直し等により院内在庫の削減見込、医療機器の保守契約についてフルメンテナンスからスポット点検への切替えや保守内容の見直し等により、保守料金の大幅な削減を実施しました。 また、LC0 プロジェクト活動を継続し、価格交渉の結果、医療材料購入費の削減を進めました。	【ア】 計画どおり達成した
③	320 列 CT スキャナの増設	待機患者の解消及び既存 CT 故障時の診療遅延への備えとして、320 列 CT スキャナ装置を計画どおり設置し稼働を開始しました。	【ア】 計画どおり達成した
④	手術用顕微鏡システム 「ORBEYE」の導入	術者や患者の負担軽減、学生教育への活用のため、自由度の高いカメラと 4K3D 技術により組織や血管の微細な構造を高精細かつ立体的に大型モニターへ映し出すことが可能な外視鏡システム「ORBEYE」を導入しました。	【ア】 計画どおり達成した
⑤	内丸メディカルセンター入院棟 6 階病棟稼働状況改善に向けた取り組み	待機患者解消に向け、2024 年 4 月より睡眠検査用個室を 1 室増室し、機器の整備及び検査管理担当職員の増員を行いました。結果、検査受入れ数を増加させることができ、待機期間が短縮されました。	【ア】 計画どおり達成した

事業計画		実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
⑥	内丸メディカル センター歯科医療 デジタル化に向けた 取り組み	ミリングマシンを 2025 年 1 月に導入し、歯科医師や臨床実習を含めた学生教育面（国家試験対策等含む）においても、大きく寄与するものと期待されます。業務負担軽減や外注委託費削減に向け、当該機器の有効活用のための（歯科技工士採用等）取り組みを継続することとします。 インプラント手術ナビゲーションを導入したことにより、業務効率化が図られ、口腔インプラント科の増収へ寄与することとなりました。	【ア】 計画どおり 達成した

(V) 施設設備関係

事業計画		実施状況 [令和 6 (2024) 年度]	達成状況
①	動物研究センター 熱源・空調設備 制御用 PLC 装置の 更新	令和 6 年 9 月 2 日から工事に着手し、動物研究センターの 6 つの系統〔飼育系系統空調機、実験室系統空調機、P2 室系統空調機、一般室系統空調機、洗浄室系統空調機、熱源設備〕の PLC (Programmable Logic Controller) 装置の取替を実施しました。 工期：令和 6 年 9 月 2 日～令和 7 年 3 月 31 日	【ア】 計画どおり 達成した
②	矢巾キャンパス 図書館災害（図書 落下）防止対策	2024 年度は 50 段での実施計画としておりましたが、大学の財政状況により実施を見送りました。	【ウ】 達成 しなかった

9. 主な行事等

【令和6年】

- 4月1日 新入職員等辞令交付式（矢巾キャンパス大堀記念講堂他）
歯学部学業奨励奨学金表彰【2～3学年】（矢巾キャンパス）
- 4月2日 歯学部学業奨励奨学金表彰【5～6学年】（内丸キャンパス）
- 4月5日 歯学部学業奨励奨学金表彰【4学年】（矢巾キャンパス）
- 4月6日 岩手医科大学医療専門学校入学式（内丸キャンパス歯学部4階講堂）
歯科衛生学科27名
- 4月10日 岩手医科大学入学式（トーサイクラシックホール岩手）
大学院：医学研究科博士課程25名・修士課程9名、歯学研究科博士課程2名
学部：医学部130名、歯学部28名、薬学部33名、看護学部91名、
医学部編入学生4名、歯学部編入学生1名、看護学部編入学生1名
- 4月10日 高度看護研修センター認定看護師教育課程・特定行為教育課程開講式（附属病院10階中会議室）
- 4月12日 歯学部第5学年 Student Dentist 認定証授与式
（内丸キャンパス歯学部4階第2講義室）
- 4月23日 新任教員向け全学教育推進機構FD講習会（オンデマンド配信）
- 4月27日 歯学部第1回教育研修会（内丸キャンパス歯学部4階講堂）
- 4月30日 第1回薬学部教員研修会（矢巾キャンパス東4-C実習室）
- 5月10日 薬学部第5学年白衣授与式（矢巾キャンパス大堀記念講堂）
- 5月15日 岩手医科大学大学院学位記授与式（矢巾キャンパス本部棟4階大会議室）
医学研究科（甲）11名
- 5月25日 岩手医科大学医療専門学校第1回オープンキャンパス
- 5月29日 第2回薬学部教員研修会（矢巾キャンパス東4-C実習室）
- 6月1日 第1回看護学部FD・SD研修会（矢巾キャンパス大堀記念講堂）
- 6月8日 故 小川 彰 儀 名誉理事長・名誉学長 学校法人岩手医科大学葬
（トーサイクラシックホール岩手）
- 6月11日 永年勤続者表彰式（勤続30年32名、勤続20年56名）（矢巾キャンパス大堀記念講堂）
- 6月11日～13日 薬学部学業奨励奨学金奨学生表彰式【2～4、6学年】（矢巾キャンパス）
- 6月22日 第87回解剖体慰霊祭（矢巾キャンパス大堀記念講堂）
- 6月22日 岩手医科大学医療専門学校第2回オープンキャンパス
- 6月26日 第3回薬学部教員研修会（矢巾キャンパス東4-C実習室）
- 6月26日 看護学部第3学年宣誓式（矢巾キャンパス大堀記念講堂）
- 7月23日 第4回薬学部教員研修会（矢巾キャンパス西1-D講義室）
- 7月27日 岩手医科大学医療専門学校第3回オープンキャンパス
岩手医科大学医療専門学校2024学校祭
- 7月27日～28日 岩手医科大学オープンキャンパス2024
- 7月29日 災害時における業務継続計画（BCP）訓練等研修会（災害時地域医療支援教育センター）
- 8月1日～3日 第42回市民公開講座（矢巾キャンパス大堀記念講堂）

- 8月 3日～4日 岩手 DMAT 隊員養成研修（災害時地域医療支援教育センター）
- 8月 8日 教養教育センター学生支援に関する FD・SD 研修会（矢巾キャンパス大堀記念講堂）
- 8月 21日 大学院医学研究科入学試験【秋入学】
- 9月 1日～3日 日本災害医療ロジスティクス研修（災害時地域医療支援教育センター）
- 9月 4日 第 27 回医学教育講演会（オンライン開催）
- 9月 7日 大学院薬学研究科前期入学試験
第 2 回看護学部 FD・SD 研修会（矢巾キャンパスマルチメディア教育研究棟 4 階 4-A 講義室）
岩手医科大学医療専門学校第 4 回オープンキャンパス
- 9月 10日 岩手医科大学大学院学位記授与式（矢巾キャンパス大堀記念講堂）
医学研究科（甲）3 名・（乙）2 名
岩手医科大学秋季卒業式（矢巾キャンパス大堀記念講堂）
薬学部 20 名
- 9月 18日・28日、10月 2日 矢巾町セカンドアカデミー（矢巾キャンパス内）
- 10月 1日 岩手医科大学大学院秋季入学式（矢巾キャンパス本部棟 4 階大会議室）
医学研究科博士課程 5 名
- 10月 5日 岩手医科大学医療専門学校第 5 回オープンキャンパス
- 10月 7日 第 57 回動物慰霊祭（矢巾キャンパス大堀記念講堂）
- 10月 9日 歯学部第 2 回教育研修会（内丸キャンパス歯学部 4 階講堂・オンライン開催）
- 10月 26日 大学院歯学研究科前期入学試験
岩手医科大学医療専門学校推薦入学試験・総合型 1 期選抜試験
- 11月 6日 広域災害救急医療情報システム（EMIS）操作研修（災害時地域医療支援教育センター）
- 11月 8日 医学部第 4 学年 Student Doctor 認定式（矢巾キャンパス大堀記念講堂）
- 11月 18日 災害保健医療従事者研修（災害時地域医療支援教育センター）
- 11月 20日 大学院医学研究科入学試験【第 1 回】
- 11月 23日 岩手医科大学入学者選抜：学校推薦型選抜（医学部）、総合型選抜（医学部）
- 11月 24日 岩手医科大学入学者選抜：学校推薦型選抜（歯・薬・看護学部）、
社会人入学者選抜（薬・看護学部）、帰国子女入学者選抜（薬学部）、
編入学選抜前期（歯学部）、編入学選抜（看護学部）
- 11月 25日～12月 6日 大学院医学研究科・歯学研究科・薬学研究科合同教員研修会（動画配信）
- 11月 26日 第 29 回全学教育推進機構 FD 講習会（シラバス作成）（オンデマンド配信）
- 12月 1日 災害医療コーディネーター養成研修（災害時地域医療支援教育センター）
- 12月 7日 岩手医科大学医療専門学校一般 1 期・社会人 1 期・総合型 2 期選抜試験
- 12月 19日 第 5 回薬学部教員研修会（矢巾キャンパス東 4-C 実習室）
- 【令和 7 年】**
- 1月 6日 理事長年頭挨拶（矢巾キャンパス本部棟 4 階大会議室からオンライン配信）
- 1月 8日 歯学部第 3 回教育研修会（内丸キャンパス歯学部 4 階講堂・オンライン開催）
- 1月 14日 岩手災害医療ロジスティクス研修（災害時地域医療支援教育センター）
- 1月 15日 岩手 DMAT ロジスティクス研修（災害時地域医療支援教育センター）
- 1月 20日 岩手医科大学医療専門学校臨床実習受入式（医療専門学校第 1 講義室）

I 法人の概要

- 1月22日 岩手医科大学入学者選抜：一般選抜一次（医学部）
- 1月24日 第28回医学教育講演会（オンライン開催）
- 1月27日 岩手県高等学校長協会との高大連携会議
- 1月31日～2月1日 岩手医科大学入学者選抜：一般選抜二次（医学部）
- 2月1日 岩手医科大学医療専門学校一般2期・社会人2期・総合型3期選抜試験
- 2月7日 岩手医科大学入学者選抜：一般選抜前期（歯・薬学部）、
大学入学共通テスト利用選抜前期（歯学部）、医学部入学試験利用選抜前期（歯学部）
- 2月8日 岩手医科大学入学者選抜：一般選抜前期（看護学部）
- 2月12日 災害医療支援冬季対策：災害医療ロジスティクス研修（冬季版）（岩手山焼走り国際交流村）
- 2月14日 大学院医学研究科入学試験【第2回】
- 2月17日 岩手医科大学入学者選抜：学士編入学選抜一次、転部入学選抜一次（医学部）
- 2月26日 歯学部第4回教育研修会（内丸キャンパス歯学部4階講堂・オンライン開催）
第3回看護学部FD・SD研修会（矢巾キャンパスマルチメディア教育研究棟4階4-A講義室）
- 2月27日 教養教育センターFD・SD（矢巾キャンパス東1-A講義室）
- 2月28日 定年退職教授による最終講義（矢巾キャンパス大堀記念講堂）（小笠原邦昭学長、
佐々木真理教授、土井田稔教授、田島克己教授、佐藤孝教授、那谷耕司教授、八重柏隆教授）
- 3月1日 薬学部企業研究セミナー（矢巾キャンパス東研究棟1階SGL教室他）
- 3月3日 岩手医科大学入学者選抜：学士編入学選抜二次、転部入学選抜二次（医学部）
第30回全学教育推進機構FD講習会（ティーチング・ポートフォリオ活用による授業改善
・ICT促進）（オンデマンド配信）
- 3月7日 岩手医科大学大学院学位記授与式（トーサイクラシックホール岩手）
医学研究科（甲）5名・（乙）1名・（修）8名、
歯学研究科（甲）8名、薬学研究科（甲）1名・（乙）1名
岩手医科大学卒業式（トーサイクラシックホール岩手）
医学部120名、歯学部37名、薬学部31名、看護学部91名
- 3月10日 岩手医科大学入学者選抜：一般選抜後期（歯・薬・看護学部）、
大学入学共通テスト利用選抜後期（歯学部）、医学部入学試験利用選抜後期（歯学部）、
編入学選抜後期（歯学部）
- 3月11日 岩手医科大学医療専門学校卒業式（内丸キャンパス歯学部4階講堂）
歯科衛生学科33名
- 3月18日 大学院歯学研究科後期入学試験
- 3月26日 歯学部第5回教育研修会（内丸キャンパス歯学部4階講堂・オンライン開催）
高度看護研修センター認定看護師教育課程・特定行為教育課程修了式（附属病院10階研修室）
- 3月28日 令和7年度歯学部第5学年Student Dentist認定証授与式（内丸キャンパス歯学部4階講堂）
- 3月29日 定年退職者等辞令交付式（矢巾キャンパス大堀記念講堂）
- 3月31日 名誉教授称号授与式（矢巾キャンパス本部棟4階大会議室）

10. 土地の増減

(1) 土地

減少			$\Delta 9.90 \text{ m}^2$	$\Delta 84,861 \text{ 円}$
[内訳]	1	旧花巻温泉病院 鉱泉地一部売却	$\Delta 9.90 \text{ m}^2$	$\Delta 84,861 \text{ 円}$

11. 建物等の増減

(1) 建物

増加			24,376,867 円
[内訳]	1	附属病院 1 階 CT 室設置に伴う改修工事	21,356,588 円
	2	災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟サーバ室電源増設工事	3,020,279 円

(2) 建物附属設備

増加			303,491,014 円
[内訳]	1	災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟サーバ室電源増設工事	262,057,739 円
	2	附属病院 1 階 CT 室機器設置に伴う改修工事	40,223,275 円
	3	附属病院 5 階医局流し設備設置工事	1,210,000 円

12. 取得した主な機器備品等

(1) 医学部			277,799,794円		
1	Essenz体外循環システム	2式	11	空冷ヒートポンプパッケージエアコン	2式
2	光干渉断層計 RS-1/Glauvas	1式	12	電動ベッド メーティスPRO	10式
3	全自動免疫染色システム	1式		他	
4	FCシリーズ/超音波画像診断装置 FC1-x	1式			
5	データ管理サーバー PowerEdge T360-[ASPET360]	1式	(7) 岩手県高度救命救急センター 146,850,711円		
6	Takeru for Sequencer VI TS-R9354P(1)	1式	1	手術用顕微鏡システムORBEYE VPP	1式
7	SeqStudio ジェネティックアナライザ	1式	2	ソノペットiQ	1式
8	超音波診断装置 SONIMAGE HS2/SNiBLE2	1式	3	肺モニタリング装置 PulmoVista500	1式
9	超低温槽(-86℃縦型ノンフロン)	1式	4	神経刺激装置 NIM Vital	1式
10	超低温フリーザー	1式	5	超音波診断装置 Sonosite PX	1式
11	Proteome Discoverer3.1アップグレード等	1式	6	血液浄化装置 AcuFil Multi 55X-III	1式
12	ラット・マウス非観血自動血圧測定装置 Bセット	1式	7	Navigator2.0システム	1式
	他		8	Valleylab FT10 エネルギープラットフォーム/電気手術器	1式
			9	電動油圧手術台	2式
				他	
(2) 歯学部			24,532,786円		
1	ボディーコンポジションアナライザー InBody BWA	1式	(8) 附属内丸メディカルセンター(医科) 38,226,862円		
2	E型粘度計	1式	1	フダック-7/呼吸機能測定装置 FUDAC-7	1式
3	画像読影端末	3式	2	インテバイオステーション	1式
	他		3	カーディマックス FCP-9800/心電図検査装置	1式
(3) 薬学部			8,855,076円		
1	マイクロマニピュレーター	1式	4	高速型オートエンボッサ NBS-9300EP	1式
2	データ解析用パソコン	1式	5	泌尿器科検診台	1式
	他		6	32型3D対応4K液晶モニター LMD-XH320MT	1式
(4) 看護学部			1,791,165円		
1	デジタルフルカラー複合機	1式	7	耳管機能検査装置 JK-05A	1式
	他		8	内視鏡洗浄消毒器 エンドクレンズNeo/Neo-S Advanced	1式
(5) 教養教育センター			2,404,992円		
1	複合機	1式	9	超音波検査対応ベッド ULTRA SOUND TABLE	1式
	他		10	電動ベッド メーティスPRO	2式
				他	
(6) 附属病院(医科)			123,579,785円		
1	遠隔病理診断システムサーバー	1式	(9) 附属病院(歯科) 354,750円		
2	新生児・小児用人工呼吸器	1式	1	Dr.Kim ヘッドランプ	3式
3	医用テレメータ WEP-1000	1式			
4	汎用超音波画像診断装置 Venue Fit	1式	(10) 附属内丸メディカルセンター(歯科) 26,594,266円		
5	インファウオーマ	1式	1	ミリングマシン CORiTEC 350i Loader	1式
6	超音波診断装置 SONOVISTA GX30	1式	2	CARES Scanner E4	1式
7	移植角膜用スベキュラーマイクロスコープCell Chek D Plus PCセット	1式	3	インプラント手術ナビゲーションシステム X-ガイド 2G NXT	1式
8	アクトカルディオグラフMT-830/emonactG	3式		他	
9	Sentec デジタル モニター システム	1式	(11) 医療専門学校 550,000円		
10	コーナンスベキュラーマイクロスコープ XX/CellCheck20-1 角膜内皮細胞撮影装置	1式	1	プロジェクター	1式
(12) 法人			5,126,332円		
			1	汎用サーバー	1式
			2	コンビオープンアイコンビクラシック	1式
				他	

総額 656,666,519円の機器備品等を取得しました。

13. 国庫補助金および地方公共団体等からの補助金等

(単位:円)

(1) 私立大学経常費補助金	1,492,730,000
1 私立大学等経常費補助金(日本私立学校振興・共済事業団)	1,492,730,000
(2) その他の国庫補助金	583,810,000
1 医療研究開発推進事業費補助金(日本医療研究開発機構)	368,270,000
2 企業主導型保育事業費補助金(内閣府)	133,100,000
3 高等教育の修学支援制度授業料等減免(日本私立学校振興・共済事業団)	48,780,000
4 臨床研修費等補助金(医師)(厚生労働省)	15,860,000
5 臨床研修費等補助金(歯科医師)(厚生労働省)	12,870,000
6 感染症予防事業費等国庫負担補助金(厚生労働省)	2,500,000
7 医療施設運営費等補助金(特定行為研修の組織定着化支援事業)(厚生労働省)	1,480,000
8 マイナ保険証利用促進のための利用勧奨の取組に係る助成金(矢巾)(厚生労働省)	550,000
9 マイナ保険証利用促進のための利用勧奨の取組に係る助成金(内丸)(厚生労働省)	400,000
(3) 地方公共団体補助金	1,085,500,000
1 岩手県ドクターヘリ運航事業費補助金(岩手県)	323,760,000
2 高度救命救急センター運営費補助金(岩手県)	256,190,000
3 医学部地域枠に係る教育研究費(岩手県)	225,000,000
4 総合周産期母子医療センター運営事業費補助金(岩手県)	74,900,000
5 医療局医学教育研究助成金(岩手県)	60,000,000
6 社会福祉施設及び医療施設等物価高騰緊急対策支援金(矢巾)(岩手県)	37,200,000
7 がん診療連携拠点病院機能強化事業費補助金(岩手県)	18,590,000
8 地域医療研究費補助金(岩手県)	18,000,000
9 地域自殺対策強化事業費補助金(岩手県)	8,860,000
10 災害医療人材育成緊急強化事業費補助金(岩手県)	5,000,000
11 私立専修学校専門課程授業料等減免補助金(岩手県)	3,950,000
12 院内保育所運営事業費補助金(岩手県)	3,870,000
13 循環器病対策推進費補助金(岩手県)	3,840,000
14 認定看護師等育成支援事業費補助金(岩手県)	3,390,000
15 医療機関食材料費高騰対策支援金(矢巾)(岩手県)	3,200,000
16 産科医等確保支援事業補助金(岩手県)	1,890,000
17 認定看護師養成研修事業費補助金(岩手県)	1,860,000
18 私立専修学校運営費補助金(岩手県)	1,850,000
19 新人看護職員研修事業費補助金(岩手県)	1,790,000
20 女性医師就業環境改善事業補助金(岩手県)	1,630,000
21 周産期電子カルテ運用事業費補助金(岩手県)	1,390,000
22 社会福祉施設及び医療施設等物価高騰緊急対策支援金(内丸)(岩手県)	1,000,000
23 新生児医療担当医確保支援事業費補助金(岩手県)	870,000
24 防災訓練等参加支援事業費補助金(岩手県)	430,000
25 岩手県看護補助者処遇改善事業補助金(矢巾)(岩手県)	260,000
26 結核健康診断費補助金(岩手県・盛岡市)	230,000
27 医療機関食材料費高騰対策支援金(内丸)(岩手県)	160,000
28 岩手県看護補助者処遇改善事業補助金(内丸)(岩手県)	30,000
29 病院群輪番制病院運営事業費補助金(盛岡市)	6,380,000
30 公的病院等運営事業補助金(小児医療事業)(盛岡市)	6,190,000
31 公的病院等運営事業補助金(救急医療事業)(盛岡市)	3,630,000
32 盛岡市私立保育所等光熱費支援給付金(盛岡市)	60,000
33 私立保育所等副食費物価高騰対策支援金(盛岡市)	50,000
34 医療施設等物価高騰対応重点支援金(矢巾町)	10,000,000
35 市民公開講座事業費補助金(矢巾町)	50,000

I 法人の概要

(4) 学術研究振興資金	400,000
1 若手研究者奨励金(日本私立学校振興・共済事業団)	400,000
(5) 受託事業収入(公的機関受託収入)	542,910,000
1 岩手県こころのケアセンター等設置運營業務委託費(岩手県)	355,340,000
2 いわてこどもケアセンター設置運営等事業委託費(岩手県)	51,800,000
3 精神科救急医療施設常時対応施設事業委託費(岩手県)	16,570,000
4 こどもの心の診療ネットワーク事業委託費(岩手県)	15,640,000
5 岩手県難病医療連絡協議会設置委託事業費(岩手県)	13,150,000
6 精神科救急医療施設身体合併症対応施設事業委託費(岩手県)	12,640,000
7 岩手県周産期救急搬送コーディネーター事業委託費(岩手県)	10,980,000
8 岩手県地域医療支援センター運營業務委託費(岩手県)	10,450,000
9 岩手県肝疾患相談センター運営事業委託費(岩手県)	8,150,000
10 岩手県心身障がい者(児)歯科診療事業委託費(岩手県)	7,380,000
11 岩手県基幹型認知症疾患医療センター運営事業委託費(岩手県)	7,300,000
12 岩手県災害時実践力強化業務委託料(岩手県)	7,040,000
13 不妊専門相談センター事業委託費(岩手県・盛岡市)	5,970,000
14 小児医療遠隔支援業務委託費(岩手県)	4,530,000
15 岩手県若年性認知症支援コーディネーター設置事業委託費(岩手県)	3,700,000
16 肝炎医療コーディネーター養成研修事業委託費(岩手県)	2,150,000
17 岩手県予防接種センター機能推進事業委託費(岩手県)	2,060,000
18 アレルギー疾患相談窓口等業務委託費(岩手県)	1,320,000
19 岩手県在宅難病患者一時入院事業委託費(岩手県)	910,000
20 災害時における業務継続計画(BCP)訓練等研修会実施業務委託費(岩手県)	510,000
21 エイズ診療に係る医療・介護従事者等研修事業委託費(岩手県)	400,000
22 エイズ治療中核拠点病院カウンセラー設置事業委託費(岩手県)	230,000
23 先天性代謝異常等検査事業相談業務委託費(岩手県)	230,000
24 一時保護を要する児童の医療機関への一時保護委託費(岩手県)	30,000
25 青森県量子科学センターの装置による量子ビームを活用した人材育成に係る補助業務委託費(青森県)	4,430,000
(6) 施設設備補助金	201,340,000
1 大学改革推進等補助金(医師養成課程充実のための教育環境整備)(文部科学省)	128,000,000
2 保健衛生施設等施設・設備整備費国庫補助金(厚生労働省)	1,520,000
3 高度救命救急センター設備整備費補助金(岩手県)	50,000,000
4 周産期医療施設設備整備事業費補助金(岩手県)	12,360,000
5 ドクターヘリ設備整備費補助金(岩手県)	3,970,000
6 遠隔医療設備整備費補助金(岩手県)	3,820,000
7 小児医療施設設備整備事業費補助金(岩手県)	1,020,000
8 救命救急センター施設設備整備事業補助金(NBC)(岩手県)	650,000

II 人事の概要

1. 主な役職人事

新任

学長	小笠原 邦 昭 (令和6年4月1日付)
看護学部長	遠 藤 太 (令和6年4月1日付)
学生副部長	蛸 崎 奈津子 (令和6年4月1日付)
学生副部長	高 橋 史 朗 (令和6年4月1日付)
いわて東北メディカル・メガバンク機構副機構長	丹 野 高 三 (令和6年4月1日付)
附属病院長	森 野 禎 浩 (令和6年8月1日付)
附属病院副院長	新 田 浩 幸 (令和6年8月1日付)
附属病院副院長	眞 瀬 智 彦 (令和6年8月1日付)

再任

理事長	祖父江 憲 治 (令和6年4月1日付)
副学長 (岩手県こころのケアセンター・発達医学担当)	酒 井 明 夫 (令和6年4月1日付)
歯学部長	小 林 琢 也 (令和6年4月1日付)
薬学部長	河 野 富 一 (令和6年4月1日付)
全学教育推進機構長	田 島 克 巳 (令和6年4月1日付)
歯学部副学部長、学生副部長	八重柏 隆 (令和6年4月1日付)
歯学部副学部長	岸 光 男 (令和6年4月1日付)
附属内丸メディカルセンター副センター長 (歯科担当)	山 田 浩 之 (令和6年4月1日付)
岩手医科大学医療専門学校長	小 林 琢 也 (令和6年4月1日付)

2. 主な教職員人事

昇任・任用

医学部臨床遺伝学科	教授	鈴 森 伸 宏 (令和6年4月1日付)
解剖学講座人体発生学分野	教授	木 村 英 二 (令和6年4月1日付)
看護学部成育看護学講座	特任教授	遊 田 由希子 (令和6年4月1日付)
薬理学講座病態制御学分野	教授	中 村 正 帆 (令和6年7月1日付)
医学部脳神経外科学講座	教授	赤 松 洋 祐 (令和6年8月1日付)
医学部臨床検査医学・感染症学講座	教授	仲 村 究 (令和6年9月1日付)
医学部救急・災害医学講座	教授	高 橋 学 (令和7年1月1日付)

退職

副学長 (岩手県こころのケアセンター・発達医学担当)		酒 井 明 夫 (令和7年3月31日付)
医学部内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	教授	仲 哲 治 (令和7年3月31日付)
医学部整形外科学講座	教授	土井田 稔 (令和7年3月31日付)
医学部病理診断学講座	教授	佐 藤 孝 (令和7年3月31日付)
医学教育学講座医学教育学分野	教授	田 島 克 巳 (令和7年3月31日付)
歯学部歯科保存学講座歯周療法学分野	教授	八重柏 隆 (令和7年3月31日付)
薬学部病態薬理学講座臨床医化学分野	教授	那 谷 耕 司 (令和7年3月31日付)
医歯薬総合研究所超高磁場MRI診断・病態研究部門	教授	佐々木 真理 (令和7年3月31日付)
医学部呼吸器外科学講座	特任教授	出 口 博 之 (令和7年3月31日付)
医学部整形外科学講座	特任教授	村 上 秀 樹 (令和7年3月31日付)

3. 教職員総数

教職員総数は、年度当初3,039名、年度間の採用者数は273名（内4月1日付採用者227名）、退職者数は308名でした。

Ⅲ 学事の概要

1. 入学者、卒業（修了）者数

学 校	学部・学科等	入学定員	入学者※1	卒業（修了）者	学生数※2
岩手医科大学	大学院医学研究科 博士課程	50名	30名 ※3	19名 ※4	101名
	大学院医学研究科 修士課程	10名	9名	8名	18名
	大学院歯学研究科 博士課程	18名	2名	8名	26名
	大学院薬学研究科 博士課程	3名	0名	1名	3名
	医学部	130名	130名	120名	800名
	歯学部	73名	28名	37名	242名
	薬学部	50名	33名	51名 ※5	257名
	看護学部	90名 ※6	91名	91名	365名
医療専門学校	歯科衛生学科	40名	27名	33名	86名

※1 第1学年入学者

※2 令和6年5月1日現在

※3 秋季入学者（5名）を含む。

※4 秋季卒業生（3名）を含む。

※5 秋季卒業生（20名）を含む。

※6 第3学年への編入学定員（5名）は含めない。

2. 学位授与者数

大学院研究科	博士課程修了者 (甲)	論文提出者 (乙)	修士課程修了者
医 学 研 究 科	19名	4名	8名
歯 学 研 究 科	8名	0名	
薬 学 研 究 科	1名	1名	

3. 文部科学省科学研究費助成事業

203件

219,328,435 円

(1) 科学研究費補助金（代表）

①研究成果公開促進費（研究成果公開発表(B)）

高 橋 宏 彰（薬学部 臨床薬学講座臨床薬剤学分野）

1件

424,840円

424,840円

(2) 科学研究費補助金（学外分担）

①学術変革領域研究（学術研究支援基盤形成）

清 水 厚 志（医歯薬総合研究所 生体情報解析部門）

1件

2,470,000円

2,470,000円

②基盤研究（A）

長 島 広 相（医学部 内科学講座呼吸器内科分野）

黒 坂 大次郎（医学部 眼科学講座）

中 隣 克 己（生理学講座統合生理学分野（医））

清 水 厚 志（医歯薬総合研究所 生体情報解析部門）

大 桃 秀 樹（医歯薬総合研究所 生体情報解析部門）

小 巻 翔 平（医歯薬総合研究所 生体情報解析部門）

6件

8,112,000円

1,027,000円

260,000円

5,850,000円

91,000円

845,000円

39,000円

(3) 学術研究助成基金助成金（代表）

①基盤研究（B）

八 木 淳 子（医学部 神経精神科学講座）

望 月 圭（生理学講座統合生理学分野（医））

清 水 厚 志（医歯薬総合研究所 生体情報解析部門）

永 井 雅 人（いわて東北メディカル・メガバンク機構 臨床研究・疫学研究部門）

原 田 英 光（解剖学講座発生生物・再生医学分野（歯））

中 西 真 弓（薬学部 生物薬学講座機能生化学分野）

藤 原 俊 朗（薬学部 病態薬理学講座分子細胞薬理学分野）

7件

26,117,000円

7,884,500円

3,120,000円

3,282,500円

780,000円

3,510,000円

3,640,000円

3,900,000円

②基盤研究 (C)

106件

120,229,435 円

柿坂啓介	(医学部	内科学講座消化器内科分野)	1,430,000円
石垣泰	(医学部	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野)	1,300,000円
長谷川豊	(医学部	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野)	2,210,000円
旭浩一	(医学部	内科学講座腎・高血圧内科分野)	1,300,000円
田中文隆	(医学部	内科学講座腎・高血圧内科分野)	1,820,000円
吉川和寛	(医学部	内科学講座腎・高血圧内科分野)	1,300,000円
石田大	(医学部	内科学講座循環器内科分野)	1,300,000円
大澤正樹	(医学部	内科学講座循環器内科分野)	910,000円
山下雅大	(医学部	内科学講座呼吸器内科分野)	1,521,000円
仲哲治	(医学部	内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野)	1,820,000円
細野祐司	(医学部	内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野)	1,170,000円
鈴木悠地	(医学部	内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野)	1,300,000円
古和田周吾	(医学部	内科学講座血液腫瘍内科分野)	1,300,000円
前田哲也	(医学部	内科学講座脳神経内科・老年科分野)	1,950,000円
佐々木章	(医学部	外科学講座)	1,300,000円
梅邑晃	(医学部	外科学講座)	1,300,000円
片桐弘勝	(医学部	外科学講座)	1,560,000円
八重樫瑞典	(医学部	外科学講座)	1,040,000円
別府高明	(医学部	脳神経外科学講座)	1,300,000円
久保慶高	(医学部	脳神経外科学講座)	910,000円
西川泰正	(医学部	脳神経外科学講座)	910,000円
金一	(医学部	心臓血管外科学講座)	1,170,000円
迫田直也	(医学部	心臓血管外科学講座)	47,337円
辻龍典	(医学部	心臓血管外科学講座)	130,000円
枝木大治	(医学部	心臓血管外科学講座)	62,098円
出口博之	(医学部	呼吸器外科学講座)	780,000円
馬場長	(医学部	産婦人科学講座)	1,040,000円
利部正裕	(医学部	産婦人科学講座)	1,170,000円
外館玄一朗	(医学部	小児科学講座)	1,300,000円
片桐克則	(医学部	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座)	1,040,000円
池田怜吉	(医学部	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座)	390,000円
橋爪公平	(医学部	眼科学講座)	1,430,000円
小原航	(医学部	泌尿器科学講座)	780,000円
加藤廉平	(医学部	泌尿器科学講座)	1,040,000円
加藤陽一郎	(医学部	泌尿器科学講座)	260,000円
露久保敬嗣	(医学部	泌尿器科学講座)	780,000円
折居誠	(医学部	放射線医学講座)	390,000円
山口哲	(医学部	放射線医学講座)	130,000円
藤田友嗣	(医学部	救急・災害医学講座)	1,170,000円
下沖収	(医学部	総合診療医学講座)	910,000円
大間々真一	(医学部	総合診療医学講座)	1,040,000円
高橋智弘	(医学部	総合診療医学講座)	520,000円
千田光平	(医学部	岩手県高度救命救急センター)	2,340,000円
刑部光正	(医学部	病理診断学講座)	1,690,000円
杉本亮	(医学部	病理診断学講座)	520,000円
板持広明	(医学部	臨床腫瘍学講座)	910,000円
西村行秀	(医学部	リハビリテーション医学講座)	2,340,000円
山本佳世乃	(医学部	臨床遺伝学科)	650,000円
小林有美子	(医学部	臨床遺伝学科)	780,000円
齋野朝幸	(解剖学講座細胞生物学分野 (医))		1,040,000円
成田啓之	(解剖学講座細胞生物学分野 (医))		1,430,000円
中隣克己	(生理学講座統合生理学分野 (医))		2,730,000円
鈴木喜郎	(生理学講座統合生理学分野 (医))		1,170,000円

Ⅲ 学事の概要

駒切	洋	(生理学講座統合生理学分野 (医))	1,170,000円
鈴木	享	(生理学講座統合生理学分野 (医))	3,120,000円
鈴木	亘	(生化学講座分子医化学分野 (医))	1,690,000円
村木	靖	(微生物学講座感染症学・免疫学分野 (医))	1,560,000円
吉野	直人	(微生物学講座感染症学・免疫学分野 (医))	1,690,000円
佐藤	幸子	(薬理学講座情報伝達医学分野 (医))	1,040,000円
片岡	竜貴	(病理学講座機能病態学分野 (医))	1,300,000円
松崎	駿	(病理学講座機能病態学分野 (医))	1,690,000円
田鎖	愛理	(衛生学公衆衛生学講座 (医))	780,000円
事崎	由佳	(衛生学公衆衛生学講座 (医))	2,210,000円
高梨	信之	(衛生学公衆衛生学講座 (医))	520,000円
高宮	正隆	(法科学講座法医学分野 (医))	260,000円
上野	育子	(医歯薬総合研究所 超高磁場MR I 診断・病態研究部門)	2,080,000円
松田	豪	(医歯薬総合研究所 超高磁場MR I 診断・病態研究部門)	390,000円
阿保	亜紀子	(医歯薬総合研究所 医療開発研究部門)	2,600,000円
真柳	平	(医歯薬総合研究所 神経科学研究部門)	1,300,000円
世良田	聡	(医歯薬総合研究所 分子病態解析部門)	1,430,000円
須藤	洋一	(いわて東北メディカル・メガバンク機構 生体情報解析部門)	260,000円
大塚	弥生	(いわて東北メディカル・メガバンク機構 生体情報解析部門)	780,000円
小林	琢也	(歯学部 歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	390,000円
山田	浩之	(歯学部 口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野)	1,690,000円
鈴木	舟	(歯学部 口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野)	1,040,000円
星	勲	(歯学部 口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野)	1,521,000円
熊谷	美保	(歯学部 口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野)	845,000円
齊藤	桂子	(歯学部 口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野)	1,105,000円
橋口	大輔	(歯学部 口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野)	975,000円
岸	光男	(歯学部 口腔医学講座予防歯科学分野)	325,000円
大津	圭史	(解剖学講座発生生物・再生医学分野 (歯))	1,690,000円
石崎	明	(生化学講座細胞情報科学分野 (歯))	1,170,000円
帖佐	直幸	(生化学講座細胞情報科学分野 (歯))	1,170,000円
根本	孝幸	(微生物学講座分子微生物学分野 (歯))	1,300,000円
中村	正帆	(薬理学講座病態制御学分野 (歯))	1,040,000円
入江	太朗	(病理学講座病態解析学分野 (歯))	130,000円
佐藤	泰生	(病理学講座病態解析学分野 (歯))	260,000円
熊谷	章子	(法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 (歯))	1,040,000円
澤田	智史	(医療工学講座 (歯))	1,820,000円
田浦	太志	(薬学部 薬科学講座天然物化学分野)	1,560,000円
阪本	泰光	(薬学部 薬科学講座構造生物薬学分野)	1,300,000円
錦織	健児	(薬学部 生物薬学講座生体防御学分野)	650,000円
大橋	一晶	(薬学部 病態薬理学講座臨床医化学分野)	910,000円
幅野	渉	(薬学部 医療薬科学講座薬物代謝動態学分野)	1,300,000円
西谷	直之	(薬学部 臨床薬学講座情報薬科学分野)	1,378,000円
白石	博久	(薬学部 臨床薬学講座薬学教育学分野)	1,300,000円
伊藤	奈央	(看護学部 共通基盤看護学講座)	390,000円
遠藤	太	(看護学部 地域包括ケア講座)	650,000円
岩渕	光子	(看護学部 地域包括ケア講座)	1,040,000円
舘向	真紀	(看護学部 地域包括ケア講座)	130,000円
菊池	佑弥	(看護学部 地域包括ケア講座)	1,170,000円
蛎崎	奈津子	(看護学部 成育看護学講座)	1,170,000円
西里	真澄	(看護学部 成育看護学講座)	390,000円
藤澤	美穂	(教養教育センター 人間科学心理学・行動科学分野)	780,000円
東尾	浩典	(教養教育センター 化学科)	1,560,000円
松政	正俊	(教養教育センター 生物学科)	1,040,000円

②若手研究

41件

52,000,000円

阿部珠美	(医学部 内科学講座消化器内科分野)	130,000円
鈴木彰子	(医学部 内科学講座消化器内科分野)	2,990,000円
佐藤琢郎	(医学部 内科学講座消化器内科分野)	520,000円
菊池調	(医学部 内科学講座腎・高血圧内科分野)	1,690,000円
那須崇人	(医学部 内科学講座循環器内科分野)	520,000円
二宮亮	(医学部 内科学講座循環器内科分野)	1,430,000円
前田峻大	(医学部 内科学講座血液腫瘍内科分野)	1,040,000円
赤坂博	(医学部 内科学講座脳神経内科・老年科分野)	130,000円
鎌田麻美	(医学部 内科学講座脳神経内科・老年科分野)	1,820,000円
二階春香	(医学部 外科学講座)	1,820,000円
佐々木教之	(医学部 外科学講座)	1,690,000円
安藤太郎	(医学部 外科学講座)	1,170,000円
藤澤良介	(医学部 外科学講座)	1,690,000円
攝田典悟	(医学部 脳神経外科学講座)	1,040,000円
藤本健太郎	(医学部 脳神経外科学講座)	1,950,000円
南波孝昌	(医学部 脳神経外科学講座)	650,000円
佐藤翔	(医学部 産婦人科学講座)	1,690,000円
及川伸一	(医学部 耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座)	1,430,000円
金城伸祐	(医学部 耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座)	130,000円
鎌田啓文	(医学部 皮膚科学講座)	1,300,000円
五十嵐大樹	(医学部 泌尿器科学講座)	1,300,000円
田村大地	(医学部 泌尿器科学講座)	1,170,000円
家子義朗	(医学部 放射線腫瘍学科)	2,080,000円
伊藤謙	(病理学講座機能病態学分野(医))	2,210,000円
下田陽樹	(衛生学公衆衛生学講座(医))	390,000円
開勇人	(医歯薬総合研究所 医療開発研究部門)	2,730,000円
美辺詩織	(いわて東北メディカル・メガバンク機構 生体情報解析部門)	2,990,000円
鈴木啓太	(歯学部 歯科保存学講座歯周療法学分野)	1,430,000円
中里茉那美	(歯学部 歯科保存学講座歯周療法学分野)	1,430,000円
深澤翔太	(歯学部 歯科補綴学講座冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	1,170,000円
横田潤	(歯学部 歯科補綴学講座冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	780,000円
平野大輔	(歯学部 口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野)	1,430,000円
浅沼莞奈	(歯学部 口腔保健育成学講座歯科矯正学分野)	1,170,000円
松本識野	(歯学部 口腔保健育成学講座歯科矯正学分野)	1,430,000円
横田聖司	(生化学講座細胞情報科学分野(歯))	1,170,000円
氏家隼人	(生化学講座細胞情報科学分野(歯))	1,430,000円
米澤穂波	(薬学部 医療薬科学講座衛生化学分野)	1,560,000円
野里同	(看護学部 地域包括ケア講座)	260,000円
飯泉由美	(教養教育センター 人間科学科心理学・行動科学分野)	1,040,000円

③研究活動スタート支援

2件

2,730,000円

森川剛	(法科学講座法医学分野(医))	1,300,000円
八戸勇樹	(歯学部 歯科補綴学講座冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	1,430,000円

(4) 学術研究助成基金助成金(学外分担)

①基盤研究(B)

12件

3,796,000円

石垣泰	(医学部 内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野)	78,000円
八代諭	(医学部 内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野)	78,000円
齊藤元	(医学部 呼吸器外科学講座)	130,000円
池田怜吉	(医学部 耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座)	260,000円
大塚耕太郎	(医学部 神経精神科学講座)	260,000円
丹野高三	(衛生学公衆衛生学講座(医))	65,000円
清水厚志	(医歯薬総合研究所 生体情報解析部門)	260,000円
大桃秀樹	(医歯薬総合研究所 生体情報解析部門)	260,000円

Ⅲ 学事の概要

小林 琢也	(歯学部 歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	130,000円
黒瀬 雅之	(生理学講座病態生理学分野 (歯))	1,300,000円
中村 正帆	(薬理学講座病態制御学分野 (歯))	650,000円
江尻 正一	(教養教育センター 情報科学科数学分野)	325,000円
②基盤研究 (C)		28件 3,874,000円
馬場 長	(医学部 産婦人科学講座)	65,000円
池田 怜吉	(医学部 耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座)	130,000円
金城 伸祐	(医学部 耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座)	130,000円
小野寺 直人	(医学部 臨床検査医学・感染症学講座)	39,000円
齋野 朝幸	(解剖学講座細胞生物学分野 (医))	130,000円
アリフ・ウルハサン	(薬理学講座情報伝達医学分野 (医))	65,000円
高橋 都	(医学部)	65,000円
小巻 翔平	(医歯薬総合研究所 生体情報解析部門)	65,000円
吉岡 芳親	(医歯薬総合研究所)	39,000円
島崎 伸子	(歯学部 歯科補綴学講座冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	130,000円
川井 忠	(歯学部 口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野)	39,000円
田中 良一	(歯学部 口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野)	260,000円
橋口 大輔	(歯学部 口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野)	65,000円
齊藤 桂子	(歯学部 口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野)	65,000円
原田 英光	(解剖学講座発生生物・再生医学分野 (歯))	65,000円
原田 英光	(解剖学講座発生生物・再生医学分野 (歯))	520,000円
石崎 明	(生化学講座細胞情報科学分野 (歯))	39,000円
石崎 明	(生化学講座細胞情報科学分野 (歯))	65,000円
阪本 泰光	(薬学部 薬科学講座構造生物薬学分野)	130,000円
中西 真弓	(薬学部 生物薬学講座機能生化学分野)	130,000円
菖蒲澤 幸子	(看護学部 共通基盤看護学講座)	91,000円
高橋 亮	(看護学部 成育看護学講座)	650,000円
高橋 亮	(看護学部 成育看護学講座)	13,000円
伊東 佐由美	(看護学部 成育看護学講座)	13,000円
飯泉 由美	(教養教育センター 人間科学科心理学・行動科学分野)	26,000円
佐々木 亮平	(教養教育センター 人間科学科体育学分野)	520,000円
東尾 浩典	(教養教育センター 化学科)	130,000円
吉田 潤	(教養教育センター 化学科)	195,000円

4. 厚生労働科学研究費補助金 20件 30,251,430円

(1) 行政推進調査事業費補助金 (分担)

①肝炎等克服政策研究事業

宮坂 昭生 (医学部 内科学講座消化器内科分野) 300,000円

②腎疾患政策研究事業

旭 浩一 (医学部 内科学講座腎・高血圧内科分野) 400,000円

③長寿科学政策研究事業

西村 行秀 (医学部 リハビリテーション医学講座) 500,000円

西山 一成 (医学部 リハビリテーション医学講座) 200,000円

(2) 科学研究費補助金 (代表)

①エイズ対策政策研究事業

吉野 直人 (微生物学講座感染症学・免疫学分野 (医)) 19,397,000円

(3) 科学研究費補助金 (分担)

①循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

小笠原 邦昭 (学長) 200,000円

丹野 高三 (衛生学公衆衛生学講座 (医)) 750,000円

丹野 高三 (衛生学公衆衛生学講座 (医)) 700,000円

板橋 亮 (医学部 内科学講座脳神経内科・老年科分野) 200,000円

②難治性疾患政策研究事業

松 本 主 之 (医学部 内科学講座消化器内科分野)	254,430円
松 本 主 之 (医学部 内科学講座消化器内科分野)	200,000円
旭 浩 一 (医学部 内科学講座腎・高血圧内科分野)	300,000円
石 垣 泰 (医学部 内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野)	200,000円
古 山 和 道 (生化学講座分子医化学分野 (医))	500,000円
佐々木 真理 (医歯薬総合研究所 超高磁場MR I 診断・病態研究部門)	700,000円
小 林 有美子 (医学部 臨床遺伝学科)	1,200,000円

③腎疾患政策研究事業

旭 浩 一 (医学部 内科学講座腎・高血圧内科分野)	450,000円
----------------------------	----------

④肝炎等克服政策研究事業

宮 坂 昭 生 (医学部 内科学講座消化器内科分野)	1,000,000円
----------------------------	------------

⑤障害者政策総合研究事業

八 木 淳 子 (医学部 神経精神科学講座)	1,800,000円
------------------------	------------

⑥認知症政策研究事業

前 田 哲 也 (医学部 内科学講座脳神経内科・老年科分野)	1,000,000円
--------------------------------	------------

5. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 16件 137,730,286 円

(1) 委託事業 (代表)

①革新的がん医療実用化研究事業

仲 哲 治 (医学部 内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野)	83,200,000円
西 塚 哲 (医歯薬総合研究所 医療開発研究部門)	32,277,772円

②橋渡し研究プログラム

山 下 雅 大 (医学部 内科学講座呼吸器内科分野)	2,200,000円
----------------------------	------------

(2) 委託事業 (分担)

①革新的がん医療実用化研究事業

丹 野 高 三 (衛生学公衆衛生学講座 (医))	2,600,000円
志 賀 清 人 (医学部 耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座)	650,000円
別 府 高 明 (医学部 脳神経外科学講座)	260,000円
馬 場 誠 朗 (医学部 外科学講座)	130,000円

②認知症研究開発事業

前 田 哲 也 (医学部 内科学講座脳神経内科・老年科分野)	11,500,000円
前 田 哲 也 (医学部 内科学講座脳神経内科・老年科分野)	1,300,000円

③肝炎等克服実用化研究事業 (肝炎等克服緊急対策研究事業)

黒 田 英 克 (医学部 内科学講座消化器内科分野)	1,040,000円
----------------------------	------------

④障害者対策総合研究開発事業 (精神障害分野)

福 本 健太郎 (医学部 神経精神科学講座)	390,000円
------------------------	----------

⑤障害者対策総合研究開発事業 (その他)

小 林 有美子 (医学部 臨床遺伝学科)	650,000円
----------------------	----------

⑥成育疾患克服等総合研究事業

清 水 厚 志 (医歯薬総合研究所 生体情報解析部門)	1,040,000円
-----------------------------	------------

⑦臨床研究・治験推進研究事業

佐々木 真理 (医歯薬総合研究所 超高磁場MRI診断・病態研究部門)	208,000円
------------------------------------	----------

⑧新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業

高 橋 史 朗 (教養教育センター 情報科学科医用工学分野)	260,000円
--------------------------------	----------

⑨医療研究開発革新基盤創成事業

高 橋 史 朗 (教養教育センター 情報科学科医用工学分野)	24,514円
--------------------------------	---------

6. その他公的機関受託研究等 12件 44,140,788円

- | | |
|--|------------------------|
| (1) 国立研究開発法人科学技術振興機構（ムーンショット型研究開発事業、分担）
長谷川 豊（医学部 内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野） | 19,500,000円 |
| (2) 国立がん研究センター研究開発費（分担） | |
| ①多目的コホートに基づくがん予防など健康の維持・増進に役立つエビデンスの構築に関する研究
丹 野 高 三（衛生学公衆衛生学講座（医）） | 1,500,000円 |
| ②ゲノム情報を用いた一次・二次予防のための技術開発と連携研究基盤の構築と運用
清 水 厚 志（医歯薬総合研究所 生体情報解析部門） | 1,000,000円 |
| (3) 農林水産技術会議（みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進（委託プロジェクト研究）、分担）
松 政 正 俊（教養教育センター 生物学科） | 1,303,000円 |
| (4) 環境総合推進（自然共生サイトの生物多様性と構成種の生態に関する観測研究・基盤データ集積、分担）
松 政 正 俊（教養教育センター 生物学科） | 1,300,000円 |
| (5) 厚生労働省（慢性疼痛診療システム均てん化等事業、分担）
大 畑 光 彦（医学部 麻酔学講座） | 1,122,000円 |
| (6) 青森県（青森県量子科学センター委託研究事業、代表）
小 林 正 和（医学部 脳神経外科学講座） | 2,999,880円 |
| (7) 公益財団法人JKA（自転車等機械振興事業、代表）
黒 瀬 雅 之（生理学講座病態生理学分野（歯）） | 10,000,000円 |
| (8) 岩手県（いわて戦略的 DX・GX 等研究開発推進事業（可能性試験ステージ）、代表）
阪 本 泰 光（薬学部 薬科学講座構造生物薬学分野） | 997,346円 |
| (9) 協会けんぽ（全国健康保険協会外部有識者を活用した委託研究事業、代表）
丹 野 高 三（衛生学公衆衛生学講座（医）） | 2,748,562円 |
| (10) さんりく基金（さんりく基金調査研究事業、代表）
中 村 啓 哉（病理学講座機能病態学分野（医））
黒 瀬 雅 之（生理学講座病態生理学分野（歯）） | 1,000,000円
670,000円 |

7. 解剖体慰霊祭および解剖体数

令和6年6月22日（土）に矢巾キャンパス大堀記念講堂で解剖体慰霊祭を行いました。

- （１）慰霊祭の対象者数：病理解剖21霊、正常解剖55霊、実践的手術手技向上研修 6霊
 （２）本年度の解剖体数：病理解剖14体、正常解剖58体、実践的手術手技向上研修 3体

8. 白寿会員数

- （１）会員数（生存者）
 令和6年度入会者69人（総会員数4,176人）
 （２）献体者数
 令和6年度献体者74人（総献体者数2,096人）

9. 海外出張者数（延べ人数）

医学部	109人
歯学部	24人
薬学部	7人
看護学部	1人
教養教育センター	2人

10. 国家試験成績

学 校	学部・学科等	国 家 試 験	受 験 者 (新卒) [既卒]	合 格 者 (新卒) [既卒]	合 格 率 (新卒) [既卒]	全国平均 (新卒) [既卒]
岩手医科大学	医学部	第119回医師国家試験 実施：令和7年2月8日～9日 発表：令和7年3月14日	132名 (120名) [12名]	121名 (115名) [6名]	91.7% (95.8%) [50.0%]	92.3% (95.0%) [59.0%]
		第118回歯科医師国家試験 実施：令和7年2月1日～2日 発表：令和7年3月14日	65名 (37名) [28名]	32名 (20名) [12名]	49.2% (54.1%) [42.9%]	70.3% (84.0%) [44.9%]
		第110回薬剤師国家試験 実施：令和7年2月22日～23日 発表：令和7年3月25日	111名 (31名) [80名]	63名 (27名) [36名]	56.8% (87.1%) [45.0%]	68.9% (85.0%) [43.9%]
	看護学部	第114回看護師国家試験 実施：令和7年2月16日 発表：令和7年3月24日	91名 (91名) [-]	88名 (88名) [-]	96.7% (96.7%) [-]	90.1% (95.9%) [44.9%]
		第111回保健師国家試験 実施：令和7年2月14日 発表：令和7年3月24日	19名 (19名) [-]	18名 (18名) [-]	94.7% (94.7%) [-]	94.0% (96.4%) [43.1%]
		第108回助産師国家試験 実施：令和7年2月13日 発表：令和7年3月24日	10名 (10名) [-]	10名 (10名) [-]	100.0% (100.0%) [-]	98.9% (99.3%) [69.2%]
岩手医科大学 医療専門学校	歯科衛生学科	第34回歯科衛生士国家試験 実施：令和7年3月2日 発表：令和7年3月26日	34名 (33名) [1名]	34名 (33名) [1名]	100.0% (100.0%) [100.0%]	91.0% [-] [-]

IV 附属病院の概要

1. 患者数

区 分				患者数（人）		一日平均（人）	
				令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度
入院患者	附属病院	附属病院（医科）		278,483	280,480	761	768
		高度救命救急センター		18,508	16,642	51	46
		歯科		2,470	2,572	7	7
		小 計		299,461	299,694	819	821
	附属内丸 メディカル センター	附属内丸メディカルセンター（医科）		6,825	7,758	19	21
		歯科医療センター		2	66	0	0
		小 計		6,827	7,824	19	21
	合 計		306,288	307,518	838	842	
外来患者	附属病院	附属病院（医科）	新来	7,774	7,863	29	30
			再来	165,189	163,422	619	617
			計	172,963	171,285	648	647
		高度救命救急センター		2,253	2,093	8	8
		歯科	新来	2,017	1,931	8	7
			再来	9,108	7,528	34	28
			計	11,125	9,459	42	35
	小 計		186,341	182,837	698	690	
	附属内丸 メディカル センター	附属内丸メディカルセン ター（医科）	新来	16,736	16,438	63	62
			再来	232,329	225,806	870	852
			計	249,065	242,244	933	914
		歯科医療センター	新来	5,327	5,094	20	19
			再来	82,643	77,481	310	292
			計	87,970	82,575	330	311
		小 計		337,035	324,819	1,263	1,225
	合 計		523,376	507,656	1,961	1,915	

- ・ 入院患者数は在院患者数（24時現在の患者数）に退院患者数を加算した延べ患者数である。
- ・ 外来患者数には入院者外来数は含まない。

2. 救急患者取扱件数

区 分		令和5年度	令和6年度
附属病院	附属病院（医科）	6,101	6,005
	高度救命救急センター	3,913	3,775
	歯科	344	355
	合 計	10,358	10,135

3. 分娩件数

令和5年度	令和6年度
256	285

4. アイバンク登録者数

登録者 18 人(11,024 人) 角膜提供者 5 人(1,154 人) 被角膜移植者 0 眼(1,421 眼) () 内は総数

5. 手術件数および死亡者数

区 分		手術件数		死亡者数	
		令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度
附属病院	附属病院（医科）	8,077	7,871	579	618
	高度救命救急センター	398	459	65	63
	歯科	340	373	0	0
	小 計	8,815	8,703	644	681
附属内丸メディカルセンター	附属内丸メディカルセンター（医科）	1,634	1,953	0	1
	歯科医療センター			0	0
	小 計	1,634	1,953	0	1
合 計		10,449	10,656	644	682

V 財務の概要

令和6年度は、学生収容定員未充足に伴う学納金収入の減少や世界情勢の変化に起因したエネルギー価格高騰、物価の上昇などが本学の財務状況に大きな影響を及ぼしました。このような厳しい状況下において、本学は、教育・研究・医療の質向上を目指し、各事業を推進しました。

また、補助金や研究費等の外部資金を積極的に獲得したほか、矢巾附属病院と内丸メディカルセンターそれぞれの病院機能を最大限に活かし、経営基盤の更なる強化に努めました。

事業活動収入合計は、前年度より約8億円増加の561億6,094万円を計上しました。主な増加要因は、医療収入が前年度より約10億円増加の424億4,766万円、寄付金が前年度より約9,000万円増加の6億6,510万円を計上したことが挙げられます。

事業活動支出合計は、前年度より約4億円増加の607億1,248万円を計上しました。主な増加要因は、医療材料費が前年度より約3億円増加の85億8,833万円、業務委託費が約1億円増加の61億1,862万円、人件費が約1億円増加の233億4,097万円を計上したことが挙げられます。

以上により、当期決算における、事業活動収入から事業活動支出を差し引いた基本金組入前当年度収支差額は、前年度より約4億円増加の△45億5,154万円となり、矢巾附属病院関連等の基本金組入額△16億9,650万円を計上したことにより、当年度収支差額は△62億4,804万円となりました。

1. 事業活動収支

(1) 事業活動収入

事業活動収入の合計額561億6,094万円は、前年度比7億8,377万円（1.4%）増加、予算比では8億2,178万円（1.4%）下回りました。

区分別では、教育活動収入合計558億9,412万円は前年度比8億4,431万円（1.5%）増加、教育活動外収入合計2,473万円は前年度比1,536万円（163.9%）増加、特別収入合計2億4,209万円は前年度比7,590万円（23.9%）減少しました。

①学生生徒等納付金70億4,688万円は、前年度比1億607万円（1.5%）減少しました。

主な減少要因は、学生数の減少によるものです。

各学部等の内訳は次のとおりです。

	医 学 部	歯 学 部	薬 学 部	看護学部	医療専門学校	計
授 業 料	20億5,328万円	6億2,172万円	3億2,229万円	3億6,463万円	4,278万円	34億470万円
入 学 金	5億850万円	1,980万円	1,365万円	2,675万円	675万円	5億7,545万円
実験実習費	4億45万円	—	4,579万円	5,969万円	2,125万円	5億2,718万円
教育充実費	10億6,850万円	2億2,320万円	—	—	—	12億9,170万円
施設整備費	8億1,580万円	2億4,200万円	9,880万円	9,125万円	—	12億4,785万円
計	48億4,653万円	11億672万円	4億8,053万円	5億4,232万円	7,078万円	70億4,688万円

②医療収入 424 億 4,766 万円は、前年度比 10 億 4,066 万円（2.5%）増加しました。

附属病院（医科）と内丸メディカルセンター（医科）を合計した医科部門の医療収入は、前年度比 10 億 2,552 万円（2.5%）の増加、附属病院（歯科）と内丸メディカルセンター（歯科）を合計した歯科部門の医療収入は、前年度比 1,514 万円（1.4%）の増加となりました。

病院別の医療収入内訳は、次のとおりです。

	附属病院(医科)	附属病院(歯科)	内丸メディカルセンター(医科)	内丸メディカルセンター(歯科)	計
入院収入	271 億 1,557 万円	1 億 9,503 万円	5 億 9,954 万円	241 万円	279 億 1,255 万円
外来収入	82 億 5,736 万円	6,238 万円	52 億 1,608 万円	7 億 8,857 万円	143 億 2,439 万円
その他の医療収入	1 億 8,227 万円	104 万円	2,680 万円	61 万円	2 億 1,072 万円
計	355 億 5,520 万円	2 億 5,845 万円	58 億 4,242 万円	7 億 9,159 万円	424 億 4,766 万円

③補助金合計額は 33 億 6,379 万円で、前年度比 3 億 2,097 万円（8.7%）減少しました。

区分別では、教育活動収入の経常費等補助金 31 億 6,244 万円は前年度比 4 億 2,663 万円（11.9%）減少しました。また、国庫補助金として私立大学等経常費補助金 14 億 9,273 万円、医療研究開発推進事業費補助金（いわて東北メディカル・メガバンク機構）3 億 6,827 万円等、地方公共団体補助金として岩手県ドクターヘリ運航事業費補助金 3 億 2,376 万円、高度救命救急センター運営費補助金 2 億 5,619 万円等がありました。

特別収入の施設設備補助金 2 億 134 万円は、前年度比 1 億 566 万円（110.4%）増加し、大学改革推進等補助金（医師養成課程充実のための教育環境整備）1 億 2,800 万円、高度救命救急センター設備整備費補助金 5,000 万円等がありました。

（2）事業活動支出

事業活動支出の合計額 607 億 1,248 万円は、前年度比 3 億 5,659 万円（0.6%）増加、予算比では 2 億 6,876 万円（0.4%）下回りました。

区分別では、教育活動支出合計 605 億 5,430 万円は前年度比 3 億 4,608 万円（0.6%）増加、特別支出合計 9,862 万円は前年度比 1,601 万円（19.4%）増加しました。

教育活動外支出は、5,956 万円を計上しました。

①人件費 233 億 4,097 万円は、前年度比 1 億 4,928 万円（0.6%）増加しました。

給与、賞与及び所定福利費の合計 217 億 6,162 万円は、前年度比 716 万円（0.03%）減少し、退職金と退職給与引当金繰入額の合計 15 億 4,206 万円は、前年度比 1 億 7,231 万円（12.6%）増加しました。

②医療経費 198 億 9,518 万円は、前年度比 3 億 3,359 万円（1.7%）増加しました。

医薬品費は、前年度比 7,307 万円（0.7%）の増加、医療材料費は 2 億 5,201 万円（3.0%）の増加、給食材料費は 852 万円（3.8%）増加しました。

医療収入に対する医療経費割合は 46.9%となり、前年度より 0.3%減少しました。

病院別の医療経費内訳は次のとおりです。

	附属病院(医科)	附属病院(歯科)	内丸メディカルセンター(医科)	内丸メディカルセンター(歯科)	計
医薬品費	85億7,839万円	1,117万円	24億7,880万円	554万円	110億7,390万円
(対医療収入比)	(24.1%)	(4.3%)	(42.4%)	(0.7%)	(26.2%)
医療材料費	77億7,557万円	443万円	6億6,131万円	1億4,702万円	85億8,833万円
(対医療収入比)	(21.9%)	(1.7%)	(11.3%)	(18.6%)	(20.2%)
給食材料費	2億2,446万円	246万円	603万円	—	2億3,295万円
(対医療収入比)	(0.6%)	(1.0%)	(0.1%)	—	(0.5%)
計	165億7,842万円	1,806万円	31億4,614万円	1億5,256万円	198億9,518万円
(対医療収入比)	(46.6%)	(7.0%)	(53.8%)	(19.3%)	(46.9%)

- ③消耗品費 6億7,511万円は、前年度比 2億2,008万円（24.6%）減少しました。
- ④光熱水費は、重油料 3億1,430万円、ガス料 4億2,165万円、電気料 8億8,658万円、水道料 1億2,893万円の合計 17億5,146万円となり、前年度比 1,040万円（0.6%）増加しました。
- ⑤修繕費は、施設修繕費 1億3,717万円、機器備品修繕費 2億2,187万円、合計 3億5,904万円となり前年度比 5,288万円（12.8%）減少しました。
- ⑥業務委託費 61億1,862万円は、前年度比 1億2,636万円（2.1%）増加しました。
病院別では、附属病院（医科）34億5,477万円、附属病院（歯科）876万円、内丸メディカルセンター（医科）9億944万円、内丸メディカルセンター（歯科）1億3,370万円、その他 16億1,195万円です。
- ⑦福利費 2億7,823万円は、学生福利費 3,199万円、職員福利費 2億4,624万円であり、健康診断経費等です。
- ⑧減価償却額 56億5,272万円は、前年度より 4,165万円減少しました。
- ⑨公租公課 1億8,925万円は、消費税 1億2,522万円、法人税・事業税 2,038万円、固定資産税・都市計画税 4,040万円等です。
- ⑩借入金利息により 5,956万円を計上しました。
- ⑪資産処分差額 9,862万円は、耐用年数が経過した資産未償却額の除却等です。

2. 資本収支

（1）資産の部

- ①施設関係支出 2億3,492万円は、マルチメディア教育研究棟総合情報センターサーバー室電源増設工事による 1億7,213万円等です。
- ②設備関係支出 6億2,624万円は、教育研究用機器備品 6億1,221万円等です。
- ③貯蔵品残高は、年度末に棚卸を行い調査した在庫分であり、医薬品・医療材料 8億5,404万円、歯科貴金属 475万円、合計 8億5,879万円です。

（2）負債、純資産の部

- ①退職給与引当金残高は 143億1,042万円です。

- ②前受金残高 14 億 1,007 万円は、令和 7 年度入学生の学生生徒等納付金等です。
 - ③預り金残高 9 億 9,917 万円は、源泉所得税 7,150 万円、県市町村民税 1 億 1,353 万円、私学共済掛金 1 億 6,039 万円等です。
 - ④基本金は 16 億 9,650 万円を組入れし、1,341 億 1,350 万円となりました。
 - ⑤当年度収支差額△62 億 4,804 万円と、前年度繰越収支差額△575 億 6,718 万円を合計した翌年度繰越収支差額は、△638 億 1,522 万円となりました。
 - ⑥純資産の部合計（基本金+繰越収支差額）は、前年度より 45 億 5,154 万円減少し、702 億 9,829 万円となりました。
 - ⑦令和 6 年度末現在で作成する財産目録純資産額（資産総額－負債総額）は、702 億 9,829 万円です。
- ※各科目の説明等は 88 ページ以降に記載しています。

3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

（1）経営状況の分析

日本私立学校振興・共済事業団が公表する「定量的な経営判断指標」に基づき、令和 6 年度決算を適用した結果、「B0」区分（イエローゾーン予備段階）に該当いたしました。これは、経営上の一定のリスクが認められるものの、学校法人自らの経営努力により改善が可能な水準にあることを示しております。

令和 6 年度においては、中東情勢の緊迫化やエネルギー価格の高止まり、円安傾向の継続など、外部環境の影響が財務面に及ぶなか、光熱費や物価の上昇等により経費が増加いたしました。そのような状況下においても、矢巾附属病院および内丸メディカルセンターにおける医療収入は前年度に引き続き増収を維持し、資金収支の面では資金を確保していくことが可能な状態ではあります。

※定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分

教育研究活動のキャッシュフローを基礎に、外部負債と運用資産の状況により学校法人の経営状態を区分したものです。A1～D3 の 14 区分のうち、A3 以上が正常な経営状態となります。

（2）経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

本学は、医・歯・薬・看護学部を擁する医療系総合大学として、社会的使命を果たしつつ、高度な専門人材の育成と教育・研究活動並びに医療の質的向上に努めてまいりました。令和 6 年度においては、矢巾附属病院および内丸メディカルセンターの機能強化と病院運営の効率化を図った結果、医療収入は引き続き堅調に推移し、420 億円を超える過去最高額となり経営改善の成果が顕著に表れました。

一方で、18 歳人口の減少が加速する中、大学間競争は一層激化しており、入学定員の充足と安定的な学生納付金収入の確保は引き続き重要な課題です。また、エネルギー価格の高止まりや物価上昇などの外的要因による恒常的なコスト増加も、本法人の財政に大きな影響を与えております。

こうした課題に対して、本学は令和 8 (2026) 年 4 月 1 日を目途に、歯科及び一部の医科を除いた内丸メディカルセンターの診療機能を矢巾附属病院へ集約する計画としており、高度医療の提供、医育機関としての役割、地域医療に貢献する体制は維持しつつ、将来を見据えた持続可能な診療体制の構築を図ることと、財政基盤の安定化を実現し、将来にわたって持続可能な運営体制の構築を目指してまいります。

4. 令和6年度事業活動収支計算書

＜収入の部＞			＜支出の部＞			(単位：千円)	
区 分	科 目	金 額		科 目		金 額	
教 育 活 動 収 支	1. 学 生 生 徒 等 納 付 金	7,046,882	1. 人 件 費			23,340,974	
	(1) 授 業 料	3,404,695	(1) 教 員 人 件 費			5,991,160	
	(2) 入 学 金	575,450	(2) 職 員 人 件 費			15,770,456	
	(3) 実 験 実 習 費	527,187	(3) 役 員 報 酬			37,300	
	(4) 教 育 充 実 費	1,291,700	(4) 退 職 金			180,318	
	(5) 施 設 整 備 費	1,247,850	(5) 退 職 給 与 引 当 金 繰 入 額			1,361,740	
	2. 手 数 料	174,151	2. 諸 経 費			37,213,322	
	3. 医 療 収 入	42,447,659	(1) 医 療 経 費			19,895,180	
	(1) 入 院 収 入	27,912,545	(2) 消 耗 品 費			675,110	
	(2) 外 来 収 入	14,324,390	(3) 光 熱 水 費			1,751,455	
	(3) そ の 他 の 医 療 収 入	210,724	(4) 旅 費			167,225	
	4. 寄 付 金	665,095	(5) 印 刷 製 本 費			93,905	
	(1) 特 別 寄 付 金	372,323	(6) 通 信 費			114,092	
	(2) 一 般 寄 付 金	289,989	(7) 交 通 運 搬 費			61,517	
	(3) 現 物 寄 付	2,783	(8) 洗 濯 費			60,068	
	5. 経 常 費 等 補 助 金	3,162,443	(9) 修 繕 費			359,035	
	(1) 私立大学等経常費補助金	1,492,726	(10) 諸 会 費			94,807	
	(2) そ の 他 の 国 庫 補 助 金	583,826	(11) 賃 借 料			766,627	
	(3) 地 方 公 共 団 体 補 助 金	1,085,491	(12) 業 務 委 託 費			6,118,618	
	(4) 学 術 研 究 振 興 資 金	400	(13) 福 利 費			278,233	
	6. 付 随 事 業 収 入	1,297,986	(14) 減 価 償 却 額			5,652,715	
	(1) 補 助 活 動 収 入	157,248	(15) 公 租 公 課			189,251	
	(2) 受 託 事 業 収 入	1,090,235	(16) そ の 他			935,484	
	(3) 附 属 事 業 収 入	26,472					
	(4) 保 育 料 等 収 入	24,031					
	7. 雑 収 入	1,099,903					
	A 教 育 活 動 収 入 計	55,894,119	E 教 育 活 動 支 出 計			60,554,296	
活 動 外 収 支	8. 受 取 利 息 配 当 金	24,733	3. 借 入 金 等 利 息			59,562	
	B 教 育 活 動 外 収 入 計	24,733	F 教 育 活 動 外 支 出 計			59,562	
特 別 収 支	9. 資 産 売 却 差 額	0	4. 資 産 処 分 差 額			98,617	
	10. そ の 他 の 特 別 収 入	242,085	5. そ の 他 の 特 別 支 出			0	
	(1) 施 設 設 備 寄 付 金	1,000					
	(2) 施 設 設 備 現 物 寄 付	38,798					
	(3) 施 設 設 備 補 助 金	201,342					
	(4) 過 年 度 修 正 額	945					
	C 特 別 収 入 計	242,085	G 特 別 支 出 計			98,617	
	D 事 業 活 動 収 入 計	56,160,937	H 事 業 活 動 支 出 計			60,712,475	

① 教育活動収支差額 (A-E)	△ 4,660,177	⑥ 基本金組入額合計	△ 1,696,501
② 教育活動外収支差額 (B-F)	△ 34,829	⑦ 当年度収支差額 (⑤+⑥)	△ 6,248,039
③ 経常収支差額 (①+②)	△ 4,695,006	⑧ 前年度繰越収支差額	△ 57,567,178
④ 特別収支差額 (C-G)	143,468	⑨ 基本金取崩額	0
⑤ 基本金組入前当年度収支差額 (D-H)	△ 4,551,538	⑩ 翌年度繰越収支差額 (⑦+⑧+⑨)	△ 63,815,217

5. 令和6年度資金収支計算書

<収入の部>

<支出の部>

(単位:千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
1. 学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	7,046,882	1. 人 件 費 支 出	23,204,632
2. 手 数 料 収 入	174,151	(1) 教 員 人 件 費 支 出	5,991,160
3. 寄 付 金 収 入	663,312	(2) 職 員 人 件 費 支 出	15,770,456
(1) 特 別 寄 付 金 収 入	373,323	(3) 役 員 報 酬 支 出	37,300
(2) 一 般 寄 付 金 収 入	289,989	(4) 退 職 金 支 出	1,405,716
4. 補 助 金 収 入	3,363,785	2. 諸 経 費 支 出	31,509,548
(1) 国 庫 補 助 金 収 入	2,206,074	(1) 医 療 経 費 支 出	19,862,020
(2) 地 方 公 共 団 体 補 助 金 収 入	1,157,311	(2) 一 般 教 育 研 究 経 費 支 出	8,211,975
(3) 学 術 研 究 振 興 資 金 収 入	400	(3) 管 理 経 費 支 出	3,435,553
5. 資 産 売 却 収 入	297	3. 借 入 金 等 利 息 支 出	59,562
6. 付 随 事 業・収 益 事 業 収 入	1,297,986	4. 借 入 金 等 返 済 支 出	1,540,000
7. 医 療 収 入	42,447,659	5. 施 設 関 係 支 出	234,918
8. 受 取 利 息・配 当 金 収 入	24,733	(1) 建 物 支 出	234,918
9. 雑 収 入	1,100,848	6. 設 備 関 係 支 出	626,240
10. 前 受 金 収 入	1,410,070	(1) 教 育 研 究 用 機 器 備 品 支 出	612,209
11. そ の 他 の 収 入	10,163,161	(2) そ の 他 の 設 備 関 係 支 出	14,031
(1) 前 期 末 未 収 入 金 収 入	9,137,470	7. 資 産 運 用 支 出	300,100
(2) 預 り 金 受 入 等 収 入	1,025,691	8. そ の 他 の 支 出	4,226,290
12. 資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 10,780,994	(1) 前 期 末 未 払 金 支 払 支 出	3,282,316
13. 前 年 度 繰 越 支 払 資 金	11,839,786	(2) 預 り 金 支 払 等 支 出	943,974
		9. 資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 3,195,143
		10. 翌 年 度 繰 越 支 払 資 金	10,245,529
収 入 の 部 合 計	68,751,676	支 出 の 部 合 計	68,751,676

6. 貸借対照表

令和7年3月31日

(単位:千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	本 年 度 末	科 目	本 年 度 末
固定資産	83,991,986	固定負債	27,191,875
有形固定資産	78,893,630	長期借入金	12,685,000
土地	10,348,766	退職給与引当金	14,310,420
建物	56,298,653	長期未払金	196,455
構築物	2,075,765	流動負債	7,040,000
教育研究用機器備品	7,048,503	短期借入金	1,540,000
管理用機器備品	90,079	未払金	3,090,757
図書	3,023,101	業者未払金	2,447,630
車両	8,763	その他の未払金	643,127
特定資産	4,904,498	前受金	1,410,070
第3号基本金引当特定資産	404,498	授業料	370,512
退職給与引当特定資産	2,700,000	入学金	549,375
償却資産引当特定資産	1,800,000	実験実習費	56,733
その他の固定資産	193,858	教育充実費	267,100
電話加入権	6,772	施設整備費	128,800
敷金・保証金・預託金	1,507	その他の前受金	37,550
有価証券	57,318	預り金	999,173
施設利用権	75,903	源泉徴収所得税	71,500
奨学金	42,515	県市町村民税	113,527
貸付金	9,843	私学共済掛金	160,391
流動資産	20,538,177	その他の預り金	653,755
現金預金	10,245,529	負債の部合計	34,231,875
未収入金	9,352,589	純資産の部	
貯蔵品	858,793	基本金	134,113,505
前払金	61,669	繰越収支差額	△ 63,815,217
仮払金	19,597	純資産の部合計	70,298,288
資産の部合計	104,530,163	負債及び純資産の部合計	104,530,163

注記 ・退職給与引当金の額の算定は、次のとおりです。

期末要支給額13,356,558,544円の100%を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上しています。

・減価償却額の累計額の合計額 64,742,603,720円

・翌年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額 12,966,061,166円

7. 医療収入内訳

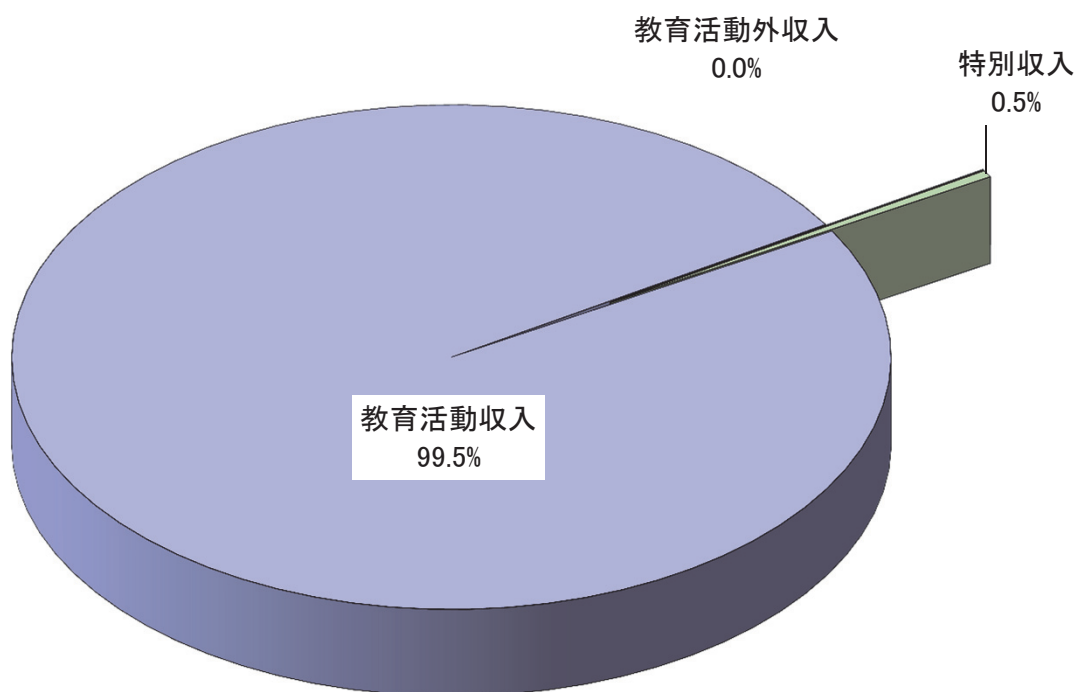
項 目			令和 5 年度決算	令和 6 年度決算
附属病院 （医科）	入 院 収 入	1 日 平 均 患 者 数	761 人	768 人
		1 人 1 日 平 均 単 価	89,854 円	92,323 円
		金 額	25,026,693 千円	25,880,043 千円
		増 減 率	－	3.4 ％
	外 来 収 入	1 日 平 均 患 者 数	648 人	647 人
		1 人 1 日 平 均 単 価	46,351 円	47,814 円
		金 額	8,019,500 千円	8,197,888 千円
		増 減 率	－	2.2 ％
附属病院 （歯科）	入 院 収 入	1 日 平 均 患 者 数	7 人	7 人
		1 人 1 日 平 均 単 価	79,041 円	76,330 円
		金 額	202,504 千円	195,023 千円
		増 減 率	－	△ 3.7 ％
	外 来 収 入	1 日 平 均 患 者 数	42 人	35 人
		1 人 1 日 平 均 単 価	5,897 円	6,726 円
		金 額	66,125 千円	62,382 千円
		増 減 率	－	△ 5.7 ％
高度救命救急センター	入 院 収 入	1 日 平 均 患 者 数	51 人	46 人
		1 人 1 日 平 均 単 価	68,265 円	73,587 円
		金 額	1,274,239 千円	1,235,534 千円
		増 減 率	－	△ 3.0 ％
	外 来 収 入	1 日 平 均 患 者 数	8 人	8 人
		1 人 1 日 平 均 単 価	29,502 円	28,050 円
		金 額	63,017 千円	59,467 千円
		増 減 率	－	△ 5.6 ％
内丸メデイカルセンター （医科）	入 院 収 入	1 日 平 均 患 者 数	19 人	21 人
		1 人 1 日 平 均 単 価	73,565 円	78,218 円
		金 額	511,570 千円	599,540 千円
		増 減 率	－	17.2 ％
	外 来 収 入	1 日 平 均 患 者 数	933 人	914 人
		1 人 1 日 平 均 単 価	21,133 円	21,535 円
		金 額	5,264,488 千円	5,216,083 千円
		増 減 率	－	△ 0.9 ％
内丸メデイカルセンター （歯科）	入 院 収 入	1 日 平 均 患 者 数	0 人	0 人
		1 人 1 日 平 均 単 価	－ 円	－ 円
		金 額	60 千円	2,405 千円
		増 減 率	－	3908.3 ％
	外 来 収 入	1 日 平 均 患 者 数	330 人	311 人
		1 人 1 日 平 均 単 価	8,674 円	9,568 円
		金 額	764,279 千円	788,570 千円
		増 減 率	－	3.2 ％
医 療 収 入 合 計			41,192,475 千円	42,236,935 千円
そ の 他 の 医 療 収 入			214,523 千円	210,724 千円
総 合 計			41,406,998 千円	42,447,659 千円

注1) 各病院の入院患者数は在院患者数(24時現在の患者数)に退院患者数を加算した延べ患者数です。

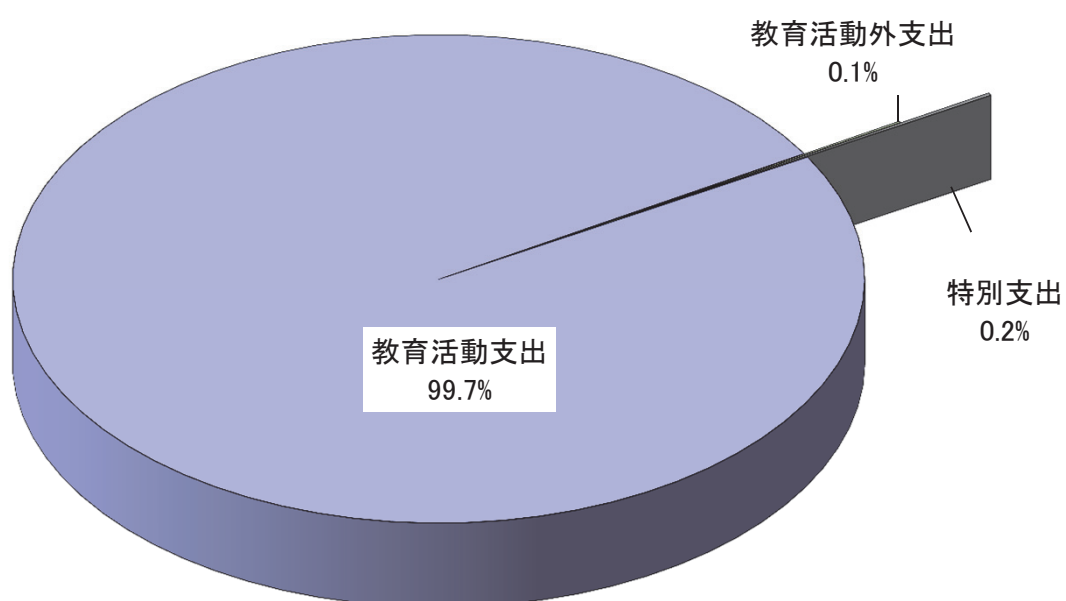
注2) 1人1日平均診療単価は審査過誤減削減後の診療単価です。

8. 令和6年度事業活動収支構成比率

〔事業活動収入〕

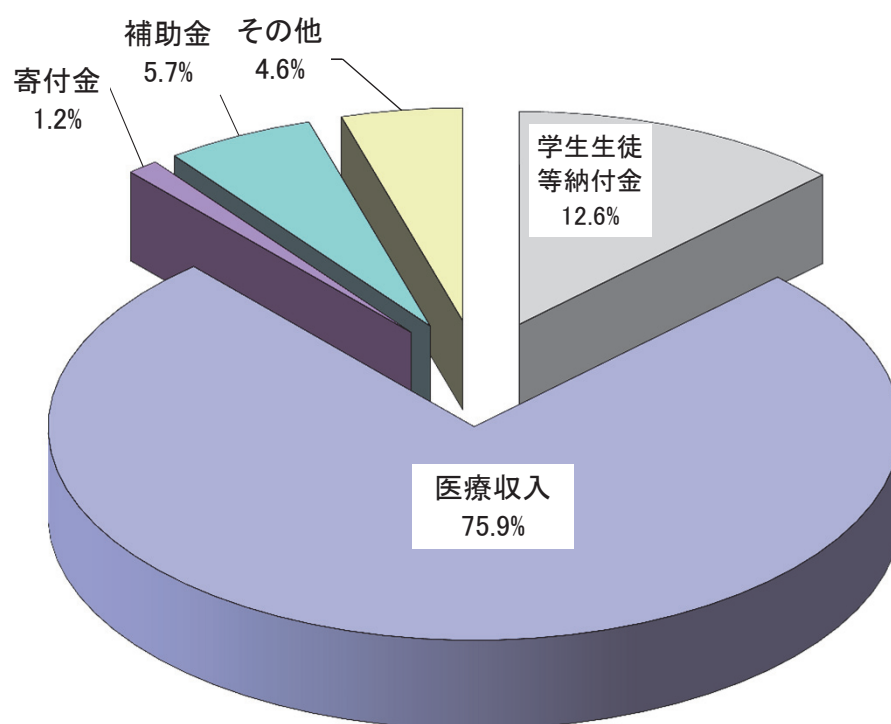


〔事業活動支出〕

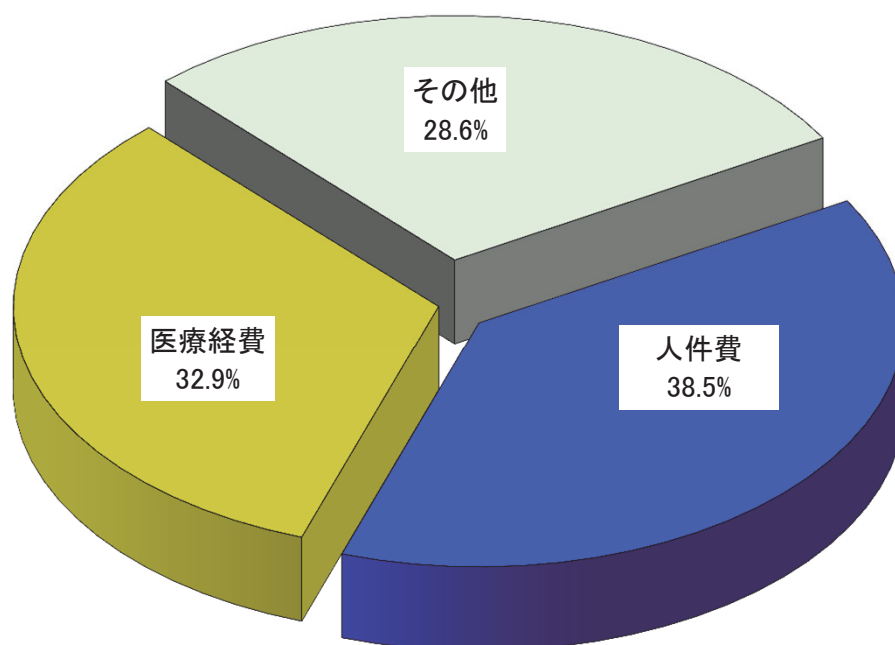


9. 令和6年度教育活動収支構成比率

〔教育活動収入〕



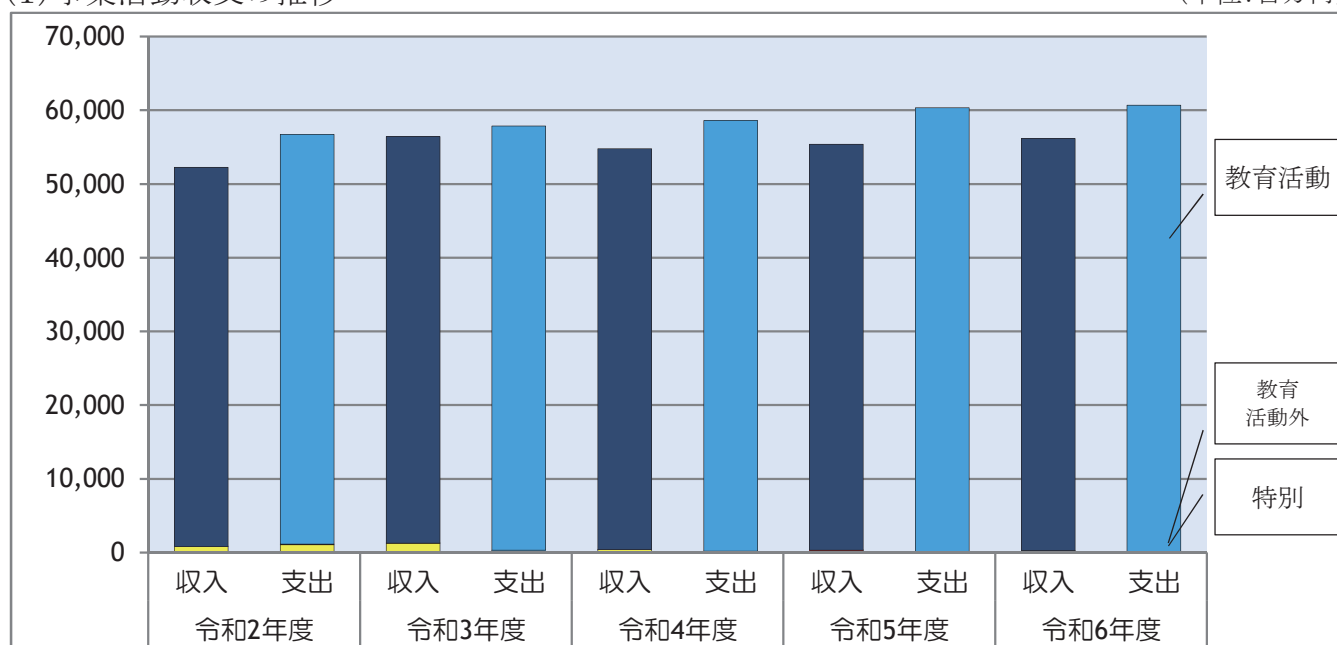
〔教育活動支出〕



10. 経年比較

(1) 事業活動収支の推移

(単位:百万円)



< 事業活動収入 >

(単位:百万円)

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動収入	51,424	55,179	54,368	55,049	55,894
教育活動外収入	4	3	6	9	24
特別収入	849	1,250	411	317	242
事業活動収入計	52,277	56,434	54,787	55,377	56,160

※百万円未満切捨てのため、合計が計算上一致しない場合があります。以降も同様となります。

【構成比率】

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動収入	98.4%	97.8%	99.2%	99.4%	99.5%
教育活動外収入	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
特別収入	1.6%	2.2%	0.8%	0.6%	0.5%
事業活動収入計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

< 事業活動支出 >

(単位:百万円)

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動支出	55,612	57,554	58,449	60,208	60,554
教育活動外支出	77	76	71	65	59
特別支出	1,048	236	100	82	98
事業活動支出計	56,738	57,868	58,621	60,356	60,712

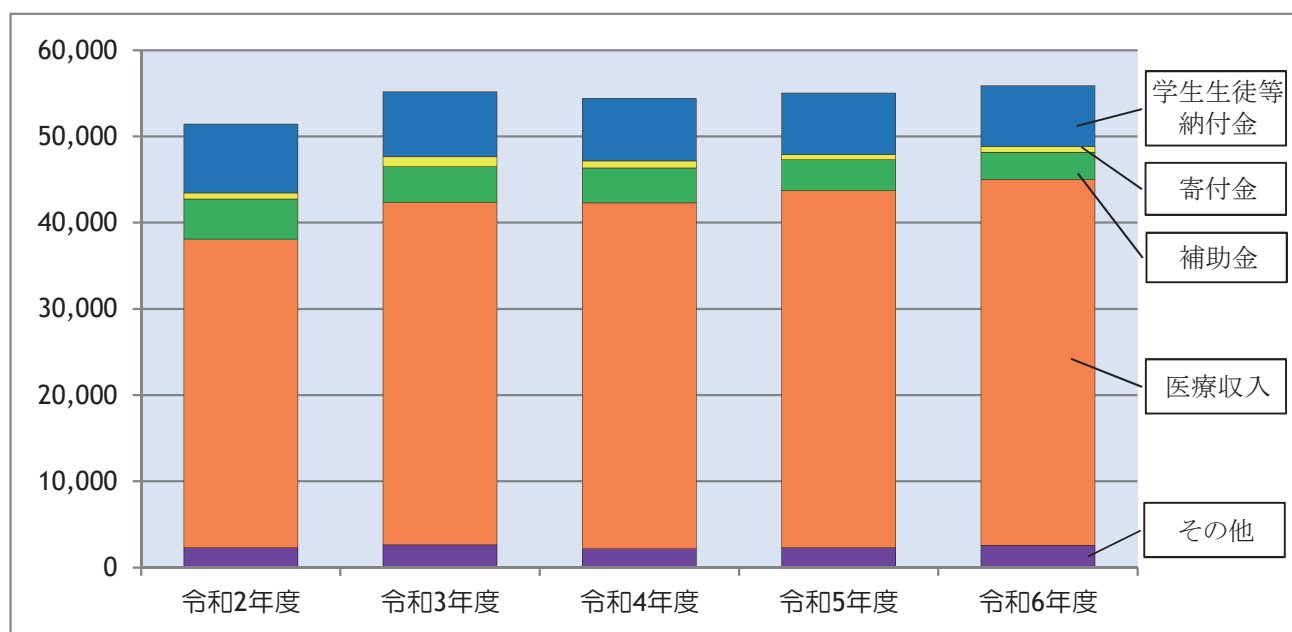
【構成比率】

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動支出	98.1%	99.5%	99.7%	99.8%	99.7%
教育活動外支出	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
特別支出	1.8%	0.4%	0.2%	0.1%	0.2%
事業活動支出計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 教育活動収支の推移

①教育活動収入の推移

(単位:百万円)



<教育活動収入>

(単位:百万円)

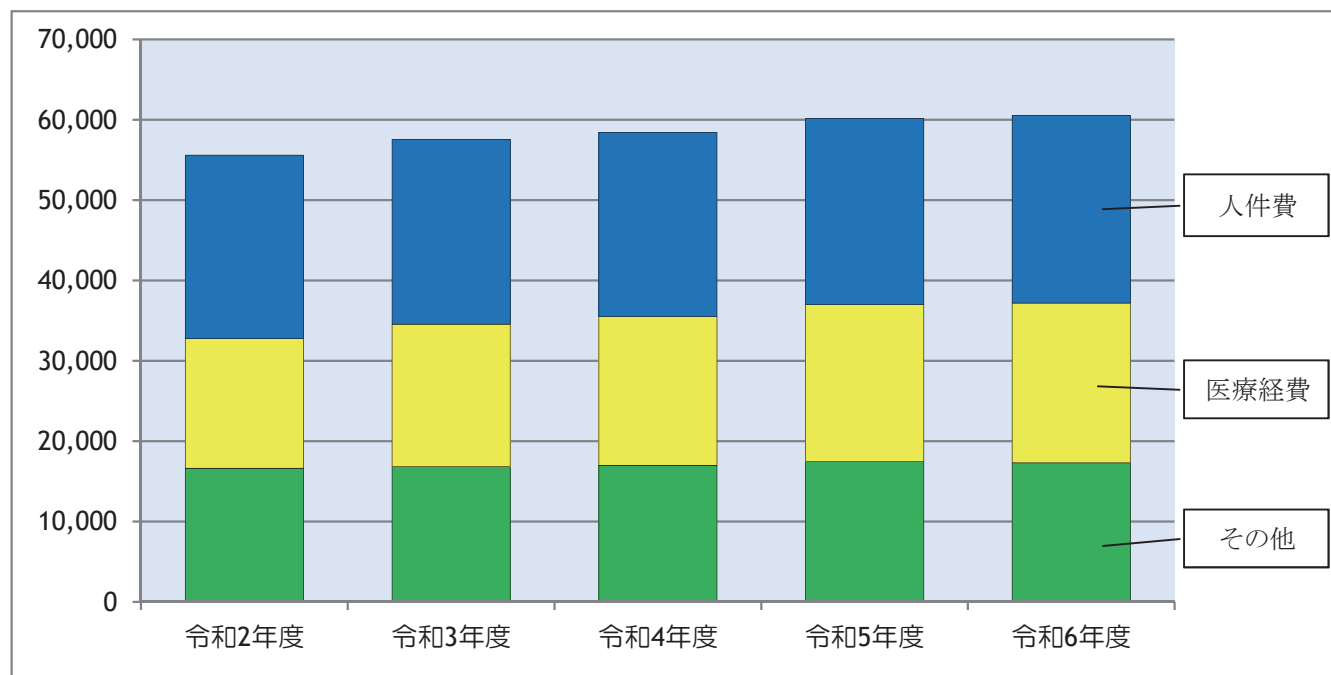
科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金	7,962	7,530	7,215	7,152	7,046
寄付金	726	1,135	795	579	665
経常費等補助金	4,630	4,191	4,067	3,589	3,162
付随事業収入	1,207	1,312	1,184	1,260	1,297
医療収入	35,753	39,672	40,070	41,406	42,447
雑収入他	1,144	1,337	1,035	1,060	1,274
教育活動収入合計	51,424	55,179	54,368	55,049	55,894

【構成比率】

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金	15.5%	13.6%	13.3%	13.0%	12.6%
寄付金	1.4%	2.1%	1.5%	1.1%	1.2%
経常費等補助金	9.0%	7.6%	7.5%	6.5%	5.7%
付随事業収入	2.4%	2.4%	2.2%	2.3%	2.3%
医療収入	69.5%	71.9%	73.6%	75.2%	75.9%
雑収入他	2.2%	2.4%	1.9%	1.9%	2.3%
教育活動収入合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②教育活動支出の推移

(単位:百万円)



<教育活動支出>

(単位:百万円)

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費	22,853	22,966	22,935	23,191	23,340
教育研究経費	29,211	30,959	32,134	33,524	33,388
医療経費	16,124	17,704	18,504	19,562	19,895
一般教育研究経費	13,087	13,255	13,630	13,962	13,493
管理経費	3,543	3,620	3,366	3,490	3,821
徴収不能額	4	8	11	2	3
教育活動支出計	55,612	57,554	58,449	60,208	60,554

【構成比率】

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費	41.1%	39.9%	39.2%	38.5%	38.6%
教育研究経費	52.5%	53.8%	55.0%	55.7%	55.1%
医療経費	29.0%	30.8%	31.7%	32.5%	32.8%
一般教育研究経費	23.5%	23.0%	23.3%	23.2%	22.3%
管理経費	6.4%	6.3%	5.8%	5.8%	6.3%
徴収不能額	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
教育活動支出計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

V 財務の概要

(3) 資金収支の推移

① 収入の推移

(単位: 百万円)

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	7,962	7,530	7,215	7,152	7,046
寄付金収入	775	1,357	890	668	663
補助金収入	5,365	5,030	4,315	3,684	3,363
資産売却収入	23	0	0	29	0
付随事業・収益事業収入	1,207	1,312	1,184	1,260	1,297
医療収入	35,753	39,672	40,070	41,406	42,447
受取利息・配当金収入	4	3	6	9	24
雑収入他	1,144	1,338	1,037	1,112	1,274
長期借入金収入	0	0	0	0	0
短期借入金収入	0	0	0	0	0
前受金収入	1,448	1,333	1,489	1,428	1,410
その他の収入	8,370	9,716	10,267	15,274	10,163
資金収入調整勘定	△ 10,409	△ 10,890	△ 10,942	△ 10,629	△ 10,780
前年度繰越支払資金	9,381	9,233	9,731	8,531	11,839
収入の部合計	61,027	65,638	65,266	69,929	68,751

【構成比率】

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	13.0%	11.5%	11.1%	10.2%	10.2%
寄付金収入	1.3%	2.1%	1.4%	1.0%	1.0%
補助金収入	8.8%	7.7%	6.6%	5.3%	4.9%
資産売却収入	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
付随事業・収益事業収入	2.0%	2.0%	1.8%	1.8%	1.9%
医療収入	58.6%	60.4%	61.4%	59.3%	61.7%
受取利息・配当金収入	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
雑収入他	1.9%	2.0%	1.6%	1.6%	1.9%
長期借入金収入	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
短期借入金収入	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
前受金収入	2.4%	2.0%	2.3%	2.0%	2.1%
その他の収入	13.7%	14.8%	15.7%	21.8%	14.8%
資金収入調整勘定	△ 17.1%	△ 16.6%	△ 16.8%	△ 15.2%	△ 15.7%
前年度繰越支払資金	15.4%	14.1%	14.9%	12.2%	17.2%
収入の部合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②支出の推移

(単位:百万円)

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	22,793	22,857	22,846	22,738	23,204
教育研究経費支出	23,867	25,559	26,999	28,133	28,073
医療経費支出	16,144	17,693	18,602	19,493	19,862
一般教育研究経費支出	7,723	7,866	8,397	8,640	8,211
管理経費支出	3,028	3,180	2,977	3,102	3,435
借入金等利息支出	77	76	71	65	59
借入金等返済支出	0	1,155	1,540	1,540	1,540
施設関係支出	442	612	48	97	234
設備関係支出	1,405	859	961	1,252	626
資産運用支出	500	500	500	300	300
その他の支出	3,660	4,640	4,299	4,357	4,226
予備費	0	0	0	0	0
資金支出調整勘定	△ 3,982	△ 3,535	△ 3,508	△ 3,497	△ 3,195
翌年度繰越支払資金	9,233	9,731	8,531	11,839	10,245
支出の部合計	61,027	65,638	65,266	69,929	68,751

【構成比率】

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	37.4%	34.8%	34.9%	32.6%	33.8%
教育研究経費支出	39.1%	39.0%	41.3%	40.3%	40.9%
医療経費支出	26.4%	27.0%	28.4%	27.9%	28.9%
一般教育研究経費支出	12.7%	12.0%	12.9%	12.4%	12.0%
管理経費支出	5.0%	4.8%	4.6%	4.4%	5.0%
借入金等利息支出	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
借入金等返済支出	0.0%	1.8%	2.4%	2.2%	2.2%
施設関係支出	0.7%	0.9%	0.1%	0.1%	0.3%
設備関係支出	2.3%	1.3%	1.5%	1.8%	0.9%
資産運用支出	0.8%	0.8%	0.8%	0.4%	0.4%
その他の支出	6.0%	7.1%	6.6%	6.2%	6.1%
予備費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
資金支出調整勘定	△ 6.5%	△ 5.4%	△ 5.4%	△ 5.0%	△ 4.6%
翌年度繰越支払資金	15.1%	14.8%	13.1%	16.9%	14.9%
支出の部合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

V 財務の概要

(4) 貸借対照表の推移

①資産の推移

(単位:百万円)

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定資産	105,453	101,560	97,423	88,544	83,991
有形固定資産	97,096	92,721	88,100	83,734	78,893
土地	10,347	10,347	10,366	10,348	10,348
建物	67,372	64,815	61,886	58,930	56,298
その他の有形固定資産	19,377	17,556	15,848	14,456	12,247
特定資産	8,103	8,603	9,104	4,604	4,904
その他の固定資産	253	235	219	204	193
流動資産	19,193	20,101	19,182	21,953	20,538
現金預金	9,233	9,731	8,531	11,839	10,245
その他の流動資産	9,960	10,369	10,651	10,114	10,293
資産の部合計	124,646	121,661	116,606	110,498	104,530

②負債の推移

(単位:百万円)

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定負債	32,399	30,960	29,605	28,669	27,191
長期借入金	18,845	17,305	15,765	14,225	12,685
その他の固定負債	13,554	13,655	13,840	14,444	14,506
流動負債	7,150	7,038	7,172	6,978	7,040
短期借入金	1,155	1,540	1,540	1,540	1,540
その他の流動負債	5,995	5,498	5,632	5,438	5,500
負債の部合計	39,550	37,999	36,777	35,648	34,231

③純資産の推移

(単位:百万円)

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
基本金	133,378	134,777	134,973	132,417	134,113
第1号基本金	125,051	126,249	126,245	127,714	129,410
第2号基本金	4,400	4,600	4,800	0	0
第3号基本金	403	403	404	404	404
第4号基本金	3,524	3,524	3,524	4,299	4,299
繰越収支差額	△ 48,281	△ 51,114	△ 55,145	△ 57,567	△ 63,815
純資産の部合計	85,096	83,662	79,828	74,849	70,298

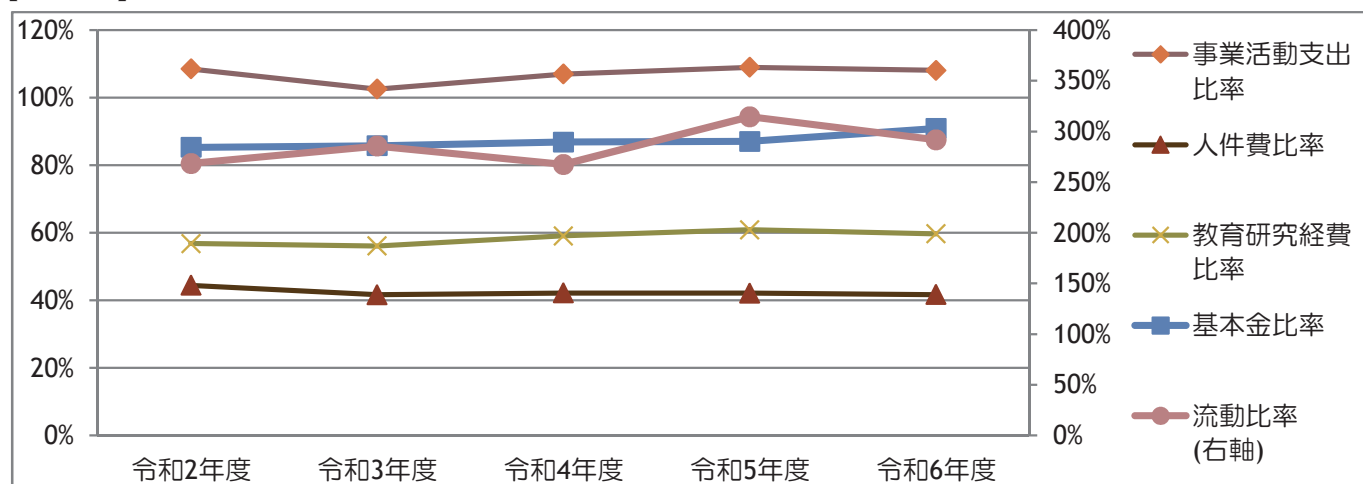
④負債及び純資産の部合計推移

(単位:百万円)

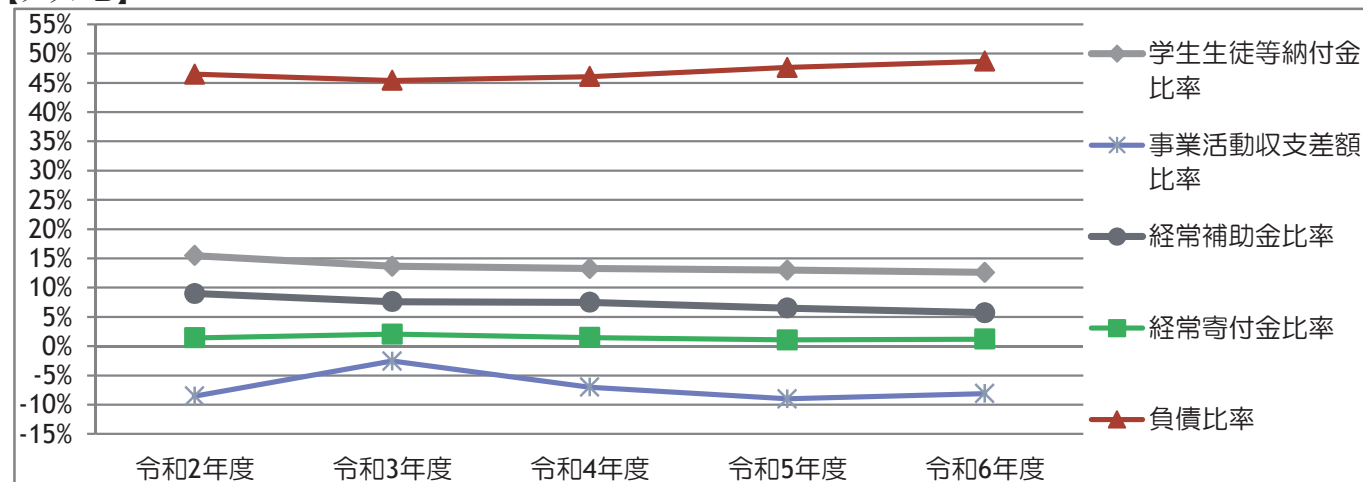
科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
負債及び純資産の部合計	124,646	121,661	116,606	110,498	104,530

(5) 主要財務比率の推移

【グラフA】



【グラフB】



※経常収入＝教育活動収入+教育活動外収入

主要財務比率		計算式	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
グラフA	1 事業活動支出比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}}$	108.5%	102.5%	107.0%	109.0%	108.1%
	2 人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	44.4%	41.6%	42.2%	42.1%	41.7%
	3 教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	56.8%	56.1%	59.1%	60.9%	59.7%
	4 基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	85.3%	85.8%	86.9%	87.1%	90.9%
	5 流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	268.4%	285.6%	267.4%	314.6%	291.7%
グラフB	6 学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	15.5%	13.6%	13.3%	13.0%	12.6%
	7 事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△8.5%	△2.5%	△7.0%	△9.0%	△8.1%
	8 経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収入の補助金}}{\text{経常収入}}$	9.0%	7.6%	7.5%	6.5%	5.7%
	9 経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収入の寄付金}}{\text{経常収入}}$	1.4%	2.1%	1.5%	1.1%	1.2%
	10 負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	46.5%	45.4%	46.1%	47.6%	48.7%

11. 学校法人会計の特徴について

1. 学校法人会計の特徴と企業会計との違い

学校法人は、永続的な教育研究活動の維持向上を主目的とした非営利組織であり、国や地方公共団体より補助を受けている公共性の高い組織でもあります。そのため、昭和46年に制定された「学校法人会計基準」に則り、営利の追求を目的とする企業会計とは異なる独自の会計処理が義務付けられています。

	学 校 法 人	企 業
組織の目的	永続的な教育研究活動の維持向上 (非営利組織)	利益の獲得、出資者への還元 (営利組織)
会計処理	学校法人会計基準	企業会計原則

2. 学校法人会計における作成書類

学校法人会計基準では、基本的な会計処理のルールについては複式簿記や企業会計の原則を踏襲しておりますが、財務書類については学校法人会計独自の書類作成が必要となります。

①事業活動収支計算書（企業会計：損益計算書）

当該会計年度の収入と支出の内容と均衡状態を明確にし、学校法人の経営状態を表す財務書類です。

企業会計における損益計算書に相当しますが、企業の経営成績を示すために当該会計年度の収益と費用を計算し損益管理を行うことを目的とする損益計算書に対し、事業活動収支計算書では、利益追求を目的としていない学校法人の諸活動を損益ではなく収支として表示し、基本金(※)への組入額を加味した収支の差額によって経営状態を表すことを目的としています。

なお、資金収支計算書で計上されない現物寄付や減価償却等の現預金が増減しない諸活動については計上されますが、負債となる借入金や前受金（翌年度に計上すべき収入の入金分）、固定資産取得に係る支出等については計上されません。

※基本金

学校法人が諸活動を行うにあたっての必要な資産を継続的に維持するために組み入れた金額です。

企業会計における資本金に類似していますが、出資者の出資額を表す資本金に対し、基本金は、学校法人設立時に受け入れた寄付金や設立後の事業活動で獲得した自己資金により、基本金組入対象の資産を取得する金額を表します。

事業活動収支の基本金組入前当年度収支差額は、当年度の収支状況を示しますが、基本金組入対象資産は当年度に獲得した自己資金だけで取得するものではなく、学校法人が将来のために準備した積立金なども取得の原資となります。

そのため、基本金組入後の当年度収支差額によって示された経営状態は、資金収支計算書および貸借対照表とあわせて評価する必要があります。

②資金収支計算書（企業会計：キャッシュフロー計算書）

全ての収入及び支出の内容と資金の流れを明らかにする財務書類です。

企業会計におけるキャッシュフロー計算書に相当しますが、資金の獲得能力や支払能力の分析を目的とするキャッシュフロー計算書に対し、資金収支計算書では、当該会計年度の諸活動における全ての収支の内容及び支払資金の顛末を明らかにすることを目的としています。

なお、現預金が増減する諸活動全てが収支として計上されますが、現物寄付や減価償却等の現預金が増減しない諸活動については計上されません。

③貸借対照表（企業会計：貸借対照表）

当該年度末時点での学校法人の資産、負債、純資産（資産－負債）の額によって財政状況を明らかにするための財務書類です。

事業活動収支計算書及び資金収支計算書は単年度の収支状況を表していますが、貸借対照表は今までの財政活動における累計額を表します。

なお、企業会計における貸借対照表とほぼ同様の様式となっていますが、企業会計では資本金を表示する部分について、学校法人会計では基本金を表示するといった違いがあります。

	学 校 法 人	企 業
財務書類	事業活動収支計算書	損益計算書
	資金収支計算書	キャッシュフロー計算書
	貸借対照表	貸借対照表

①事業活動収支計算書の科目説明

教育活動収支		
事業活動収入の部		
学 生 生 徒 等 納 付 金	授業料、入学金等、学生等から納入されたもの	
手 数 料	入学検定料、試験料、各種証明書発行手数料、学位審査料等	
寄 付 金	金銭その他資産を寄贈者から贈与されたもので補助金とならないもの	
経 常 費 等 補 助 金	国または地方公共団体からの補助金	
国 庫 補 助 金	国から交付される補助金	
地 方 公 共 団 体 補 助 金	地方公共団体から交付される補助金	
付 随 事 業 収 入	外部からの受託を受けた試験、研究、事業等による収入	
医 療 収 入	医療に関わる収入	
雑 収 入	施設設備利用料、土地家屋賃貸料、退職金財団交付金等	
教 育 活 動 収 入 計	教育活動収入科目の合計額	
事業活動支出の部		
人 件 費	教職員、理事、監事に支給する本俸、期末手当等の諸手当、所定福利費、退職金、退職給与引当金への繰入額等	
教 育 研 究 経 費	教育研究のために支出する経費	
医 療 経 費	医薬品費、医療材料費、給食材料費等、医療のために支出する経費	
一 般 教 育 研 究 経 費	医療経費以外の教育研究経費	
管 理 経 費	総務、人事、財務、学生・生徒募集活動等、教育・研究活動以外の支出	
徴 収 不 能 額	債権について徴収不能となった額	
教 育 活 動 支 出 計	教育活動支出科目の合計額	
教育活動外収支		
事業活動収入の部		
受 取 利 息 ・ 配 当 金	預金利息および株式の配当金	
教 育 活 動 外 収 入 計	教育活動外収入科目の合計額	
事業活動支出の部		
借 入 金 等 利 息	借入金の支払利息	
教 育 活 動 外 支 出 計	教育活動外支出科目の合計額	
経 常 収 支 差 額	法人の経常的な活動である、教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合算した額	
特別収支		
事業活動収入の部		
資 産 売 却 差 額	資産の売却で、代価が帳簿残高を超えたときの超過額	
そ の 他 の 特 別 収 入	施設設備の取得に係る寄付金・補助金等の収入、過年度決算の誤りによる収入等	
特 別 収 入 計	特別収入科目の合計額	
事業活動支出の部		
資 産 処 分 差 額	資産の売却で代価が帳簿価格を下回った時の差額	
そ の 他 の 特 別 支 出	過年度決算の誤りによる支出等	
特 別 支 出 計	特別支出科目の合計額	
基本金組入前当年度収支差額	当該年度の事業活動収入から事業活動支出を引いた収支差額	
基 本 金 組 入 額 合 計	学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、収入のうちから組入れる額	
当 年 度 収 支 差 額	基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を差引した合計額	
前 年 度 繰 越 収 支 差 額	前年度まで繰り越された、当年度収支差額の累計額	
翌 年 度 繰 越 収 支 差 額	前年度繰越収支差額に当年度収支差額を足した、翌年度に繰り越される収支差額	

②資金収支計算書の科目説明

収入の部	
科 目	摘 要
学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	授業料、入学金等、学生等から納入されたもの
手 数 料 収 入	入学検定料、試験料、各種証明書発行手数料、学位審査料等
寄 付 金 収 入	金銭を寄贈者から贈与されたもので補助金とらないもの
補 助 金 収 入	国または地方公共団体からの補助金
国 庫 補 助 金 収 入	国から交付される補助金
地 方 公 共 団 体 補 助 金 収 入	地方公共団体から交付される補助金
資 産 売 却 収 入	資産の売却収入
付 随 事 業 収 入	外部からの受託を受けた試験、研究、事業等による収入
医 療 収 入	医療に関わる収入
受 取 利 息 ・ 配 当 金 収 入	預金利息および株式の配当金
雑 収 入	施設設備利用料、土地家屋賃貸料、退職金財団交付金等
借 入 金 等 収 入	借入金等の収入
前 受 金 収 入	翌年度入学の学生等に係る学納金収入等
そ の 他 の 収 入	上記の各収入以外の収入
資 金 収 入 調 整 勘 定	当会計年度の諸活動に対する収入で前会計年度以前に支払資金収入になったもの、 当会計年度の諸活動に対する収入で翌会計年度以降に支払資金を受入れるもの
前 年 度 繰 越 支 払 資 金	期首の現預金残高
収 入 の 部 合 計	各収入科目の合計額
支出の部	
科 目	摘 要
人 件 費 支 出	教職員、理事、監事に支給する本俸、期末手当等の諸手当、所定福利費、退職金等
教 育 研 究 経 費 支 出	教育研究のために支出する経費
医 療 経 費 支 出	医薬品費、医療材料費、給食材料費等、医療のために支出する経費
一 般 教 育 研 究 経 費 支 出	医療経費以外の教育研究経費
管 理 経 費 支 出	総務、人事、財務、学生・生徒募集活動等、教育・研究活動以外の支出
借 入 金 等 利 息 支 出	借入金等の支払利息
借 入 金 等 返 済 支 出	借入金等の返済支出
施 設 関 係 支 出	土地、建物、構築物、建設仮勘定等の支出
設 備 関 係 支 出	教育研究用機器備品、管理用機器備品、図書等の支出
資 産 運 用 支 出	有価証券の取得、引当特定資産の繰入支出等
そ の 他 の 支 出	上記の各支出以外の支出
資 金 支 出 調 整 勘 定	当該会計年度の諸活動に対応する支出で前会計年度以前に資金を支払ったもの、 当会計年度の諸活動に対応する支出で翌会計年度以後に資金が支払うもの
翌 年 度 繰 越 支 払 資 金	期末の現預金残高
支 出 の 部 合 計	各支出科目の合計額

③貸借対照表の科目説明

資産の部	
科 目	摘 要
固 定 資 産	有形固定資産、特定資産及びその他の固定資産
有 形 固 定 資 産	土地、建物、構築物、機器備品等の形が有る資産
土 地	校舎敷地、運動場等
建 物	校舎、体育館、建物に附属する電気設備、空調設備等
その他の有形固定資産	土地、建物以外の有形固定資産
特 定 資 産	施設の拡充等に係る預金等の用途を特定する資産
そ の 他 の 固 定 資 産	有価証券やソフトウェア、敷金等の形が無い資産
流 動 資 産	資産のうち、1年以内に現金化、費用化できるもの
現 金 預 金	現金及びいつでも引き出すことができる預貯金
そ の 他 の 流 動 資 産	現金預金以外の流動資産
資 産 の 部 合 計	固定資産と流動資産の合計額
負債の部	
科 目	摘 要
固 定 負 債	長期借入金、長期未払金等の支払期限が1年を超える負債
長 期 借 入 金	返済期限が1年を超える借入金
そ の 他 の 固 定 負 債	長期借入金以外の固定負債
流 動 負 債	短期借入金、未払金等の支払期限が1年以内である負債
短 期 借 入 金	返済期限が1年以内である借入金
そ の 他 の 流 動 負 債	短期借入金以外の流動負債
負 債 の 部 合 計	固定負債と流動負債の合計額
純資産の部	
科 目	摘 要
基 本 金	学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして組み入れた金額
第 1 号 基 本 金	固定資産に対応する基本金
第 2 号 基 本 金	施設の拡充に対応する基本金
第 3 号 基 本 金	奨学資金に対応する基本金
第 4 号 基 本 金	恒常的な支払資金に対応する基本金
繰 越 収 支 差 額	繰り越される収支差額
翌 年 度 繰 越 収 支 差 額	翌年度に繰り越される収支差額
純 資 産 の 部 計	基本金と繰越収支差額の合計額
科 目	摘 要
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	負債の部と純資産の部の合計額



岩手医科大学

〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町医大通一丁目1番1号

Tel 019-651-5111（代表）

www.iwate-med.ac.jp

発行 令和7年5月26日 岩手医科大学 企画部企画調整課